

❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に 取り組む領域	❖コクヨの取り組みと、 その歩み	❖未来と社会のための 取り組み	❖コクヨのさまざまな 取り組み	❖2020年 コクヨの 取り組みのご紹介	❖トップメッセージ
❖コクヨのCSR	❖コクヨの マテリアリティ	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## コクヨ CSR 憲章

コクヨグループは、誠実な事業活動を展開し、収益性を高めるとともに、社会から必要とされる企業になります。法令などの遵守はもとより、企業市民としての社会的責任を果たすことにより、お客様・投資家をはじめ、すべてのステークホルダーからの信頼を獲得し、事業の継続性の維持に努めます。

### お客様

- 1 すべての商品・サービスにおいて現状に満足することなくより高い安全性と品質を追求し続けていきます。
- 2 新しい商品・サービスを開発し、事業を通じて社会を革新し続ける企業を目指します。

### 地域社会

- 1 国または地域の文化や習慣を尊重し、その発展に寄与するため、地域社会へ積極的に参画し、信頼される「良き企業市民」を目指します。

### 環境保全

- 1 地球環境問題を、全世界共通の課題と捉え、その解決に全従業員が英知を結集し、全社を挙げて行動を起こします。
- 2 エコプロダクツの開発において、そのライフサイクル全体での環境負荷低減に向けて、新たな環境技術の導入やグリーン調達に取り組みます。
- 3 低炭素社会にふさわしい働き方や空間を提案することで、ワークスタイルの変革をもたらし、社会全体の環境負荷低減に貢献していきます。

### 企業活動

- 1 公正・透明・自由な競争ならびに適正な取引を行うとともに、政治・行政との健全かつ正常な関係を保ちます。
- 2 取引先様との関係は常に公正であり、また信用される企業であるために、互いに協力し合い、成長していくことを目指します。
- 3 企業価値を高めることは株主への責務と認識し、社会から信頼される透明かつ健全な企業経営を堅持します。

### 人権尊重

- 1 あらゆる企業活動の場面において、関係するすべての人々の人権を尊重し、差別のない職場環境を目指すとともに児童労働・強制労働を認めません。
- 2 従業員一人ひとりの個性や異なる発想・価値を受け入れ、多様な人財がその能力を十分に発揮し、成長できる企業を目指します。

❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に 取り組む領域	❖コクヨの取り組みと、 その歩み	❖未来と社会のための 取り組み	❖コクヨのさまざまな 取り組み	❖2020年 コクヨの 取り組みのご紹介	❖トップメッセージ
❖コクヨのCSR	❖コクヨの マテリアリティ	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

# Contents

● コクヨCSR憲章	01	● 社会	39
● 会社概要	03	人権尊重	39
● コクヨが主に取り組む領域	04	働き方改革	40
● コクヨの取り組みと、その歩み	06	ダイバーシティの推進	42
● 未来と社会のための取り組み	10	人材マネジメント	44
● コクヨのさまざまな取り組み	11	社員とのコミュニケーション	47
● 2020年 コクヨの取り組みのご紹介	12	社員の安全	48
● トップメッセージ	14	社員の健康	50
● コクヨのCSR	16	取引先との取り組み	53
● コクヨのマテリアリティ	21	お客様への安心・安全の提供	56
● 環境	24	お客様との対話	60
環境経営マネジメント	24	社会貢献	62
地球温暖化防止対策	29	新しい価値の提供	66
省資源・リサイクル対策	31	● ガバナンス	72
法順守と汚染の防止	32	コンプライアンスの推進	72
環境に配慮した製品・サービスの開発	33	リスクマネジメント	73
生物多様性・環境コミュニケーションの推進	35	● 社外からの評価	75
		格付けや評価	75
		「CSR報告書2020」アンケート結果	79
		● 対照表	80
		GRI Standards対照表	80
		ISO26000	87

## 対象期間

2020年1月1日から2020年12月31日

## 発刊時期

報告書発刊：2021年5月  
次回発刊予定：2022年4月  
前回発刊：2020年5月

## 対象範囲

本報告書における対象範囲はコクヨ(株)と連結子会社20社を基本とし、一部の活動実績については、関連会社を含んでいます。

## 参考ガイドライン

・ISO26000  
・環境省「環境報告ガイドライン2018年版」  
・GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版」

❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に 取り組む領域	❖コクヨの取り組みと、 その歩み	❖未来と社会のための 取り組み	❖コクヨのさまざまな 取り組み	❖2020年 コクヨの 取り組みのご紹介	❖トップメッセージ
❖コクヨのCSR	❖コクヨの マテリアリティ	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

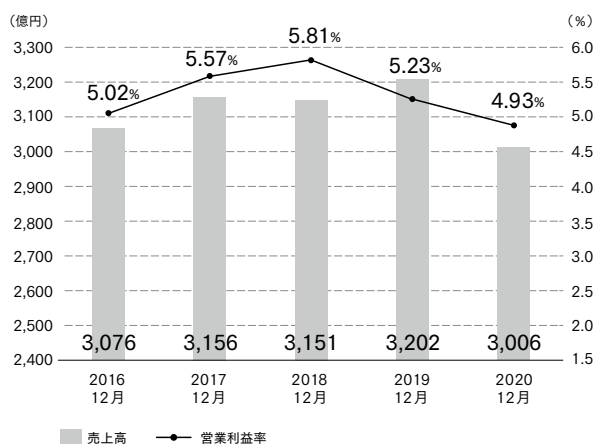
## 会社概要

Date

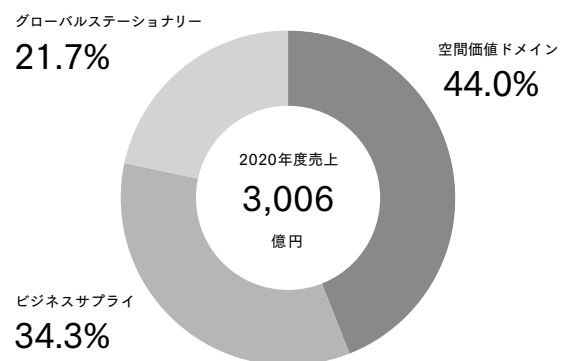
正式社名	コクヨ株式会社
英文社名	KOKUYO Co.,Ltd.
本社所在地	〒537-8686 大阪市東成区大今里南6丁目1番1号 TEL:(06)6976-1221 (代表)
従業員数	連結 6,882名、単体 2,241名 (2020年12月末現在)
上場市場	東京証券取引所 市場第一部
資本金	158億円
売上高	3,006億円 (連結 2020年1月1日～2020年12月31日)
事業内容	文房具の製造・仕入れ・販売、オフィス家具の製造・仕入れ・販売、 空間デザイン・コンサルテーションなど

## 財務データ推移グラフ

売上高・営業利益率



連結売上高構成比



※売上高比率は「外部顧客への売上高」で算出しています。



❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に 取り組む領域	❖コクヨの取り組みと、 その歩み	❖未来と社会のための 取り組み	❖コクヨのさまざまな 取り組み	❖2020年 コクヨの 取り組みのご紹介	❖トップメッセージ
❖コクヨのCSR	❖コクヨの マテリアリティ	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

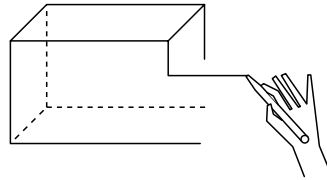
## コクヨが主に取り組む領域

Date . . . . .

コクヨは3つの事業領域を設定しています。  
これらを軸に据え、お客様に提供する価値を新たに広げていくことに挑戦していきます。

### 空間価値ドメイン

働き方の変化に合わせて、  
「はたらく」人を思い  
「空間」を考え、提案します。

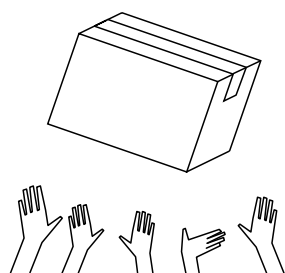


さらに多様化するワークスタイルのニーズに  
向き合い、これからの働き方、働く人の暮らし  
方までを考え、モノとコト、サービスを含  
めた事業を展開します。お客様の「はたらく」  
「まなぶ」「くらす」が、より創造的に、快適  
になる空間をご提案してまいります。

オフィス・医療機関・教育機関・官公庁などの家具の  
製造／納品／組立て、それぞれの空間設計／構築、働  
き方コンサルティング、インテリア家具の製造／輸入  
／販売（アクタス）など

## ビジネスサプライドメイン

文具からオフィス家具まで  
「使う」快適さのために  
「届ける」を考えます。

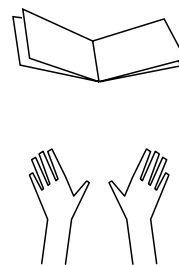


オフィスで使うものを「トータル」でお届けできるのはコクヨだから。オフィス用品運用の効率化と販売店さまの受発注業務の効率化をサポートいたします。ツールをストレスなくお使いいただくための、サービスです。

個人・法人向けの事務用品通販「カウネット」、文房具店 web 発注システム「KiSPA」、オフィスでの文具・事務用品の購買システムの提案・支援など

## グローバルステーションナリードメイン

国内外の「はたらく」「まなぶ」  
「くらす」を思い、創造性を  
発揮できる文具を提供します。



文具が使う人の創造性をかき立てる。文具を通して「はたらく」「まなぶ」「くらす」が、もっと豊かになる。モノを通じサービスをお届けする事業。国内と国外での文具の製造販売をはじめ、多様化するニーズにおこたえします。

滋賀、鳥取、中国、インドなど国内外における文具の製造販売、創作絵本シリーズ・創作ツールの開発販売、帳票電子化サービス@Tovas など

❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に 取り組む領域	❖コクヨの取り組みと、 その歩み	❖未来と社会のための 取り組み	❖コクヨのさまざまな 取り組み	❖2020年 コクヨの 取り組みのご紹介	❖トップメッセージ
❖コクヨのCSR	❖コクヨの マテリアリティ	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## コクヨの取り組みと、その歩み

Date

1905		1914		1959		1965	
1908		1932		1960		1966	
1913		1956		1964		1975	
1905	黒田善太郎が和式帳簿の表紙を製造する「黒田表紙店」を開業	1914	店名を「黒田国光堂」と改称 伝票、仕切書、複写簿、便箋の製造を開始	1959	測量野帳発売	1965	スチールデスク発売
1908	和帳の製造を開始	1932	色紙付書翰箋発売	1960	オフィス家具の製造販売を開始 ファイリングキャビネット発売	1966	事務用回転イス発売
1913	洋式帳簿の既製品化を開始	1956	フラットファイル発売	1961	社名を「コクヨ株式会社」に変更	1969	日本初のライブオフィス誕生
				1964	スクラップブック発売	1975	キャンパスノート発売 教育施設用家具の製造を開始

Date

1981		2003		2009		2017	
1983		2005		2015		2018	
2000		2008		2016		2019	
1981	「ロングランデスク 〈くるくるメカ〉」発売	2003	コクヨKハート設立 カドケン発売	2009	「針なしステープラー 〈ハリナックス〉」発売	2017	ショップ&カフェ THINK OF THINGS オープン
1983	ファイルボックス-FS発売	2004	分社化 持ち株会社制へ	2011	インドのCamlin Limited の株式取得、 「コクヨカムリン」に 社名変更		オフィスチェア「ing」 発売
1996	海外現地法人を設立し、 文房具・家具の製造、 販売、輸出入業務を開始	2005	創業100年、 コーポレートロゴ一新	2013	カウコレ誕生	2018	接着用品ブランド 「GLOO」発売
1998	ユニバーサルデザインへの 取り組み開始		テープのり「ドットライナー」 発売	2015	事業再統合 家具ブランド 「DAYS OFFICE」発売	2019	IoT文具「しゅくだいや る気ペン」発売
2000	カウネット設立 ユニバーサルデザインの画 紙「プニョプニョピン」発売	2006	株式会社アクタスへ 資本参加	2016	「モバイルバッグ 〈mo・baco〉」発売		
2002	コクヨデザインアワード 開始	2008	エコバツマークの 取り組み開始				
		2008	絵本シリーズ「かおノ ート」を発売				

## キャンパスノートの進化

使う人のニーズに合わせて、  
絶え間なく進化してきました。

1975



### 初代キャンパスノート

1959年、当時主流であった糸とじとは全く違う「無線とじ」を製品化。全国の学生向けに初代キャンパスノートを発売しました。

1983



### 2代目キャンパスノート

表紙で罫内容が分かるようA罫・B罫の英文字と罫線イメージを大胆に表示。新しくロゴを作成し、親しみやすく飽きのこないデザインで社会人にも定着しました。

## ライブオフィスの実践と変遷

モノづくりと空間構築、  
ワークスタイルの研究の成果を実践し、  
ショールームとして公開。

1969



### 日本初のライブオフィス

日本初のライブオフィスとして、社員が実際に働く姿が見学できる「生きたショールーム」が誕生しました。

1990s



### 大規模フリーアドレスオフィス

デバイスの進化をいち早くキャッチし、固定した自席をもたない「フリーアドレス」を実践しました。

1991



## 3 代目キャンパスノート

過去に類を見ないビビッドな色使いと、縦にロゴを配置するという思い切った変更を行い、とことんデザインにこだわることでさらなる独自性を高めました。

2000



## 4 代目キャンパスノート

お客様の満足度を高めるために、徹底的に材料を研究。絶え間ない努力の結果、最後までノートを使っても破れにくい新クロスの開発に成功しました。

2011



## 5 代目キャンパスノート

背クロスの表面加工を見直すことでペンで書き込みがしやすくなったほか、中紙の原紙の仕様や罫線を変更したことでより線が引きやすく使いやすいノートになりました。

2000s



## 大規模オール無線LAN オフィス

社内どこでも移動して利用できる無線LANシステムを導入。IP携帯電話の活用によるコストダウンも実現しました。

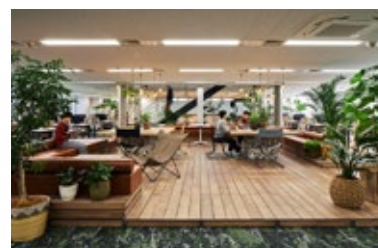
2010s



## クラウドワーク支援オフィス

進化するクラウド支援を活用。チームコミュニケーションを築き、社内との新しいつながり方をつくりだしました。

今とこれから



## 経験拡張オフィス

不確実で急激な社会変化の中、オフィスは「創造性を加速させる場」としての役割が強くなっています。「経験拡張する」という新しい働き方を提案しています。



❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に 取り組む領域	❖コクヨの取り組みと、 その歩み	❖未来と社会のための 取り組み	❖コクヨのさまざまな 取り組み	❖2020年 コクヨの 取り組みのご紹介	❖トップメッセージ
❖コクヨのCSR	❖コクヨの マテリアリティ	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## 未来と社会のための取り組み

Date

これからをつくるアイデアへの支援、これからの環境のための支援も行っています。



### コクヨデザインアワード

2002年にスタートした、使う人の視点で優れた商品デザインを広くユーザーから集めて、商品化をめざすコンペティションです。「カドケシ」などのヒット商品も誕生。近年はプロダクトデザインの国際アワードとして成長しています。



### ReEDEN プロジェクト

コクヨ工業滋賀は、琵琶湖の水質や生物多様性の維持という重要な役割を担うヨシの保全に取り組んでいます。その生産技術を生かし、ヨシ原料のコピー用紙やノートなどを、ReEDEN（リエデン）シリーズとして販売しています。



### 働き方研究

1986年オフィス研究所を開設。関連商品や空間の研究、オフィスコンサルティング活動を開始。研究情報誌「ECIFFO」、ワークスタイル戦略情報メディア「WORKSIGHT」を通じ、情報発信をしています。



### Camel Art Foundation

CAFの主な目的はインドの芸術シーンの底上げを図ること。芸術活動のプラットフォームの構築や展示会の開催などにより、若手芸術家が作品を発表するチャンスやプロの芸術家が名声を高める機会を提供しています。



### 結の森

「結の森」プロジェクトは2006年、高知県の四万十町森林組合とともにスタートし、間伐及び間伐材の有効活用を中心とした森林保全活動に取り組んでいます。



### K ハート&ハートランド

コクヨの障害者雇用は1940年大阪市立聾唖学校（現大阪府立中央聴覚支援学校）の生徒採用に始まり、現在、印刷及び業務受託として特例子会社コクヨKハートと農業法人特例子会社ハートランドとでさまざまな障害を持つ社員の特性に応じた業務を行っています。

❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に 取り組む領域	❖コクヨの取り組みと、 その歩み	❖未来と社会のための 取り組み	❖コクヨのさまざまな 取り組み	❖2020年 コクヨの 取り組みのご紹介	❖トップメッセージ
❖コクヨのCSR	❖コクヨの マテリアリティ	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## コクヨのさまざまな取り組み

Date

より豊かな「はたらく」「まなぶ」「くらす」をかなえるためのコクヨのチャレンジ。



### ビジネスコンシェルジュ

ビジネス版の「コンシェルジュサービス」として、オフィス運営やドキュメントデザインなど生産性向上に繋がる幅広いサービスを展開しています。「一歩先ゆく 気づき・くふう」で、オフィスで働く人に快適な環境を提供していきます。



### メンバー制ワークラウンジ「Creative Lounge MOV」

これからの働き方を実践するメンバー制ワークラウンジ。異文化・異分野の人たちが出会い、お互いのアイデアやリソースを交換しながら新しいムーブメントをつくる、渋谷らしい働き方ができる場所です。



### コクヨの絵本

「親子のコミュニケーション」と「創造力育成」をテーマに、「かおノート」「おしゃれノート」などのワークブックや、「ミックス色鉛筆」「透明くれよん」などの画材を製造・販売しています。



### 防災ソリューション

オフィス環境を熟知しているからこそ「防災」を提案しています。それぞれのオフィスに最適な防災用品を選び出し、その中で、足りないもの、不便なものは一から研究を行い、工夫や改良を重ねて、ひとつひとつかたちにしています。



### ショップ&カフェ「THINK OF THINGS」

生活と仕事の双方に刺激や発見をもたらす道具という観点で商品を揃えた、コクヨ直営のライフスタイルショップ&カフェです。未来に向けてコクヨが発揮できる価値について考え、創造する場となることを目指しています。



### インテリア&ライフスタイル「ACTUS」

ヨーロッパの輸入モダンインテリアの先駆けとし創業。現在、「衣食住」生活にまつわるすべてのカテゴリーを総合的にご提案するライフスタイルカンパニーとして、お客様に「上質で、丁寧な暮らし」をお届けしています。



❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に 取り組む領域	❖コクヨの取り組みと、 その歩み	❖未来と社会のための 取り組み	❖コクヨのさまざまな 取り組み	❖2020年 コクヨの 取り組みのご紹介	❖トップメッセージ
❖コクヨのCSR	❖コクヨの マテリアリティ	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## 2020年 コクヨの取り組みのご紹介

Date

人を、世界を、未来を考えてさまざまな取り組みを展開しました。



### 飛沫拡散を防止する会議テーブル 「AIRTREIVE (エアトリーブ)」発売

オフィスの会議シーンの会話で生じる飛沫や呼気を吸引し、室内への飛沫拡散を防止する会議テーブル「AIRTREIVE(エアトリーブ)」を発売しました。室内の衛生面での安心感を与えます。



### コクヨデザインアワード 2018 優秀賞 受賞作品「白と黒で書くノート」を商品化

灰色の紙に黒と白の文字を書く「白と黒で書くノート」は、紙の色に対して暗い色の文字と明るい色の文字は同時に読みにくいという「視覚が持つ性質」を利用したノートで、新しい使い心地を提案したことにより同アワードで高い評価を受けました。



### コクヨの公式直販 EC サイト 「KOKUYO Workstyle Shop」 オープン

コクヨの公式直販 EC サイト「KOKUYO Workstyle Shop」では、約 4,000 アイテムを個人で購入できます。在宅勤務の普及に伴う自宅での「働く環境」の構築にとどまらず、「暮らしの環境」を整えるためのアイテムも充実しています。



### カウネット新ショールーム 「Kau-Box (カウボックス)」オープン

コクヨ東京品川オフィス 1 階にオープン。オリジナル商品「カウコレ」プレミアムを中心としたオフィス用品やオフィス家具の展示、レイアウト相談も行っています。



今回のテーマは『POST-NORMAL』、  
コクヨデザインアワード 2021

世界が同時に大きく変化していく様子を目の当たりにしたからこそ、改めて身の回りにあるモノの価値を問い直すことで、これからも長く、広く、愛され続ける価値を考え、生み出すことを意図して開催しました。国内外から合計 1,401 点が応募され、「RAE」など受賞作品 4 作品を決定しました。

表彰



「しゅくだいやる気ペン」が  
「第14回キッズデザイン賞」を受賞

家庭学習の習慣化をサポートする新しいコンセプトのIoT文具「しゅくだいやる気ペン」が「第14回キッズデザイン賞」(子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門)を受賞しました。

4 製品が世界的に権威あるデザイン賞  
「iF デザイン賞」を受賞



360° グライディングチェア「ing (イング)」、会議テーブル「CALM (カーム)」、コクヨデザインアワード 2014 年優秀賞受賞作「本当の定規」がプロダクトデザイン部門で、オフィス防災備蓄システム「PARTS-FIT」がパッケージデザイン部門で、iF デザイン賞に選ばれました。

「健康経営優良法人 2021  
(ホワイト500)」に認定



コクヨとカウネットが、経済産業省と日本健康会議が共同で選出する「健康経営優良法人 2021(ホワイト500)」に認定されました。

※健康経営優良法人認定制度とは、地域の健康課題に即した取り組みなどをもとに、特に優良な健康経営を実践する法人を顕彰する制度です。

新しい働き方とオフィスのあり方を示す  
コンセプトブックを公開

新型コロナウイルス感染症の影響やリモートワークの加速やデジタルワークへの移行により変化する、これからの働き方とオフィスのあり方を示すコンセプトブック「Work Transformation (ワーク・トランスフォーメーション)」を公開、合わせて、コクヨ社員が解説・議論するオンラインセミナーも開催しました。

「性別欄のない履歴書」を発売

多様な個性の尊重を求める声が高まっていることを受け、性別欄のない履歴書を発売。本商品を発売することで、お客様の履歴書選びの選択肢を増やすことを目指します。

「結の森プロジェクト」が  
企業フィランソロピー賞  
「森林の守り人賞」を受賞



『環境保全と地域経済活性化の相乗効果をねらう取り組みを高く評価したい』として、審査委員より評価されました。

「企業フィランソロピー大賞」とは、公益社団法人日本フィランソロピー協会が主催する表彰事業で、社会の課題解決のために、自社の経営資源(人材・ノウハウ・技術・情報など)を有機的・持続的に活用した社会貢献活動を顕彰し、広く社会に発信するものです。

❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に 取り組む領域	❖コクヨの取り組みと、 その歩み	❖未来と社会のための 取り組み	❖コクヨのさまざまな 取り組み	❖2020年 コクヨの 取り組みのご紹介	❖トップメッセージ
❖コクヨのCSR	❖コクヨの マテリアリティ	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## トップメッセージ



### 多様な事業の集合体に 生まれ変わり、 持続的な成長を実現します

コクヨ株式会社  
代表取締役社長

黒田 英邦

## 2021年、「長期ビジョンCCC2030」を策定

コクヨを取り巻く事業環境の変化は極めて速く、より長期目線で経営に取り組む必要があると考え、2021年2月、2030年をターゲットとする「長期ビジョンCCC2030」を策定しました。

長期ビジョンCCC2030では、これから10年～20年の世の中の変化を前提としながら、コクヨグループの“ありたい姿”、すなわち、“自らをどのように変えていくべきなのか”を設定しました。

世の中の変化の方向性はある程度想定内ではあるものの、その変化のスピードはコロナ禍によって速まっている印象です。働く場や学ぶ場におけるデジタル化等の新しい潮流は、ニューノーマルによって一挙に定着してきました。

私たちは、ニューノーマルにおける新しい働き方・学び方に対応した“新しい経営スタイル”を構築していかなければなりません。これからの10年が、その時であると考えております。

## これからの未来を切り拓いていくべく、企業理念を「be Unique.」に刷新

今回の長期ビジョンCCC2030策定においては、多くの時間をかけて議論を重ねたテーマが2つありました。一つめが、“これからの世の中におけるコクヨの存在意義/存在価値”についてです。

私たちは、創業以来、「商品を通じて世の中の役に立つ」という企業理念のもとで、事業を拡大してきました。しかし、世の中は今、“100年に1度”と言ってよいほどの大きな変化の時代を迎えています。「商品を通じて世の中の役に立つ」という言葉は、これまで私たちの成長・発展を支え続けてくれた大切な思想ではありますが、これから新たな未来を切り拓いていくためには刷新する必要がある、という結論に至りました。

そこで、この言葉を、私たちの原点として“創業の精神”という位置づけに整理し直し、企業理念を刷新することとしました。

新たな企業理念である「be Unique.」には、当社の商品・サービスを通じて得られる“体験”という価値を通じて、お客様の創造性を刺激し、お客様の個性を輝かせたい、という思いを込めています。そんなお客さまとの関係こそが、私たちがこれからの未来に対して描いている姿であり、実現していくべき役割です。

## これまでの取り組みを振り返り、これから挑戦していくための武器として、コクヨの強みである「共感共創」再認識

議論を重ねた二つめのテーマは、“強みの再認識”です。これからの未来を切り拓いていく上で、当社が強みと認識し、武器として極めていくべきものは何か。それを明確化することで、私たちのこれからのチャレンジは一層力強い歩みとなっていくはずだと考えました。

私たちが再認識した当社の強みは、「共感共創」です。私たちはこれまで、総合メーカーとして、マーケティング力やデザイン力、商品企画力などの機能を培ってきました。また、お客さまとの様々な接点や、お客さまのニーズを捉える様々な仕組みを築き上げてきました。従来は、こうした力を元に事業を拡大してきましたが、近年価値観やライフスタイルが多様化する中では、お客さまと共に新しい価値をつくっていくような取組みが増え、多くのお客さまから共感され支持されるようになってきました。すなわちこれが、お客さまとの「共感共創」です。

今後、こうした強みを活かした取組みを推し進めると、方向性を明確に定めつつ、新たな価値を世の中に送り込んでまいります。

## マテリアリティ（重点課題）の特定と全社員による追求で、持続的な成長を目指す

長期ビジョンCCC2030では、「サステナブルな長期視点の経営」を、コクヨグループが追求すべき重要なポイントに据えております。これは、経済価値向上（収益確保）と社会価値向上の両立を目指す考え方です。

私たちは、顧客の課題解決を目指して新しい価値の創造を持続的に追求していきますが、そのためには着実な収益確保が不可欠です。しかし、社会や環境に大きな不利益をもたらすものは、たとえ収益を生むものであっても、“コクヨグループの企業価値向上に資するものではない”と判断し、その取組みは決して行いません。

私たちは今、新規事業創出に向け、様々なベンチャー企業への投資等の取り組みを始めていますが、この際にも、同様に“サステナブルな経営”の視点に立った投資判断を行っております。当社がこうした姿勢を続けることで、“コクヨグループとの連携は、サステナブルなビジネスを生み出す”という新たな強みにしていきたいと考えております。

私たちのこうしたサステナブルな経営の方向性を、ステークホルダーの皆さまに対して明確に示し、かつ、グループ全社員で実感をもって取り組んでいくために、この度、特に注力すべきマテリアリティ（重点課題）を特定しました。「新しい働き方の提案」「ダイバーシティ&インクルージョンの推進」「気候危機への対応」「循環型社会への貢献」「自然共生社会への貢献」の5つです。また、それぞれのマテリアリティとSDGsの関係も明確に定義し、2030年目標を設けました。今後、社内外との対話を深め、中期目標やアクションプランを詳細化していきます。

私たちは、「サステナブルに成長していく多様な事業の集合体に変革する」という新たなビジョンの実現に向け、グループ一丸となって邁進してまいります。

ステークホルダーの皆さまには、コクヨグループのチャレンジにご期待いただき、引き続きご支援をお願い申し上げます。

❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に 取り組む領域	❖コクヨの取り組みと、 その歩み	❖未来と社会のための 取り組み	❖コクヨのさまざまな 取り組み	❖2020年 コクヨの 取り組みのご紹介	❖トップメッセージ
❖コクヨのCSR	❖コクヨの マテリアリティ	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

# コクヨのCSR

## 考え方

### 基本的な考え方

コクヨグループは1905年に、創業者 黒田善太郎が大阪で和帳の表紙店を開いたことから始まりました。創業者は、「越中（現在の富山県）の国の誉れになる」という志を持って、郷里から大阪に向かいました。この創業者の志は、「国誉」という商標を経て、現在の社名の「コクヨ」となり、グループ社員全員でこの志を継承し、事業を展開してきました。

2004年、社会及びグループの継続的な発展を期すため、「コクヨグループCSR憲章」を制定（2012年一部改定）しました。基本方針について、「お客様」「地域社会」「環境保全」「企業活動」「人権尊重」の5つのテーマに沿って明らかにしています。

※ 関連情報：「コクヨグループCSR憲章」 >

### CSR推進体制

コクヨグループでは、関連部門が連携し、グループ全体でCSR活動を推進しています。また重点課題については、環境委員会・中央安全衛生委員会などを運用し、各専門部署が中心となってグループ全体で組織的に取り組んでいます。今後も情報発信や対話を通じて、ステークホルダーとの調和を図りながら、社会及びグループの持続的発展を追求していきます。

## コクヨCSR憲章

コクヨグループは、誠実な事業活動を展開し、収益性を高めるとともに、社会から必要とされる企業になります。法令などの遵守はもとより、企業市民としての社会的責任を果たすことにより、お客様・投資家をはじめ、すべてのステークホルダーからの信頼を獲得し、事業の継続性の維持に努めます。

#### お客様

1. すべての商品・サービスにおいて現状に満足することなくより高い安全性と品質を追求し続けていきます。
2. 新しい商品・サービスを開発し、事業を通じて社会を革新し続ける企業を目指します。

#### 地域社会

1. 国または地域の文化や習慣を尊重し、その発展に寄与するため、地域社会へ積極的に参画し、信頼される「良き企業市民」を目指します。

#### 環境保全

1. 地球環境問題を、全世界共通の課題と捉え、その解決に全従業員が英知を結集し、全社を挙げて行動を起こします。
2. エコプロダクツの開発において、そのライフサイクル全体での環境負荷低減に向けて、新たな環境技術の導入やグリーン調達に取り組めます。
3. 低炭素社会にふさわしい働き方や空間を提案することで、ワークスタイルの変革をもたらし、社会全体の環境負荷低減に貢献していきます。

#### 企業活動

1. 公正・透明・自由な競争ならびに適正な取引を行うとともに、政治・行政との健全かつ正常な関係を保ちます。
2. 取引先様との関係は常に公正であり、また信用される企業であるために、互いに協力し合い、成長していくことを目指します。
3. 企業価値を高めることは株主への責務と認識し、社会から信頼される透明かつ健全な企業経営を堅持します。

#### 人権尊重

1. あらゆる企業活動の場面において、関係するすべての人々の人権を尊重し、差別のない職場環境を目指すとともに児童労働・強制労働を認めません。
2. 従業員一人ひとりの個性や異なる発想・価値を受け入れ、多様な人材がその能力を十分に発揮し、成長できる企業を目指します。



# コクヨグループ行動基準

コクヨグループでは、事業の海外展開に伴い、文化や価値観、法の解釈の違いなど、現地事情を踏まえながらも共通の行動基準を制定する必要があると考え、2012年8月にコクヨグループ共通規定として「コクヨグループ行動基準」を制定するとともに、国や地域によって異なる商習慣や法令などを踏まえて補足を加えた「コクヨグループ行動基準ハンドブック」を作成しました。

## 行動基準（日本国版）

コクヨグループ行動基準は、コクヨグループが法令や規則を遵守し、社会倫理に従って企業活動を行うために、役員及び社員の基本的な行動の基準を定めることを目的としています。

### 第1条（目的）

コクヨグループ行動基準（以下「本行動基準」という）は、コクヨグループが企業活動を行うにあたって、法令や規則を遵守し、社会倫理に従って行動する観点から、役員及び社員の基本的な行動の基準を定めることを目的とする。

### 第2条（範囲）

本行動基準は、コクヨ株式会社並びに「グループガバナンス基本規程」で定める管轄会社、中核会社A群、連携会社A群及び中核会社B群に属する会社の役員及び社員（以下「役員及び社員」という）に対して、適用する。

### 第3条（定義）

1. 本行動基準における「コクヨグループ」とは、コクヨ株式会社並びに「グループガバナンス基本規程」で定める管轄会社、中核会社A群、連携会社A群及び中核会社B群に属する会社をいう。
2. 本行動基準における「法令」とは、コクヨグループの事業活動に関連する国内外の法律、条例及び規制等とし、「社内規則」とは、コクヨグループに共通して適用される又はコクヨグループ各社で適用される規則、規程、要領及びガイドライン等をいう。
3. 本行動基準における「役員」とは、会社の取締役及び監査役とし、「社員」とは、正社員、シニア社員、契約社員、パート社員及びアルバイト等の会社と直接雇用関係のある方をいう。

### 第4条（項目）

#### （1）法令及び社内規則の遵守と誠実な行動

役員及び社員は、法令及び社内規則の遵守はもちろん、高い倫理観を持って誠実に行動しなければならない。

#### （2）人権及び人格の尊重

役員及び社員は、人種、民族、宗教、国籍、言語、性別及び障がい等による差別を行ってはならない。

役員及び社員は、セクシャルハラスメントやパワーハラスメント等、あらゆるハラスメント行為を行ってはならない。

役員及び社員は、児童労働や強制労働を認めてはならない。

#### （3）地球環境の保全

役員及び社員は、地球温暖化や森林資源の減少をはじめとする地球環境問題から目を背けることなく、全社を挙げて環境負荷の削減又は低減に取り組まなければならない。

#### （4）自由な競争及び公正な取引

役員及び社員は、独占の禁止、公正な競争及び公正な取引に関する法令及び社内規則を遵守し、これらを逸脱する行為を行ってはならない。

#### （5）安心して信頼のおける商品及びサービスの提供

役員及び社員は、安心して信頼のおける商品及びサービスの提供を通じて、お客様の信頼に応え、満足を追求し続けなければならない。

#### （6）会社資産の適切な取り扱いと知的財産の保護

役員及び社員は、有形無形のあらゆる会社の資産を適切に管理、保全及び活用しなければならない。

役員及び社員は、他者の知的財産権を尊重しなければならない。

#### （7）適正な情報管理及び財務報告

役員及び社員は、会社の記録を誠実かつ適正に作成すると共に、業務上収集及び取得される情報をその重要度に応じた適正な手続きに則って管理及び報告をしなければならない。

役員及び社員は、財務、会計及び税務に関する法令及び社内規則を遵守して会計処理及び財務報告をしなければならない。

#### （8）利益相反行為の禁止

役員及び社員は、会社と個人との利益が相反する、あるいはそのおそれのある行為をしてはならない。

役員及び社員は、利益相反が懸念される場合には、上司に対してその旨を報告しなければならない。

#### （9）インサイダー取引の禁止

役員及び社員は、コクヨグループや他社の株式等の売買に関連してインサイダー取引及びそれを誘発する行為を行ってはならない。

(10) 接待や贈答の適切な運用

役員及び社員は、ビジネス慣習から逸脱した接待や贈答を行ってはならない。

役員及び社員は、公的機関の職員や政府関係者に対して違法な接待や贈答を行ってはならない。

(11) 外部からの不当な要求への対応

役員及び社員は、外部からの不当な要求には一切応じてはならない。

第6条（啓発）

コクヨグループ各社は、本行動基準の実務運用部門と連携を図り、役員及び社員に対し本行動基準の啓発活動を行うものとする。

第7条（罰則）

本行動基準に違反した場合には、法令や社内規則に基づき、懲戒処分等の措置がとられることがある。

第8条（改廃）

本行動基準の改廃については、グループ本社役員会の承認を経て行うことができる。

附則

本行動基準は、2012年8月20日から施行する。

改正日

2015年10月1日

2020年6月1日





2020年6月26日

# ステークホルダーとの関わり

## コクヨのステークホルダー

コクヨグループは持続可能な社会の実現に向け、お客様・株主・取引先・地域社会などさまざまなステークホルダーの皆様の期待に応えるため、積極的にCSR経営を推進しています。

## ステークホルダーとのコミュニケーションの例

ステークホルダー	主な対話の機会	2020年度の実施例
 お客様	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ お客様相談室の設置</li> <li>▪ ウェブサイトのQ&amp;Aページ及び「お問い合わせ」フォームの運営</li> <li>▪ 各製品の情報提供</li> <li>▪ ウェブサイトでコクヨ商品のお取り扱い店を検索できる「ディールズガイド」の運営</li> <li>▪ 各種イベント・セミナーの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ お客様の声を生かす仕組み &gt;</li> <li>▪ お客様相談室のシステムを刷新 &gt;</li> <li>▪ カウネット 新ショールーム「Kau-Box」オープン、SNSでライブ配信 &gt;</li> <li>▪ 勢いある中国市場、ECサイトライブコマースが大盛況 &gt;</li> </ul>
 社員	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 労使間協議</li> <li>▪ 各種研修</li> <li>▪ 社内報</li> <li>▪ 社内イベント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 社員満足度調査 &gt;</li> <li>▪ 社員間のネットワークづくり「TeleCROSS!!!」 &gt;</li> <li>▪ 「オンライン新入社員歓迎会」を初開催 &gt;</li> <li>▪ ワークライフバランスの実現、働く場所と時間の柔軟化の推進、自己都合退職者再雇用制度、定年退職者の再雇用 &gt;</li> <li>▪ 新たな働き方「PLAY WORK」の取り組み &gt;</li> <li>▪ AIを理解し、活用する社内講座を実施 &gt;</li> <li>▪ メリハリ・チャレンジ制度（提案制度、表彰制度） &gt;</li> <li>▪ 会社の成長と社員一人一人の成長をつなげる環境整備 &gt;</li> <li>▪ 社内複業「20%チャレンジ」の取り組み開始 &gt;</li> <li>▪ 若手層に向けた「コクヨマーケティング大学」の実施 &gt;</li> <li>▪ 中堅リーダー層に向けた「コクヨマーケティング大学院」の実施 &gt;</li> <li>▪ 社員の安全 &gt;</li> <li>▪ コクヨロジテムでオンライン利用の「KYトレーニング」を実施 &gt;</li> <li>▪ コクヨグループ工場意見交換会2020を開催 &gt;</li> <li>▪ 新型コロナウイルス対策本部設置、オフィスの感染防止対策 &gt;</li> <li>▪ コクヨロジテム 物流業界初の音声コミュニケーションツール「BONX GRIP」を導入 &gt;</li> <li>▪ コクヨロジテム岡山配送センター、構内連続無災害日数9,000日達成 &gt;</li> </ul>
 取引先	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 協力工場の監査</li> <li>▪ 各種ミーティング・イベントの開催</li> <li>▪ 展示会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ オンラインの強みを生かす視聴者参加型の表彰式、8拠点をつなぎライブ配信 &gt;</li> <li>▪ ファニチャー事業「協力工場会」をオンラインで開催 &gt;</li> <li>▪ ステーショナリー事業 協力工場の監査を実施 &gt;</li> <li>▪ 空間構築事業発展に向けた、コクヨ建設業協会の活動 &gt;</li> </ul>
 株主	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ IR活動</li> <li>▪ 情報公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 株主・投資家情報 &gt;</li> </ul>



ステークホルダー	主な対話の機会	2020年度の実施例
<p>地域社会</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 社会貢献活動</li> <li>▪ 災害復興活動</li> <li>▪ 地域貢献活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 神戸大学にコクヨ役員・社員6名を講師として派遣 &gt;</li> <li>▪ 東京2020大会を学ぶ中学生に「東京の、新しいページをひらこう」レクチャー &gt;</li> <li>▪ 医療現場へ簡易フェイスシールド、フェイスシールド代用素材を無償提供 &gt;</li> <li>▪ コクヨデザインアワード2021、「POST-NORMAL」をテーマに開催 &gt;</li> <li>▪ 東京2020組織委員会に大会ボランティア8万名分の「Field Castノート」を提供 &gt;</li> <li>▪ 中高生を対象にした絵画コンペティション「キャンバスアートアワード2020」開催 &gt;</li> <li>▪ 「ジョブスタディ」の取り組み &gt;</li> <li>▪ 東日本大震災遺児への進学支援「みちのく未来基金」 &gt;</li> <li>▪ コクヨ北関東販売が「いちご一会とちぎ国体」「いちご一会とちぎ大会」オフィシャルサプライヤーに &gt;</li> <li>▪ 中国社内SNSにおける物品寄付の募集活動開始 &gt;</li> <li>▪ 中国貧困地方への中古パソコン寄贈 &gt;</li> <li>▪ コクヨカムリン工場周辺の学校にMini Science Centreを設置 &gt;</li> <li>▪ コクヨリッディ工場周辺の村人の皆さんに食料提供 &gt;</li> </ul>
<p>環境</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 地球温暖化防止活動</li> <li>▪ 省資源・リサイクル</li> <li>▪ 生物多様性への配慮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 海洋プラスチック問題への対応 &gt;</li> <li>▪ 商品CO<sub>2</sub>の見える化 &gt;</li> <li>▪ 国産材・地域材の利用 &gt;</li> <li>▪ 結の森プロジェクト &gt;</li> <li>▪ R e E D E Nプロジェクト &gt;</li> </ul>

❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に取り組む領域	❖コクヨの取り組みと、その歩み	❖未来と社会のための取り組み	❖コクヨのさまざまな取り組み	❖2020年 コクヨの取り組みのご紹介	❖トップメッセージ
❖コクヨのCSR	❖コクヨのマテリアリティ	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

# コクヨのマテリアリティ

## 1) コクヨのマテリアリティ

コクヨは事業を通じた社会的課題解決への取り組みをさらに加速させるため、サステナビリティ活動において特に注力すべきマテリアリティ（重要課題）を特定しました。



## 2) マテリアリティ特定プロセス



マテリアリティ特定にあたっては、SDGs、MSCI、SASBなどを参考に環境・社会・ガバナンスにおいて34の重要な社会課題候補を抽出しました。その候補項目について、「ステークホルダーの重要度」「自社の重要度」の2つの軸で調査を実施し、点数化し、両軸における点数が一定値を超えるものを抽出し、重要課題を特定しました。その後経営層で特定された重要課題の妥当性を検討し、2030年目標を設定しました。

	各拠点	アンケート	デスクリサーチ
ステークホルダー軸	消費者	○	-
	重要顧客	○	-
	投資家 (MSCI・SASB)	-	○
	国・自治体 (成長戦略)	-	○
自社軸	商品・サービス・CSR項目のSDGs貢献度	-	-
	自社開発部門	○	-
	経営層	ディスカッション	

### ステークホルダーからの主な意見

#### 社会分野

##### 働き方改革

NEW NORMALに向けて、こんな働き方ができる、こういうアイデアがある、そのためにこんな環境があると良い、といった情報をコクヨから発信してほしい。「客よりも一歩先に失敗する」をスローガンに掲げているコクヨの姿勢には好感が持てる。

##### ワークライフバランス

製品を通じた「コクヨらしい」ワークライフバランスの提案をしてほしい。

##### ダイバーシティ (障害者雇用含む)

様々なバックグラウンドを持つ従業員が増えており、オフィスの最適環境について広い視野が必要になっている。  
障害者雇用についてもっと取り組みを広げてほしい、また全国のコクヨ製造販売の現場などにも取り組みを広げるべきである。

#### 環境分野

##### CO<sub>2</sub>排出量の削減

森林保全活動を進めているので、日常の活動においてもCO<sub>2</sub>削減に努力してほしい。  
地球温暖化へ積極的な投資を行ってほしい。

##### 廃棄物の削減

ごみの増える世界であってうまく処理ができるひな形ができればコクヨスタイルなどで売り出せると思った。  
オフィスの移転やレイアウト変更で発生する大量の廃棄物は大きな課題である。リサイクルやリユース、高汎用性などで、廃棄物の削減に取り組んでほしい。

##### 生物多様性

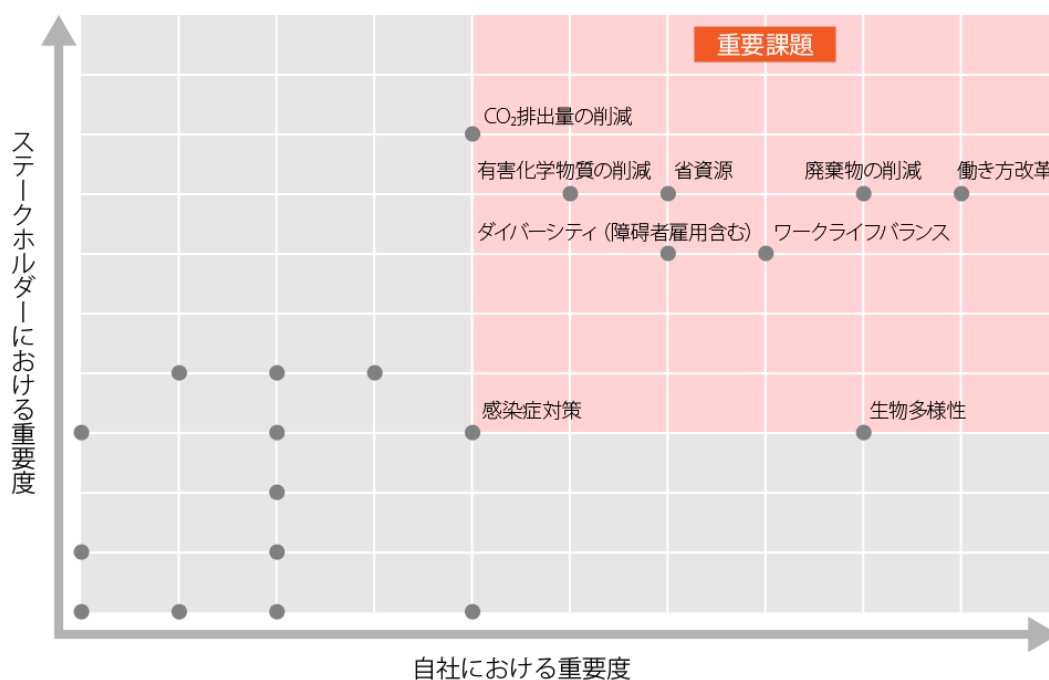
ノートなどで紙資源を使うコクヨの業務と関わり合いが深いと思ったため。

#### ガバナンス分野

##### 取引先への情報提供・コミュニケーション

営業担当者からの情報提供は大いに役立つ。  
情報・コミュニケーションと情報セキュリティなどは事業活動に必要なアイテムなため。

### 3) マテリアリティマップ



### 4) マテリアリティと目標

今後社内外との対話を通じて、中期目標とアクションプランの作成を進めてまいります。

重要課題		2030年目標
重点テーマ1 新しい働き方の提案	新常態における働き方提案とワークライフバランスのサポート	社員ひとりひとりが自律し、チームで課題解決する企業になっている
重点テーマ2 ダイバーシティ& インクルージョンの推進	ジェンダー、障がい、国籍など、多様性ある組織づくりによるイノベーション創出	多様な人財がそれぞれの個性・能力を発揮できる企業になっている
重点テーマ3 気候危機への対応	省エネルギー対策、再生可能エネルギー活用によるCO <sub>2</sub> の削減と森林による吸収	CO <sub>2</sub> 吸収：6,000 t - CO <sub>2</sub> 以上/年の吸収量に貢献する CO <sub>2</sub> 排出量の削減：2013年比で2030年にCO <sub>2</sub> 排出量を26%削減する
重点テーマ4 循環型社会への貢献	循環型経済の進展に向けサプライチェーン全体で人権に配慮し、省資源・廃棄物削減の推進	廃棄物（事業所、施工現場、棚卸在庫）のリサイクル率100% 調達基本方針のグループ全体での運用
重点テーマ5 自然共生社会への貢献	環境影響最小化のための、生物多様性保全、有害化学物質削減の推進	合法木材利用促進 森林保全（毎年150ha程度の間伐） ヨシ原保全（毎年15ha程度のヨシ刈り）

❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に 取り組む領域	❖コクヨの取り組みと、 その歩み	❖未来と社会のための 取り組み	❖コクヨのさまざまな 取り組み	❖2020年 コクヨの 取り組みのご紹介	❖トップメッセージ
❖コクヨのCSR	❖コクヨの マテリアリティ	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

～環境～

## 環境経営マネジメント

地球温暖化や森林資源の減少をはじめとする地球環境問題の解決を緊急課題と認識し、この課題解決に全従業員が英知を結集して行動を起こしていきます。





### コクヨグループ環境ビジョン

「持続可能な社会」を構築するには、「循環型社会」、「低炭素社会」、「自然共生社会」に向けた取り組みを統合した活動を実施していく必要があります。「コクヨグループ環境ビジョン」は、堅持すべき「環境理念」と具体的な活動項目である「環境方針」で構成されており、方針は「地球温暖化防止」「省資源・リサイクル」「エコプロダクツの調達・開発・提供」「生物多様性」「法順守と汚染の予防」「情報開示・コミュニケーション」「環境経営」の7つの項目としました。この「コクヨグループ環境ビジョン」を基に各事業会社がそれぞれの事業の特性に沿った目標を展開し、環境負荷低減に努めています。

#### 環境理念

「商品を通じて世の中の役に立つ」という創業の精神に基づき、持続可能な社会の実現のため、温暖化や資源枯渇、生物多様性保全などの地球環境問題を全世界共通の永続的課題と認識し、コクヨグループが率先し、事業活動に関わる様々な人達の英知を結集することで、この課題解決のため行動を起こす。

#### 環境方針

	<b>地球温暖化防止</b>	低炭素社会の実現に向け、温室効果ガス排出量の大幅な削減に取り組みます。
	<b>省資源・リサイクル</b>	循環型社会の進展に向け、限り有る資源を有効利用し、Reduce・Reuse・Recycleに取り組みます。
	<b>エコプロダクツの 調達・開発・提供</b>	商品ライフサイクル全体での環境負担低減に向けて、新たな環境技術の開発やグリーン調達に取り組みます。
	<b>生物多様性</b>	生物多様性に配慮した事業活動を行うことにより、生態系に及ぼす影響の低減とその保全に努めます。
	<b>法順守と汚染の予防</b>	環境関連法規はもとより、当社が同意した業界等の指針及び自主基準を順守し、環境汚染の予防に努めます。
	<b>情報開示・コミュニケーション</b>	積極的に環境情報を開示し、お客様・社外の皆様とのコミュニケーションを図り、環境保全活動に活かします。
	<b>環境経営</b>	全従業員が一丸となり、新たなエコビジネスモデルの開発に努めるなど、環境負荷の継続的改善と事業の発展に取り組みます。

新たな企業理念を「be Unique.」と制定し、「商品を通じて世の中の役に立つ」を創業の精神と位置づけたため、環境理念の表現を一部修正しました。5つの重点社会課題と2030年目標を制定したことを受けて、環境ビジョンの見直しに着手しています。

※ 連情報：「マテリアリティの特定」>

## 2030年目標を制定しました

「気候危機への対応」「循環型社会への貢献」「自然共生社会への貢献」をコクヨグループにおける重要な環境課題と特定しました。活動を進めていくにあたり「社会的責任への対応」「事業を通じた対応」の2つの観点があると考えています。2020年はまず「社会的責任への対応」目標を設定しました。2021年は「事業を通じた対応」目標も検討していきます。

重要課題		2030年目標
気候危機への対応	省エネルギー対策、再生可能エネルギー活用によるCO <sub>2</sub> の削減と森林による吸収	CO <sub>2</sub> 排出量の削減：2013年比で2030年にCO <sub>2</sub> 排出量を26%削減する（※）
		CO <sub>2</sub> 吸収：6,000 t - CO <sub>2</sub> 以上/年の吸収量に貢献する
循環型社会への貢献	循環型経済の進展に向けサプライチェーン全体で人権に配慮し、省資源・廃棄物削減の推進	廃棄物（事業所、施工現場、棚卸在庫）のリサイクル率100%
		調達基本方針のグループ全体での運用
自然共生社会への貢献	環境影響最小化のための、生物多様性保全、有害化学物質削減の推進	合法木材利用促進
		森林保全（毎年150ha程度の間伐）
		ヨシ原保全（毎年15ha程度のヨシ刈り）

※ 対象範囲 コクヨ、コクヨ工業滋賀、コクヨMVP、コクヨロジテム、コクヨサプライロジスティクス、コクヨマーケティング、カウネット、アクタス、コクヨファイナンス、コクヨアンドパートナーズ、LmDインターナショナル

### <参考> 気候危機への対応 2020年実績

CO <sub>2</sub> 排出量削減目標	2013年CO <sub>2</sub> 排出量	2030年目標	2020年実績	2013年比率
2013年比で2030年にCO <sub>2</sub> 排出量を26%削減する	30,683t-CO <sub>2</sub>	22,705t-CO <sub>2</sub>	22,334t-CO <sub>2</sub>	27.2%削減
森林保全によるCO <sub>2</sub> 吸収目標				
毎年150ha程度の間伐を進め、6,000 t - CO <sub>2</sub> 以上の吸収量に貢献する		間伐面積111.9a	CO <sub>2</sub> 吸収量：5,708t-CO <sub>2</sub>	

## 中期環境行動計画

2020年は中期計画の最終年でした。新たな中期計画の作成に着手しています。

環境方針	対策項目	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2020年目標	評価
地球温暖化防止	CO <sub>2</sub> 排出量の削減 (1990年比)	13.0%削減 (国内)	20.1%削減 (国内)	32.5%削減 (国内)	30%削減 (国内)	○
	消費エネルギーの削減 (2010年比) ※原単位で年平均1%削減	13.8%削減 (原単位)	16.1%削減 (原単位)	21.1%削減 (原単位)	10%削減 (原単位)	○
省資源・リサイクル	排出物総量に対するリサイクル率の向上 ※施工現場廃棄物を含む（元請）	95.5%	94.7%	94.7%	100%	×

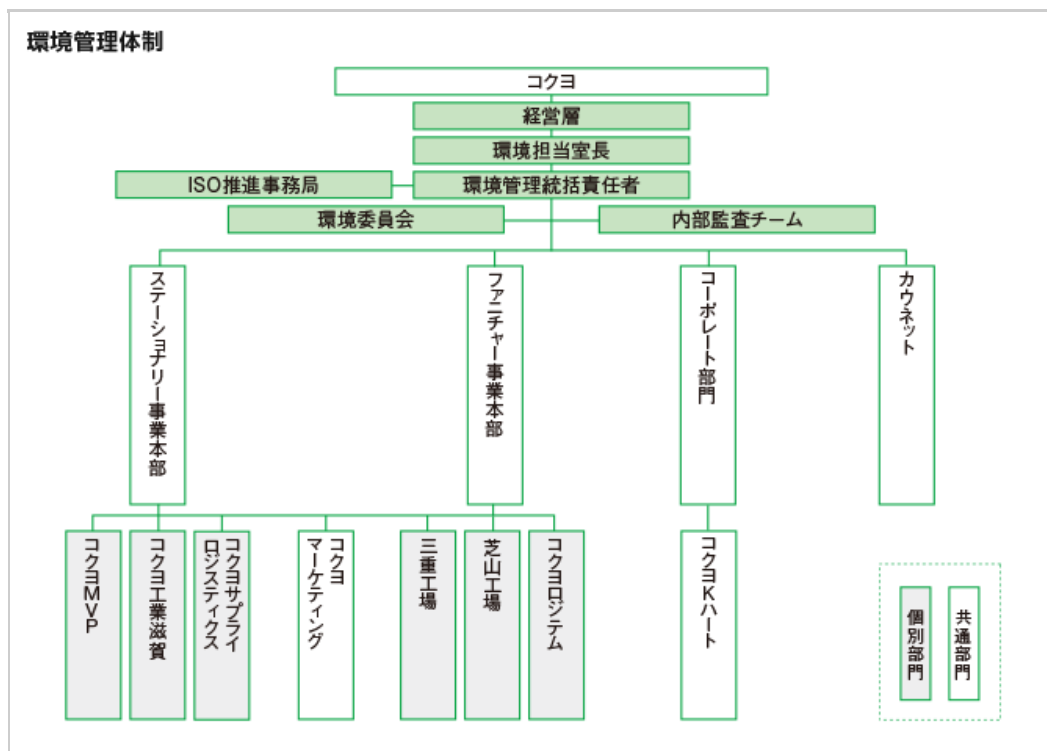
#### 中期目標の範囲

コクヨ、コクヨ工業滋賀、コクヨMVP、コクヨロジテム、コクヨサプライロジスティクス、コクヨマーケティング、カウネット、アクタス、コクヨファイナンス、コクヨアンドパートナーズ、LmDインターナショナル、コクヨKハート、ハートランド

※ 基準年に範囲に含まれていなかったアクタス・ハートランドは2018年実績を基準年として加算しています。

## 環境管理体制

2004年から環境マネジメントシステムの登録範囲を国内の主要連結対象子会社に拡大し、企画・研究開発、製造、販売・サービス、保管・出荷を包括する統合認証システムとしています。運用においては、コクヨグループとしての一貫性を維持しつつ、比較的環境負荷の大きな事業会社及び工場を「個別部門」、負荷の小さな事業会社を「共通部門」とすることで、規模に応じたマネジメントシステムとしています。また、各社の事業計画に即した環境目標を定めるなど、事業特性に合った環境管理が推進できるよう、独自性への配慮を心がけています。従来より、環境文書・記録管理データベースシステムの「MELON」を導入していましたが、2013年7月に機能強化し、対象サイトの拡大、文書管理・閲覧の利便性、効率性、正確性の向上を図っています。尚、2016年12月に2015年版への移行審査を受審し、無事対応を完了しています。



## 環境教育

コクヨグループは、社員の環境保全意識の向上、環境目標達成に必要な知識、事故・緊急時の対応や管理手法等の習得を目的に、ISO推進事務局が実施する環境関連法説明会、内部監査員の養成・スキルアップ研修のほかに各部門が独自で様々な環境教育を実施しています。ただ、2020年はコロナ禍の影響により、集合研修の開催がほとんどできませんでした。これを機にあらたな研修方法を検討していきます。

教育・訓練の種類	受講者数		
	2018年	2019年	2020年
環境一般教育	2,152	1,891	2,708
環境目標達成・法規制などに関する教育	233	367	162
事故・緊急事態の対応訓練	169	232	211
内部監査員	21	56	96
その他	322	192	7
計	2,897	2,738	3,184



緊急時（流出時）の確認訓練  
（コクヨMVP）



# 内部監査と第三者審査の結果

コクヨグループでは内部監査を、事業会社内で実施する第一者監査、およびISO推進事務局が主体となり実施する第二者監査の2段階で実施し、特に法順守状況のチェックに注力しています。2020年は第一者監査を7月1日～7月31日、第二者監査を8月31日～9月14日、さらに、第三者（ISO14001）審査を11月30日～12月4日にそれぞれ実施しました。内部監査では48件の指摘事項があり、そのうち、廃棄物関係が12件、危険物関係が7件など順守事項に関連するものが多く指摘されました。ISO14001審査では指摘事項はありませんでしたが、同様に順守事項に関する「改善の機会」が指摘されたため、法教育の充実が必要と感じています。

またISO14001審査ではReEDENプロジェクト、結の森プロジェクトの生物多様性保全の取り組みが外部から複数表彰されていることに対して昨年引き続きストロングポイントを頂きました。尚、2020年のISO14001審査は定期審査でした。

実施年	2018年	2019年	2020年
監査対象サイト	75	118	74
・第一者監査	60	61	59
・第二者監査	15	16	15
・臨時監査	—	41	—
指摘事項	28	83	48
・軽微な不適合	8	25	13
・修正事項	20	58	35

実施年	2018年 (更新)	2019年 (定期)	2020年 (定期)
審査対象サイト	29	17	20
ストロングポイント (特に優れている点)	1	1	1
グッドポイント (優れている点)	8	5	2
改善指摘事項 (軽微な不適合)	1	0	0
改善の機会	21	21	26



内部監査の様子  
(コクヨ芝山工場)



内部監査の様子  
(コクヨ大阪オフィスWS)



ISO14001審査の様子  
(コクヨロジテム滋賀配送センター)



ISO14001審査の様子  
(コクヨ工業滋賀)



ISO14001審査の様子  
(コクヨ品川オフィス)



ISO14001審査の様子  
(コクヨサプライロジスティクス茨城DC)



# 第三者検証報告書

コクヨグループの環境パフォーマンスデータに関して、その正確性・透明性・一貫性・妥当性・完全性について独立した立場から意見をいただくためビューローベリタスジャパンによる第三者検証を受けました。

## 第三者検証の概要

2018年より、石見紙工業を追加したコクヨグループ31社（※1）の環境負荷データ及びSCOPE3の検証を受けました。また、国内：3ヵ所（コクヨ本社オフィス、石見紙工業・阿東工場、コクヨサプライロジスティクス九州IDC）、海外：1ヵ所（コクヨベトナム）においてデータ計測・管理方法に関する現場審査を実施しました。検証の結果、「評価できる点」として8件、「改善の機会」11件、「修正要求」42件、「明確化要求」13件の指摘を受けました。修正要求及び明確化要求については検証期間中に対応を完了しました。検証では、集計ルールのマニュアル化は進んでいるものの、一部でデータの登録漏れや算定の根拠が明確でないとの指摘を受けました。

今後は指摘事項を踏まえ、サプライチェーン全体を含めた情報開示の充実と精度向上に取り組んでいきます。

実施年	2018	2019	2020
評価できる点	9	12	8
改善の機会	6	11	11
修正要求	32	38	42
明確化要求	30	17	13



環境パフォーマンスデータ  
第三者検証の様子  
(阿東工場)



環境パフォーマンスデータ  
第三者検証の様子  
(本社審査)



環境パフォーマンスデータ  
第三者検証の様子  
(KSL九州IDC)

※対象組織

	連結会社	関連会社
国内	コクヨ株式会社 カウネット、コクヨマーケティング、コクヨサプライロジスティクス、コクヨロジテム、コクヨ工業滋賀、コクヨMVP、LmDインターナショナル、アクタス、コクヨファイナンス、コクヨアンドパートナーズ	コクヨKハート、ハートランド、石見紙工業、コクヨ北海道販売、コクヨ東北販売、コクヨ北関東販売、コクヨ東海販売、コクヨ北陸新潟販売、コクヨ山陽四国販売
	コクヨベトナム、コクヨ（マレーシア）、国営（上海）企業管理有限公司、国営商業（上海）有限公司、国営家具（中国）有限公司、国営裝飾技術（上海）有限公司、コクヨインターナショナルアジア、コクヨインターナショナル（マレーシア）、コクヨベトナムトレーディング、コクヨカムリン	コクヨーIK（タイランド）

～環境～

## 地球温暖化防止対策

コクヨグループは低炭素社会実現に向け、地球温暖化に対する緩和活動（CO<sub>2</sub>排出量削減と吸収対策）を強化していきます。

2020年 目標	CO <sub>2</sub> 排出総量対前年比 1.4%増に抑制する (26,419t-CO <sub>2</sub> →26,784t-CO <sub>2</sub> )	2020年 実績	CO <sub>2</sub> 排出総量対前年比 15.5%削減 (22,334t-CO <sub>2</sub> )	評価	○
	消費エネルギー(売上高原単位):対前年比1.0%削減		消費エネルギー(売上高原単位):対前年比 6.0%削減		○

### 2020年の総括

2020年の日本国内の連結対象会社（※1）、コクヨKハート、ハートランドのCO<sub>2</sub>排出量は、22,334トンでした。前年から4,085トン減少の15.5%削減となり、目標を達成しました。削減量のうち、715トンは排出係数（※2）の変動によるものでした。試算ではありますが、運用改善で428トン、設備改善で179トン、生産・統廃合で2,763トンを削減したため、3,370トンの削減となりました。その部門別の状況は以下の通りです。

#### オフィスの取組み

オフィスでは前年に比べてCO<sub>2</sub>排出量は859トンの削減（排出係数の影響を除く削減量は765トン）となりました。

2020年はコロナ影響によるリモートワークの実施や働き方改革の推進により683トンを削減、空調運転方法やワークスタイルの見直し、「ノー残業デー」「早帰り」などの活動やLED照明への更新などで82トン削減しました。

#### 工場の取組み

工場では前年に比べてCO<sub>2</sub>排出量は2,570トンの削減（排出係数の影響を除く削減量は2,121トン）となりました。

コロナ影響による生産調整により前年に比べて1,750トンを減少、製品型替え時間の短縮や生産設備の運用ルールの徹底、点検の実施、生産スケジュールの精緻化、エネルギーチェックによる無駄の削減などの運用改善により320トンを削減。また、設備のインバーター化や照明のLED化などの省エネ設備の導入により51トンを削減しました。

#### 物流部門の取組み

物流（保管・出荷）では前年に比べてCO<sub>2</sub>排出量は656トンの削減（排出係数の影響を除く削減量は484トン）となりました。

コロナにより入出荷量が影響を受け前年に比べて330トン減少、日々の省エネ活動の推進による運用改善や配送センターの照明の適正照度の見直しにより31トン削減、照明のLED化を積極的に進め123トン削減しました。



大阪オフィス新館に設置されている太陽光パネル



滋賀工場に設置されている太陽光パネル



首都圏IDCに設置されているハイブリッド街灯

※1 コクヨ、コクヨ工業滋賀、コクヨMVP、コクヨロジテム、コクヨサプライロジスティクス、コクヨマーケティング、カウネット、アクタス、コクヨファイナンス、コクヨアンドパートナーズ、LmDインターナショナル

※2 電力のCO<sub>2</sub>排出係数は地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく係数（電気事業者ごとの平成30年度実績及び令和1年度実績による基礎排出係数）を採用

# コクヨグループ全体のCO<sub>2</sub>排出量

2018年から石見紙工業のデータ収集も開始したコクヨグループ31社（※1）全体での2020年のCO<sub>2</sub>排出量は32,299トン（※2）となり、2019年と比較し7,525トンの減少となりました。電力会社の排出係数の低減により約2,500トン、グループ全体の削減活動及びコロナ影響による出社制限等の稼働減により約5,000トンの減少となりました。

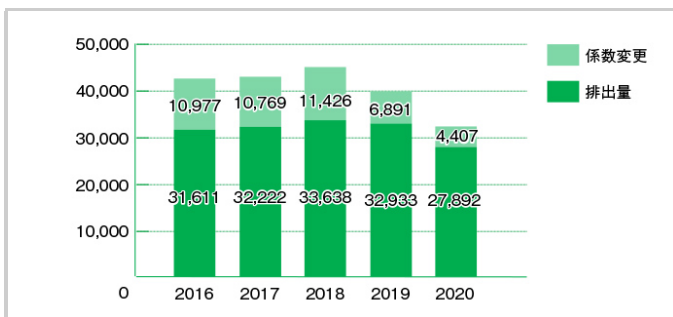
※1 データ編参照

※2 日本の電力のCO<sub>2</sub>排出係数は地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく係数（電気事業者ごとの平成30年度実績及び令和1年度実績による基礎排出係数）、海外の電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、国際エネルギー機関（IEA）のCO<sub>2</sub> Emissions from fuel combustion 2019 editionに掲載の各国ごとの係数を採用。  
係数変更による差異は2000年の全電源平均（0.378kg-CO<sub>2</sub>/kwh）で計算した排出量との差です。

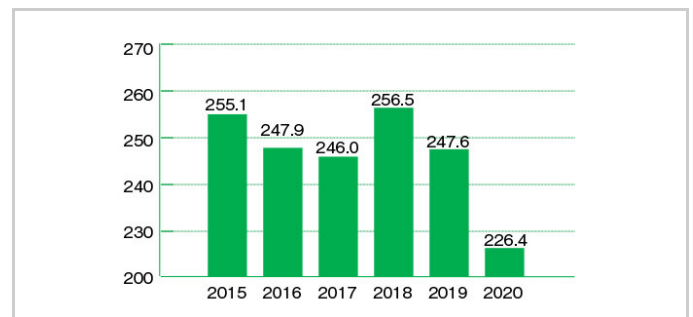


コクヨカムリン：パタルガンガ工場に設置されている太陽光パネル

コクヨグループ全体のCO<sub>2</sub>排出量の推移



消費エネルギー（売上原単位）の推移



## SCOPE3データ精度の向上

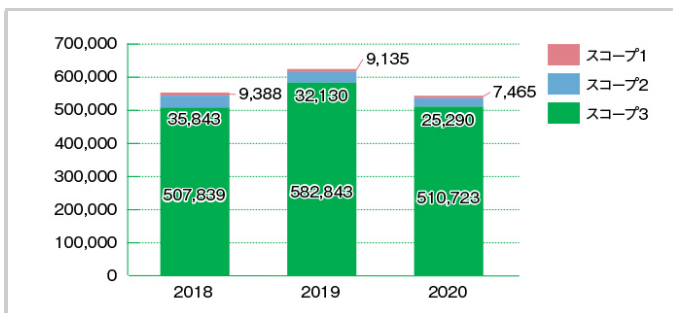
近年、CDPをはじめ、企業が間接的に排出するサプライチェーンでの温室効果ガス排出量としてSCOPE3（製造、輸送、製品の使用・廃棄など）を管理し、対外的に開示する動きが強まっています。

コクヨグループでも輸送分野など一部では取り組んでいましたが、2014年から環境省の「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン」に即した取り組みを開始しました。

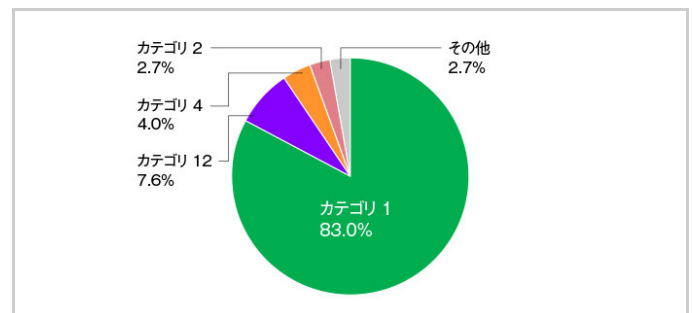
2020年のサプライチェーン全体の温室効果ガス排出量は543,478トンでした。そのうちSCOPE3が全体の約94%を占め、そのSCOPE3の中で、「カテゴリ1：購入した製品・サービス」が83%を占めています。

また、開示情報の信頼性確保のため、ビューローベリタスジャパンによる第三者検証を受けました。

SCOPE別排出量



SCOPE3 内訳



※データ編 - 温暖化防止対策参照 >

～環境～

## 省資源・リサイクル対策

循環型社会の進展に向け、限りある資源を有効利用し、Reduce・Reuse・Recycleに取り組みます。

<b>2020年 目標</b>	廃棄物総量に対するリサイクル率の向上 ・事業所：96.6%以上 ・施工現場：88.0%以上	→	<b>2020年 実績</b>	・事業所：96.6% ・施工現場：82.0%	<b>評価</b>	×
---------------------	---	---	---------------------	---------------------------	-----------	---

### 2020年の総括

2020年のコクヨグループ（31社）（※1）の事業所からの排出物量は、19,785トン（前年：23,446トン）、リサイクル率は96.6%（前年：96.4%）となりました。

施工現場廃棄物量は2,973トン（前年：4,150トン）、リサイクル率82.0%（前年：85.2%）でした。施工現場廃棄物の処理に関する元請責任が明確化され、排出事業者の責務がますます強化されています。施工現場で加工する部材の発注方法の見直しなどによる廃棄物の抑制に努めました。施工現場廃棄物は均一ではなく、いくつもの種類の廃棄物が混在しているためリサイクルが困難なケースが多いのですが、排出抑制とともに、今後も継続して廃棄物の適正処理と中長期目標であるリサイクル率100%を目指していきます。

※1 データ編参照

### オフィスの取組み

2020年のオフィス部門における排出物量は790トン（前年：694トン）、リサイクル率は97.3%（前年：95.9%）でした。オフィスでできることは限られていますが、分別廃棄の徹底、ペーパーレスワークの推進などに努めています。

### 工場の取組み

2020年の工場部門における排出物量は9,930トン（前年：10,999トン）、リサイクル率は96.7%（前年：95.3%）でした。

日本国内のコクヨグループ自社工場の産業廃棄物については2009年以降ゼロエミッションを達成していましたが、三重工場でパーティクルボードのリサイクルをサーマルからマテリアルに変更したことで若干の残渣が発生したため産業廃棄物のリサイクル率が99.8%（前年：99.4%）となりました。これは資源循環を考慮した結果です。

また、海外工場においては、2020年のリサイクル率は87.4%（前年：81.4%）でした。各地で異なるリサイクル事情を考慮するとともに、廃棄物そのものの排出の抑制とリサイクルに努めていきます。

### 物流部門の取組み

2020年の物流部門における排出物量は9,066トン（前年：11,753トン）、リサイクル率は96.4%（前年：97.3%）でした。

物流工程で生じる製品梱包で使用した段ボールや木製パレットの修理によるリユースを行っています。

今後も積極的に資源の有効利用を行っています。

### 使用済み商品のリユース・リサイクル

商品をお届けした際に、お客様のもとで不要になった使用済み商品を引き取り、状態に応じてリユース・リサイクルする取り組みを続けています。

コクヨロジテムでは2020年にオフィスデスクや事務用イスなどの使用済み商品を約1,988トン引き取り、そのうち約230トンのリユースし、リユースできないものは解体・分別してリサイクルしました。

※データ編－省資源・リサイクル対策参照



デスクの解体・分別



～環境～

# 法順守と汚染の予防

環境関連法規はもとより、当社が同意した業界などの指針及び自主基準を順守し、環境汚染の予防に努めています。

## 2020年の総括

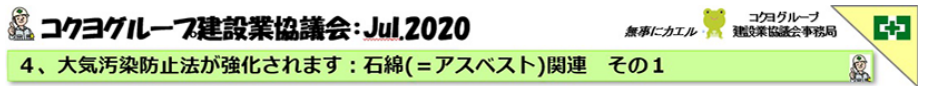
コクヨグループでは現在、日本国内においては、28の環境法令が該当しています。毎年6月に各法令の順守評価を実施しています。ファニチャー製品の一部でグリーン購入法の判断基準の解釈に違いがあったため「適合」除外した製品、合法性の確認が十分でない木材使用の可能性があることが判明した製品がありましたが、合法木材確認をより厳格化した結果と捉えています。その他、重大な法違反はありませんでした。

## 大気汚染防止法改正への対応－アスベスト対策の徹底

2021年4月に改正施行される大気汚染防止法の石綿（アスベスト）飛散防止の強化を受け、現場の安全・工務の実務担当者にその対応を徹底しています。コクヨグループの納品・工事の安全・工務の実務担当者向けに開催しているコクヨグループ建設協議会において、アスベストの有害性やアスベストがもちいられていた時期、事前調査及びその結果への対応の徹底を共有しました。今後、改修工事等の事前調査によりアスベストの使用が判明するケースが増えることが予想されますが、アスベストの飛散防止、作業員のばく露防止のため建設協議会を中心に取り組んでいきます。



コロナ禍のためオンラインで研修



**1. 法改正の背景・経緯**  
 大気汚染防止法の施行状況の検討がなされ、これまでは規制の対象ではなかった石綿含有建材（いわゆるレベル3建材）についても、不適切な除去を行えば石綿が飛散することが明らかになりました。また、解体等工事前の建築物等への石綿含有建材の使用の有無の事前調査で石綿含有建材を見落としたり、除去作業時に石綿含有建材の取り残しがあることにより、工事に伴い石綿が飛散する事例が確認されました。こうした状況を受けて、令和2年6月5日に、建築物等の解体等工事における石綿（アスベスト）の排出等の抑制を図るため、「大気汚染防止法の一部を改正する法律」（令和2年法律第39号。以下「改正法」という。）が公布されました。改正法は一部の規定を除き、公布の日から起算して1年を超えない範囲内において政令で定める日から施行されます。環境省HP> <https://www.env.go.jp/press/107831.html>

研修会資料の一部

## 化学物質の適正管理

コクヨグループでは、化学物質の適正な管理・取り扱いに努めています。

現在、平成28年6月より法改正施行された化学物質のリスクアセスメントの義務化に基づき、各事業所でのさらなる安全管理と環境改善に取り組んでいます。たとえば芝山工場では、購入した塗料などのSDS（Safety Data Sheet：安全データシート）をデータベース化し、使用時の注意事項や関連法規制を記載し、取扱者が必要時に確認できるようにしています。また、塗料などを扱う現場では「毒性・危険性」と「可燃性」を化学物質等の含有率からその注意度を青・黄・赤で色分けして記載したパネルを掲示し、取扱者が扱う際の注意を「見える化」することで事故の防止に努めています。他事業所においても現場に応じた安全管理を実施しています。

## 製品含有化学物質管理の推進

コクヨグループは、法規制物質の不使用はもとより、環境や人体への悪影響が懸念される物質の使用状況を管理し、情報提供することは、商品を提供する事業者すべてに共通する社会的責務であると考えます。一方、従来の化学物質固有の危険有害性のみに着目したハザードベース管理から科学的手法に基づいたリスクベース管理へのシフトが明確となってきています。こうした世界的な流れを受けて、2014年に、ハザードベースでの物質リストの特定をし、2015年はこの物質リストを基に優先順位の高い製品から順次調査を実施しました。2017年は調査結果から得られた情報を基に含有物質の有害性や曝露状況を評価し、「製品含有化学物質管理基準ガイドライン【ステーションナリー編】」を作成しました。2018年は化学物質管理基準をより適切に運用していくために社内にて化学物質管理講習会を実施しました。2020年は改正が予定されている国内の化学物質規制の情報を収集し製品への影響を評価し製品含有化学物質管理基準ガイドラインの改訂に向けた準備を進めております。化学物質に関する法令順守や安全性情報の開示等のお客様の要望に応じていくための力量の向上に努めていきます。



適正な管理・取り扱いを励行（コクヨ本社）



掲示パネルにて有害性・危険性を周知（コクヨ芝山工場）



蛍光X線分析装置で重金属の有無を確認

～環境～

## 環境に配慮した製品・サービスの開発

商品のライフサイクル全体での環境負荷低減に向けて、新たな環境技術やグリーン調達に取り組んでいます。



### エコバツゼロを継続

コクヨグループでは「2008年版総合カタログ」から商品のライフサイクルの各段階（「つくる時」「はこぶ時」「つかう時」「すてる時」）において、そのいずれかひとつでも環境配慮が十分でない自社商品について、「エコバツマーク」を表記し、それを3年間でゼロにする取り組みを行い「2011年版総合カタログ」で「エコバツゼロ」を達成しました。「2021年版総合カタログ」でも引き続きゼロを継続しています。



エコバツマーク

### 海洋プラスチック問題への対応

#### オール紙シリーズ

製品のすべてを紙で作った、ファイリング用品シリーズです。発売は2004年3月で当時は紙・樹脂・金属などに区分して分別することなく、そのまま廃棄できるため処理する際にも手間がかからないことで好評を得ていましたが、最近は世界的な海洋プラスチック問題の高まりを受けて、脱プラスチックの観点で再評価されてきています。2020年は、中の書類が見える窓が付いた分別廃棄不要のオール紙製ペーパーホルダーやオール紙製フラットファイルの厚とジタイプ追加など製品の拡充に努めました。

尚、オール紙シリーズは、環境省が世界的な海洋プラスチック問題の解決に向けて、個人・自治体・NGO・企業・研究機関など幅広い主体が連携協働して取組を進めることを後押しするために設立した「プラスチック・スマートキャンペーン」に参画しています。

クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス（CLOMA）への参加等最新技術動向等を掴みながらプラスチック問題への対応を進めていきます。

<http://plastics-smart.env.go.jp/case/?id=1060>

#### カウネットの取り組み

環境活動の一環として、小さな梱包物についてのお届けは簡易梱包にしています。さらに、簡易梱包で使用するプラスチック袋を環境に配慮したバイオマス原料配合のプラスチック袋に切り替えを進めています。

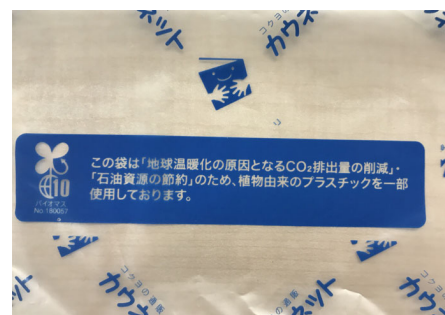
※インターネットでのご注文なら、「簡易梱包」「段ボール梱包」、「指定なし」の3種類の梱包方法をご指定いただけます。



フラットファイル <オール紙>（厚とじ）



ペーパーホルダー <オール紙>（窓つき）



バイオプラスチックを使用した簡易梱包袋

### 商品CO<sub>2</sub>の見える化

コクヨグループは、商品が生まれてから廃棄・リサイクルされるまでのCO<sub>2</sub>排出量を「見える化」するカーボンフットプリントの算出を2010年に実施しその結果を公開しています。詳しくは以下のページをご参照ください。

→ ホームページ「商品CO<sub>2</sub>の見える化」 >

## 国産材・地域材の利用

日本の国土面積の約67%を占める森林は、土砂の流出防止や水源涵養と呼ばれる保水機能、CO<sub>2</sub>の吸収作用などの役割を果たしており、再生産可能な資源でもあります。しかし、その中の約4割に当たる人工林の多くは、間伐などの手入れが遅れ、前述のような森林の多面的機能が発揮できずにいます。

コクヨは1998年から間伐材家具の開発に取り組み、2000年より販売しています。オフィスで積極的に国産材（間伐材）を使うことにより、新しい木材需要を喚起するとともに、森林と生きる持続的社会的実現を後押ししたいと考えています。

### プロトコルカウンター

全国の地域材を使いたいというニーズにも応えられるよう、開発された窓口カウンターです。grafデコラティブモードナンバーズリーのデザインにより、すっきりとモダンなテイストに仕上げています。天板のエッジに杖倒れ防止や車イス利用者用グリップなどを採用したユニバーサルデザインにも配慮した製品です。



ウッドデザイン賞2017を受賞した  
プロトコルカウンター



BS+デスクシステム



UUチェア

### EFカウンター地域材幕板タイプ

将来的な組織変更や運用に合わせて機能拡充が可能な施工型カウンターです。高齢者や車イス利用者にも配慮した、ユニバーサルデザイン仕様です。幕板のみを地域材に対応することによって、標準タイプと同じ機能やバリエーションを実現しています。プロトコルカウンター同様、天板のエッジに杖倒れ防止や車イス利用者用グリップなども採用しております。

#### EFカウンター地域材幕板タイプ納入事例（福井県越前町新庁舎）



2020年10月に福井県の越前町の新庁舎が完成しました。コクヨは窓口カウンターに既製品のEFカウンターの幕板に町産のスギ材を使用したタイプを納入しました。木製の造り付けのカウンターではなく、将来の窓口の変更などに柔軟に組み換えができるもので且つ地域産にも配慮したものにしたという要望に応え、既成のカウンターでありながら来庁者の目につく幕板部分にのみ地域産材を使用したものをご提案、コスト面でも満足いただける商品になりました。庁舎内はカウンター以外にもエントランスホールに越前焼のタイルを使用したり地元材をふんだんに利用した庁舎になっており、非常に温かみのある雰囲気になっています。コクヨグループでは今後も公共建築物の木質化と木材利用促進を支援するため、地域材を有効に活用し、環境に配慮した機能的で、使いやすい製品を提供していきます。



～環境～

## 生物多様性への配慮・環境コミュニケーションの推進

生物多様性に配慮した事業活動を行うことにより、生態系に及ぼす影響の低減とその保全に努めます。高知県の四万十川流域の森林保全活動や、滋賀県の琵琶湖環境の保全活動を積極的に推進しています。

### コクヨグループ木材調達基本方針

コクヨグループは、2011年に「木材調達基本方針」を制定し、持続可能な森林資源を原料とすることを明確にしました。コクヨグループは創業時より紙をはじめとした森林由来資源を活用して事業を展開・発展してきました。我々は、地球温暖化の抑制や生物多様性など森林の果たしてきた役割を認識し、資材の調達に関して合法性・透明性・持続可能性に配慮しながら、今後も森林資源との調和ある発展を目指します。

#### コクヨグループ木材調達基本方針

当社グループは、以下の方針に基づく森林由来資源の調達を推進するとともに、その継続的改善に努めます。

1. 木材貿易における違法伐採・違法取引問題を認識した、より透明性の高い資材の調達
2. 森林資源の持続的利用のための、より適切なサプライチェーンからの資材の調達
3. 地域における森林の社会的な価値・役割の認識に基づく、その維持・保全に配慮した資材の調達

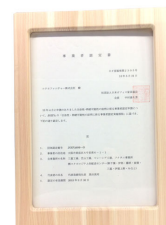
### 「木材合法性証明デューデリジェンスシステムマニュアル（家具版）」の運用結果

2020年は、応接イス2シリーズにおきまして、合法性の確認が十分でない木材使用の可能性があることが判明致しました。当該製品は、同マニュアルに定めるリスク緩和措置として、2020年9月1日より「グリーン購入法（国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律）」の適合品から除外いたしました。今後も本マニュアルの有効性をより高めていくとともに、厳格な確認を実施していきます。尚、本マニュアル（Ver.1.1）はホームページにて公開しています。

木材合法性証明デューデリジェンスマニュアル（家具版Ver.1.1） 

### 「合法性・持続可能性に係る事業者認定」を取得を取得

グリーン購入法改訂に伴うJOIFA（日本オフィス家具協会）の「合法性・持続可能性に係る事業者認定」を取得しています。この実施規定に基づき、帳票管理や責任者選任、使用実績報告など合法性・持続可能性が証明された木材、木材製品の使用・販売推進に努めています。



### 森林認証商品

コクヨは2003年よりFSC®・COC認証を取得しています。FSC（Forest Stewardship Council®森林管理協議会）とは、国際的な森林認証制度を行う第三者機関の一つで、森林環境を適切に保全し、地域の社会的な利益にかなう、経済的にも持続可能な森林管理を推進することを目的としています。また、COC認証とは、Chain-of-Custodyの略で、加工・流通過程の管理の認証です。コクヨグループではコクヨ・カウネット・コクヨ工業滋賀がFSC®・COC認証を取得し、コピー用紙・ノートなどのFSC®認証製品を販売しています。2016年にはPEFC・COC認証も取得しました。PEFC（Programme for the Endorsement of Forest Certification Schemes）とは、各国・地域で作成された森林認証基準を相互承認する団体です。コクヨグループでは持続可能な森林資源利用のため認証商品の拡大に努めています。（FSC® C004748）



PPCカラー用紙



ヨシコピー用紙

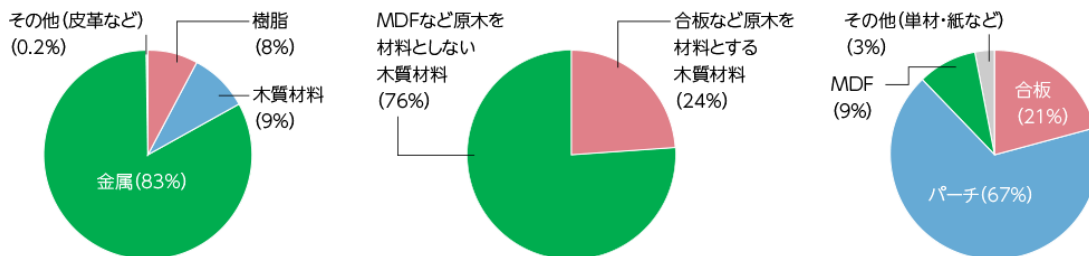


FUBI



## 木材利用状況

2020年のファニチャー製品に利用する木質材料は約6,500トンでした。これは全原材料（梱包材除く）の9%に相当します。この木質材料の内、24%が無垢材や合板など「原木を材料とする木質材料」で、76%が間伐材、廃木材、未利用材及びその二次加工品である木質ボード（MDFやパーティクルボード）など「原木を材料としない木質材料」となっています。これらの情報はJOIFA（日本オフィス家具協会）ヘグリーン購入法の合法木材事業者認定の年別取扱実績として毎年報告しています。また、JOIFA木質表記ガイドラインに沿って「原木を材料とする木質材料」の樹種を把握するよう努めています。



## 木材利用実績調査

コクヨではファニチャー製品に利用する木質材料の樹種、取扱量、原産国・地域を毎年、調査しています。ただ、市販部品等に関しては、原産国の特定は困難を極めておりますが、持続可能な資源利用のため、引き続き把握に努めていきます。

樹種名	材形状	取扱量 (m <sup>3</sup> 換算)	原産国、地域等
アッシュ	単材、突板	8	アメリカ
アユース	突板	1	イタリア、カメルーン
ホワイトオーク	平板	15	カナダ、アメリカ
カブール	合板	27	マレーシア、インドネシア
スギ	集成材	5	日本
ナラ		2	ロシア
ビーチ	無垢材、合板	140	ドイツ、クロアチア、フランス
ポプラ		136	アメリカ、カナダ
メープル		1	アメリカ
ラワン	合板	960	インドネシア、マレーシア
ラバーウッド	集成材	87	ベトナム、タイ、マレーシア
ニアトー	平板	20	マレーシア
ラジアタバイン	集成材	3	ニュージーランド
合計		1,294	

※ サプライヤーから伝達された情報を集計。MDFなど原木を材料としない木質材料は除く。

※ 原産国・地域などが特定されている樹種のみ開示しています。

# 結の森プロジェクト

2006年、コクヨは高知県四万十町大正地区の民有林を「結の森」と名付け、「人工林の再生」と「自然環境と地域社会の再生」をテーマに、間伐材の有効活用を中心とした森林保全を開始し、2007年よりFSC®（Forest Stewardship Council®森林管理協議会）の森林認証を取得しています。結の森は現在、対象面積は5,425ha、累計間伐面積が1,900haまで拡大しています。また、2007年より、高知県から「CO<sub>2</sub>吸収証書」が交付されており、2019年度単年では5,708t-CO<sub>2</sub>、累計では62,022t-CO<sub>2</sub>になりました。（期間：2006年4月～2020年3月）

2020年10月に「持続可能な社会づくり活動表彰【機構会長賞】」、12月に「第18回企業フィランソロピー大賞【森林の守り人賞】」を受賞しました。2017年には「ウッドデザイン賞2017」、2018年には「生物多様性アクション大賞特別賞グリーンウェイブ賞」2019年には「低炭素杯2019 優秀賞」、第7回環境省グッドライフアワード環境大臣賞「企業部門」を受賞しており、4年連続7回目の受賞となりました。

※ 関連情報：外部からの表彰・評価 >



第18回企業フィランソロピー大賞  
企業フィランソロピー賞「森林の守り人賞」

## 高知県から「CO<sub>2</sub>吸収証書」が授与されました

2020年8月20日、高知県庁にて、高知県 林業振興・環境部 川村部長よりコクヨ分：5,162t-CO<sub>2</sub>、カウネット分：546t-CO<sub>2</sub>計5,708t-CO<sub>2</sub>分の「CO<sub>2</sub>吸収証書」が授与されました。川村部長より「長年にわたり、環境保全・森林整備・産業振興・高知県のPRなど、さまざまな面で大変貢献していただいている」と感謝の言葉をいただきました。

尚、5,708t-CO<sub>2</sub>は、コクヨグループの2020年のCO<sub>2</sub>排出量32,299t-CO<sub>2</sub>の約18%に相当する量となります。森林保全のみならず地球温暖化防止の観点でも重要な取り組みとなっています。

## FSC®認証を取得しています

結の森は2007年よりFSC（Forest Stewardship Council®森林管理協議会）の森林管理認証を取得しています。2020年9月29日～30日に定期審査が実施され、引き続きFSC®認証を継続しています。



CO<sub>2</sub>吸収証書の授与



CO<sub>2</sub>吸収証書



FSC® 審査の様子

## 間伐の効果を定期的に監視しています

森林保全活動を行う上で必要不可欠なのは、間伐効果を「見える化」することです。活動の効果を長期的に監視していくため、四万十町森林組合、四万十高校、高知県・四万十町の職員の皆さんと共同で、モニタリング調査を実施しています。2020年は8月19日に四万十川清流基準調査を、11月21日に植生調査を実施しました。植生調査では、特定の2地点において調査を継続しています。

※ 関連情報：「四万十高校生によるレポート」 >

## 間伐材の有効活用

間伐材の有効活用のために、コクヨでは2000年より地元の四万十町森林組合と協働で間伐材家具を製造・販売してきましたが、通販会社のカウネットも2007年から「結の森」ブランドの商品として文具を中心に販売を開始し、2020年現在で12品番になっています。カウネットでは活動への理解と賛同者を増やすため、お客様のポイントを結の森の間伐に寄付する仕組みを2008年から実施しており、本年も約120件のお申し込みがありました。加えて、2011年2月より「結の森1%寄付プロジェクト」をスタートさせ、現在も継続しています。これは「結の森」商品の売上の一部を公益社団法人国土緑化推進機構の「緑の募金」に寄付するというものです。



清流基準調査の様子



植生調査の参加者



カウネット「結の森商品」



## 琵琶湖のヨシ原を知る ～ ReEDENプロジェクト～

琵琶湖の水環境、生態系、そして二酸化炭素の回収に重要な役目を果たしているヨシ（葦）原。「ヨシ葺き屋根」「すだれ」等の伝統産業の衰退により、手入れが行き届かなくなったことで、かつて260haあったヨシ原は半減してしまいました。滋賀県では、1992年にヨシ群落保全条例を定め、「守る」「育てる」「活用する」の3本柱で保全に努めています。これらの条例を実践することで豊かな琵琶湖環境を守り、気候変動の軽減にも貢献できると考えたコクヨ工業滋賀は2007年、ヨシを通した「活動」と「活用」の両輪で、琵琶湖環境の保全・維持に貢献する事業をスタートさせました。

## 琵琶湖のヨシ原を守る ～ ヨシでびわ湖を守るネットワーク～

ヨシを育てるには、冬の刈り取り作業が最も重要です。2009年、ボランティア活動組織「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」を設立するにあたり、単なる一企業の活動に留まらない組織を作るため、県内事業所を歩き、琵琶湖をキーに「地域共通の環境課題と一緒に関わっていく」ことを訴え、多様な主体がつながる共同体を目指しました。当初、数社の賛同を得てスタートしたこの組織は、徐々に賛同の輪が広がり始め、現在131社が参加する規模となり、産学官民が協働するヨシ刈り活動（年3回／12月～3月実施）を、これまで10年以上に渡り実施しています。近年の活動では、多数の事業体とその家族に加え、地元住民、行政、県立博物館、学校も参加する規模となり、子供からシニア層まで1開催200～300名が参加する県内最大級のヨシ刈り活動となり、地域一体となった保全活動に成長しています。



壮大な冬のヨシ原風景



2020年2月8日：コロナ感染症が蔓延する直前に開催できた「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」によるヨシ刈り風景



## ヨシ原保全を通した低炭素社会づくりへの挑戦 ～ 保全活動の成果を見える化する～

これまで保全による成果は、県が唯一公表する面積でしか評価されておらず、他の科学的評価が期待されていました。一方、間伐等の森林保全は、炭素吸収・固定量を指標として全国的に推進されています。私達は、ヨシ材においても炭素を植物内に回収する効果があり、森林と同様に炭素回収量として評価できると考え、2017年より研究者と共に冬のヨシ原のバイオマス調査に取り組み、ヨシの「高さ」「密度」「重さ」「太さ」「炭素量」を3年間に渡り測定し、蓄積したデータからヨシの炭素回収量を数値で示す手法を構築しました。これにより保全面積でしか評価できなかったヨシ刈り活動の効果が、全く新しい角度から数値評価が可能となったのです。この取り組みは、学識者で構成する滋賀県ヨシ群落保全審議会が高い評価をいただき、2019年末には、産学官で「刈り取り面積」×「ヨシ高さによる換算値」でCO<sub>2</sub>回収量を算出するツールを開発し、「ヨシ刈り活動によるCO<sub>2</sub>回収量の算定ツール」として、滋賀県ホームページで公開されています。これにより活動の低炭素社会づくりへの貢献が可視化され、琵琶湖の水の浄化や生物多様性の効果に加え、CO<sub>2</sub>を回収する気候変動の軽減と緩和にも貢献していることを証明することができるようになり、活動のモチベーションアップと広がりにつながる大きなプラス要因となりました。今後、このツールを広めることで地域全体の活性化を図り、すでに全国で行われている森林カーボン回収制度に続き、他に類のない水辺バージョンのカーボン回収量認定制度の構築を目指しています。



密度の測定



重さの測定

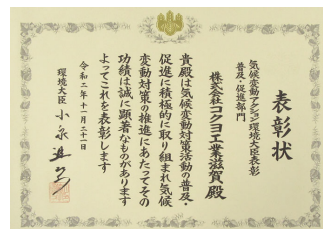


太さの測定



高さの測定

4年の歳月を掛けたこの取り組みは、2020年11月に環境省主催：「令和2年度 気候変動アクション環境大臣表彰」を受賞しました。残念ながらコロナ渦ということでオンライン授賞式となりましたが、これまで、「琵琶湖の水の浄化」「生物多様性」「青少年の育成」などの方向から評価、表彰を受けてきましたが、今回は、今、世界中で危惧されている気候変動という角度での受賞となりました。持続可能な社会づくりに貢献する一地域の小さな活動ですが、これからも地道に継続することの大切さを実感しています。

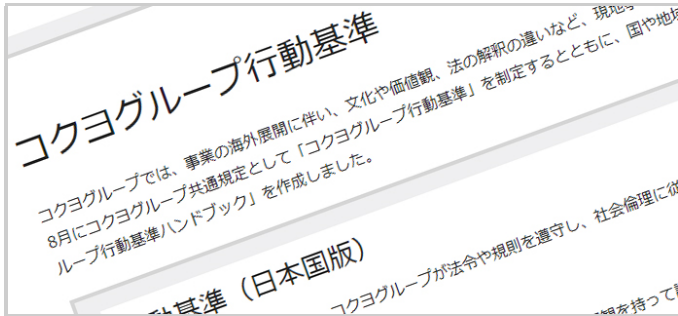


❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に 取り組む領域	❖コクヨの取り組みと、 その歩み	❖未来と社会のための 取り組み	❖コクヨのさまざまな 取り組み	❖2020年、コクヨの 取り組みのご紹介	❖トップメッセージ
❖コクヨのCSR	❖コクヨの マテリアリティ	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

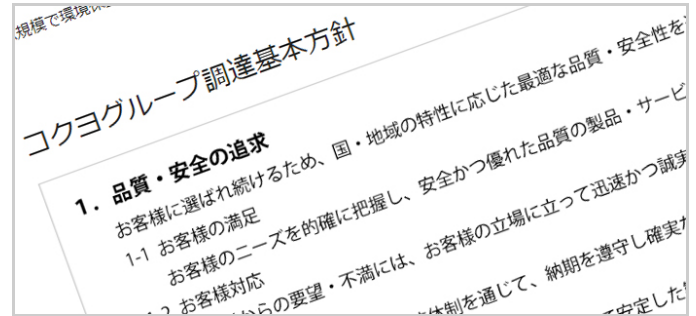
～社会～

## 人権尊重

コクヨグループの事業活動・CSR活動を進める上で、あらゆるステークホルダーの人権を尊重するために、社員に向けてコクヨグループ行動基準、取引先に向けてコクヨグループ調達基本方針を定めています。



コクヨグループ行動基準



コクヨグループ調達基本方針とガイドライン

～社会～

## 働き方改革

### 考え方

コクヨは持続的成長力を獲得するため、「時間の使い方」を軸とした、各社員の働き方の変化を起こしていきます。社員がテレワークなどを活用しながら自律的に働く時間と場所を選択する働き方を実践し、また生産性向上の阻害要因を解決し「可処分時間」を増加することで、組織や個人の成長に繋げることを目指します。

### しくみ

#### ワークライフバランスの実現

コクヨグループではワークライフバランスに配慮して、働きやすい環境づくりに努めています。これらの取り組みが認められ、2020年12月末現在、グループ3社が「くるみんマーク」を取得しています。「くるみんマーク」は、少子化の改善を推進する厚生労働省が次世代育成支援対策推進法に基づいて「子育て支援に積極的な企業・団体」に交付しているマークです。

【取得会社】（2020年12月末現在）

コクヨ（株）、（株）カウネット

コクヨマーケティング（株）



#### 働く場所と時間の柔軟化の推進

コクヨでは、コアタイムの無いフレックスタイム制を導入し、メリハリをつけて時間を有効活用することを推進しています。また、オフィスワークとリモートワークのバランスを取りながら、効率的に働くことを目指しています。

#### 自己都合退職者再雇用制度

結婚・出産・育児・介護・配偶者の転勤・留学・ボランティア・転職、及びその他会社が認めた事由により、自己都合で退職した正社員を再雇用する制度を設けています。

コクヨグループの外で過ごした間に培われた経験・知識がグループ内にもたらされ、グループのダイバーシティがさらに広がることが期待されています。

#### 定年退職者の再雇用

コクヨでは、原則として、60歳定年後もコクヨグループで勤務を希望する社員全員が、シニア社員として勤務を継続することを可能とする制度を整備しています。

この取り組みにより、社員が定年後も社会で活躍できる機会を提供するとともに、これまでの勤務で培われた豊かな経験・知識が活用され、後進の育成に寄与されることが期待されています。

## 2020年の取り組み

### 新たな働き方「PLAY WORK」の取り組み

2020年4月より、新たな働き方や福利厚生制度の取組みを開始しました。「PLAY WORK」をコンセプトに、「変化に強い多様な集団になること」「個人が自分らしく生き働くこと」を後押しすることを目指します。具体的には、「時間の使い方」を軸とした変化を生み出すことにこだわり、以下のような制度の運用を開始しました。

- ・リモートワークを活用した働き方
- ・総実労働時間の効率化（年間1930時間/人を目指す）
- ・生き方・働き方を見直すための特別休暇の新設
- ・可処分時間の増大と健康・学びへの投資を後押しする新たな福利厚生制度

長く生き働く時代を見据え、コクヨ社員が社会で活躍し続けられるようにこれらの制度を運用し、社員の心身の健康増進と、学びを通じた能力向上に取り組んでいきます。



## 経費精算ペーパーレス化スタート

2020年7月、コクヨグループ内の9社の経費精算システムを改修。それに合わせ、一部の精算にペーパーレス化を実施。「経理内での業務効率化」だけでなく、同システムを使用するグループ各社の「働き方の柔軟化」を目指したものです。コクヨは、さまざまな取り組みを通して、多様な働き方に挑戦してまいります。

## AIを理解し、活用する社内講座を実施

2020年8月～10月にかけて、AIを「理解し、活用する」ための特別カリキュラムを東京・大阪の2拠点で実施し、約70名が参加しました。外部講師によるAI・機械学習を扱うためのプログラミングや数学の実技学習のほか、業務にAIを活用するアイデアを出し合いました。AIバブルとも言われる流れと向き合うとともに、「デジタルトランスフォーメーション(DX) (※)」につながる手応えを得られた講座となりました。

※ デジタル技術による業務やビジネスの変革



講座実施の様子(東京)

## 自動追従・けん引ロボット「CarriRo®(キャリロ)」家具納品現場に初導入

コクヨロジテムでは2019年12月3日、様々な物流機具や台車をけん引、追従、自律走行するロボット「CarriRo®(キャリロ)」を導入。オフィスビルへの家具納品現場には初導入となるため前例がなく、販売とコクヨロジテムが協業で家具の搬入に最適な改良を実施。これからも物流現場へのITツール導入による効率化と省人化を進めてまいります。

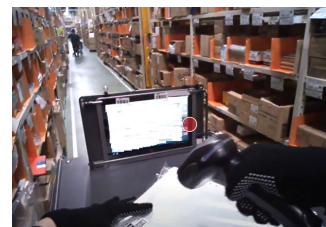


「CarriRo®(キャリロ)」を活用した納品現場の様子

## 物流現場でアイトラッキング調査を実施

コクヨの物流拠点である、コクヨサプライロジスティクス中部IDCで、生産性・品質向上を目指し、カートピッキング作業のアイトラッキング調査(視線計測)を実施。熟練者と非熟練者の作業中の視線と行動をを比較分析しました。作業の問題と生産性が上がる行動を洗い出し、人材育成や設備の改善に活用しています。

「コクヨサプライロジスティクス中部IDC」ホームページ [📄](#)



アイトラッキング調査で撮影された一場面。赤い点は作業者の視線を表す。

## メリハリ・チャレンジ制度 (提案制度、表彰制度)

第2次中期経営計画における重点テーマ「メリハリ倍速運営」。これは、社員一人一人が自ら考え、スピード感を持って新しいチャレンジを進めることで、仕事の改善や効率化を図ろうという活動です。コクヨグループでは、この活動を推進する取り組みの一つとして、年間通して、メリハリにつながる「メリハリ提案」と「メリハリ実践賞」を募集しています。2020年は、コロナ禍を経て私たちの働き方が大きく変わった今だからこそ知りたい、『働き方を良くするアイデアやコツ』を募集しました。また、メンバーの成長やパフォーマンスを上げるリーダーを表彰する「トップブル賞」も新設しました。

今回応募された中には、コロナ禍のピンチをチャンスに変えた様々な取り組みがエントリーされていました。また、新設した「トップブル賞」では、どの応募にも、リーダーに対するメンバーの感謝の思いが込められていました。

受賞者を表彰するとともに、それぞれの提案に対しては、役員や事業本部長らからフィードバックを実施します。この活動より、「自ら考え、実行する人を評価する」しくみを根付かせていくことを目指します。

～社会～

## ダイバーシティの推進

### 考え方

「社員一人一人が本来持っている能力を発揮するため、さまざまな境遇や価値観を認め合い、多様な働き方を実現できる環境をつくりあげていくこと」を目指し、下記4つの基本テーマに沿って取り組みを進めています。

<b>ダイバーシティに取り組む意義の共有</b> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 働きやすい風土の実現に向けた意義の共有</li><li>■ 能力を生かす風土の実現に向けた意義の共有</li></ul>	<b>ワークライフバランスの実現</b> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 仕事と私生活の両立ができる環境づくり</li><li>■ 生産性の高い働き方の実現</li></ul>
<b>制度構築・浸透</b> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 柔軟な働き方を実現する制度づくり</li><li>■ 諸制度の社内浸透</li></ul>	<b>多様な人材の活躍支援</b> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 国籍・人種・性別・年齢・宗教・学歴などに関わらず、多様な人材の活用</li><li>■ 女性活躍推進</li></ul>

### しくみ

#### 育児・介護支援を目的とする主な諸制度（※）

ダイバーシティ推進の一環として仕事と出産・育児・介護の両立がしやすい環境を整えるため、法定以上の制度の充実を図っています。（下線部は法定以上）

産前産後休暇	産前6週間（多胎妊娠の場合14週）、産後8週間
配偶者出産休暇	配偶者の出産時に認められる休暇、 <u>1回につき2日</u>
育児休業	<u>子どもが満2歳に達する日まで（4月生まれの場合に限り満2歳の4月末日まで）</u>
子の看護休暇	小学校就学始期まで、1年間に5日、2人以上の場合1年間に10日まで（時間単位での取得も可）
介護休業	要介護者1人につき、 <u>通算183日まで</u> （3回まで分割取得可）
介護休暇	要介護者1人につき、1年間に5日、2人以上の場合1年間に10日まで（時間単位での取得も可）
短日・短時間勤務	・ 育児：子どもが小学校3年修了時まで　・ 介護：要介護者1人につき3年まで
在宅勤務	オフィスワークとリモートワークを活用した働き方を実施中
再雇用	<u>結婚・出産・育児・介護・配偶者の転勤・留学・ボランティア・転職、及びその他会社が認めた事由により退職した正社員が対象</u>

※ コクヨ及び主要子会社の制度（原則フレックス勤務は全社員利用可能。コアタイム設定の無いフレックスタイム制度を導入）

※ 関連情報：育児休業・介護休業取得者数 >

#### コクヨグループの障害者雇用

コクヨの障害者雇用の歴史は1940年にさかのぼります。現在の本社エリアにあった今里工場に、大阪市立聾唖学校（現在の大阪府立中央聴覚支援学校）の生徒を採用したのが最初です。

コクヨグループにおける障害者雇用の転換になったのが、2002年に発表された事業構造改革プラン。コクヨ分社化によって生まれる個々の子会社が障害者雇用にどう対応するかが検討され、2003年9月に特例子会社として「コクヨKハート」が設立されました。さらに2006年12月、知的・

精神障害者の雇用を目的としたハートランドが設立されました。

コクヨグループにおける障害者雇用率は、2020年6月1日現在で2.30%となっています。現在、ダイバーシティ & インクルージョン推進の一環として、互いの「違い」を超えて共に持続的成長を目指すための全社プロジェクトを立ち上げ、コクヨグループの業務フローにコクヨKハートの社員が参画することを全グループを挙げて推進しています。

※ 関連情報：従業員の構成（障害者数） >

## イクボス企業同盟に参加

ファザーリングジャパンが発起人であるイクボス企業同盟に2014年12月の発足以来参加しています。部下が育児や介護、病気などで時間制約のあることを理解しながら、社員一人一人の能力を生かし、組織として成果を出すためには、マネジメントの意識改革が不可欠です。イクボス企業同盟に参画することにより、同じ課題意識を持つ先進企業と知見を共有し、自社のダイバーシティマネジメントのあり方や働き方、職場風土を見つめ直す機会にしたいと思っています。参加企業間の協働により、新しい時代の理想の上司（イクボス）像を考え、育成していくとともに、新しい「働き方」を提案する企業として、お客様の課題解決にも繋げていくことを目指します。



## 2020年の取り組み

### コクヨロジテムがスモールチーム活動を始動

ロジテムでは10年後の2030年度のありたい姿を見据え、社員がイキイキ・ワクワク働くことが出来る社内風土を確立するため、2020年度よりスモールチーム活動（S T活動）を開始しました。

このS T活動では、組織や職階、年齢や職種・性別、勤務地をも越えた横断型のチーム編成となっており、多様な社員が上下のないフラットな関係の下、未来の働き方やダイバーシティ・IT技術の導入等、それぞれのテーマに沿って活発に議論・活動をしています。

# 人材マネジメント

## 考え方

時代ごとに変化する、お客様や社会が抱える課題に対して、新たな価値の創出にチャレンジし、持続可能な社会の実現に資する価値を提供し続けることを目指しています。その実現に向けて、多様性の尊重を前提とし、個人がもつ創造性を引き出しながら、仕事を通じたチャレンジを後押しし、会社の成長と社員一人一人の成長をつなげることにこだわります。

## しくみ

### 会社の成長と社員一人一人の成長をつなげる環境整備

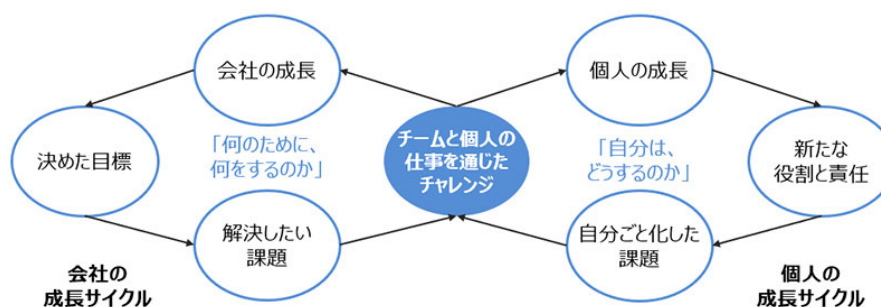
2018年度より本格運用を開始した人事制度では、基幹職は年齢や経験に関わらず役割と責任の大きさに応じた役割等級、組合員は能力の大きさに応じた能力等級としています。会社の戦略に応じて組織・役割を明らかにした上で適材をマッチングする適所適材の配置、会社全体で「何のために、何をするのか」を上司部下の対話でつなぐ目標設定、達成度を絶対評価しメリハリをつけた処遇への反映を推進しています。

2019年度からスタートした第2次中期経営計画方針『持続的な成長力の獲得Smart & Sustainable Transformation 2021』では、人事制度の運用の質向上と併せて、中長期での事業成長の加速を前提とした適所適材の配置登用や能力開発の推進を通じ、会社の成長と社員一人一人の成長をつなげる仕組みづくりを強化しています。実際に、30歳代前半で経営の一端を担う基幹職登用、30歳代後半での部長への登用、40歳代での役員への登用など、年齢に関わらない配置登用事例が増えてきました。

今後は2021年2月に発表された「長期ビジョンCCC2030」の実現に向け、社会課題を解決しながら新規事業の創出や成長を牽引する事業家人材の育成・輩出に向けた取組みを強化していきます。

### 会社の成長と社員一人一人の成長をつなげるサイクル

チームと個人の仕事を通じたチャレンジにより、事業の課題解決と個人の成長をつなぎながら、スパイラルアップしていくことを目指し取組みを進めています。



## 成長マネジメントの体系

基幹職・組合員それぞれの成長ステージに合わせて、人事制度をインフラとして活用しながら、「目標設定・評価」「活用（配置登用）」「能力開発」をつなげて取り組みを推進しています。

成長ステージ	組合員		基幹職
		仕事を通じたチャレンジにより能力を伸ばし、周囲を巻き込みながら、事業成長に貢献する	
方針	能力開発	目標設定・評価	活用（配置登用）
	中長期の事業成長に向けてSkillとWillの掛け合わせで一人ひとりの能力向上を後押しする	対話を通じた役割の明確化と達成度に対する絶対評価により当事者意識を引き出す	事業戦略に合わせた全体最適の適所適材によりチャレンジ機会を創る
取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <u>ビジネスリーダーシップの強化</u></li> <li>✓ <u>ベース・コア能力の向上</u> 「3C」「周囲を巻き込む」「試して振り返る」能力の強化</li> <li>✓ <u>職種固有スキルの向上</u></li> <li>✓ <u>立上支援</u> チューター制度、フォロー面談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <u>カスケード</u> 「何のために、何をするのか」上司部下の対話で繋ぐ目標設定</li> <li>✓ <u>能力伸長</u> 「どの能力を、どう伸ばすか」個人特性に応じた目標設定</li> <li>✓ <u>達成度に対する絶対評価</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <u>適所適材の配置</u> 人材会議、等級変更会議</li> <li>✓ <u>キャリアチャレンジ</u> 個人のキャリア希望表明 キャリア面談</li> <li>✓ <u>20%チャレンジ（社内複業）</u></li> <li>✓ <u>組織横断プロジェクト</u></li> </ul>

## キャリアセンターを設置し、社員一人一人の新たなチャレンジを支援する機能を強化

事業の課題解決と個人の成長をつなげながら、社員一人一人の意思や能力を踏まえた個人起点での新しいチャレンジを後押ししていく組織として、2018年に「キャリアセンター」を設置し、運営を強化しています。社員一人一人が中長期的にココヨでチャレンジしたい仕事や伸ばしたい能力を意思表示する「キャリアチャレンジ」という仕組みを活用しながら、専門アドバイザーによる個別キャリア面談を通じて、社員がキャリアや能力を伸ばす方向性を具体化していくことを支援しています。社員一人一人との対話を通じて本人の意思を把握し、能力やキャリア等の人材データを活用した適所適材の配置登用につなげていくことで、新たなチャレンジを後押ししています。

## 2020年の取り組み

### 仕事を通じた新たなチャレンジ機会の創出

#### ●社内複業「20%チャレンジ」の取り組み開始

2020年より、主体的なキャリア形成・能力向上、組織の活性化を後押しすることを目的として、自ら手をあげ、業務時間の20%程度を活用して他組織の業務にも参画する「20%チャレンジ（社内複業）」の取り組みを開始しました。組織側の求人テーマに対し社員が応募し、求人先上司と人事でマッチングを行っています。期間は3~12か月で、取り組みでの成果や貢献も個人の実績評価に加味する形で運用し、初年度は57名が、海外事業の市場調査や戦略推進支援、学びのデジタル化の未来を見据えた研究開発、社員の環境意識の向上等、所属事業や組織を跨いだテーマにチャレンジしています。また、生産性を高めながら現業の成果を落とさずに「現業80%+新しいテーマ20%」の状態を目指し、業務工数を可視化しながら、本人・上司・人事で対話しながら、業務の見直しや軌道修正を進めています。

求人元組織 ドメイン/部門	チャレンジテーマ	チャレンジメンバー ドメイン/部門
1 コーポレート/海外事業開発	学びのデジタル化を推進するサービス企画/実行	コーポレート/海外マーケティング コーポレート/人事
2 コーポレート/海外事業開発	対象国別の戦略推進支援	営業開発/営業
3 営業開発/マーケティング	デジタルを駆使した「オンラインCPA」の企画/実行	営業開発/営業 コーポレート/海外戦略
4 海外/カスタマーサポート/マーケティング	WEBコンテンツの制作/改善/企画/編集	営業開発/デジタルマーケティング 海外/カスタマーサポート/マーケティング
5 海外/カスタマーサポート/マーケティング	Web3/3D技術のワークス企画立案	営業開発/営業 海外/カスタマーサポート/マーケティング
6 ビジネスプロ/AMD	約20%の時間/スキルをフル活用する商品企画	営業開発/営業 海外/カスタマーサポート/マーケティング
7 コーポレート/広報	音声・動画メディアを活用し、経営/現場/顧客とリアルタイムコミュニケーションの推進/実施	営業開発/営業 コーポレート/広報 コーポレート/海外戦略

チャレンジ事例



テーマNo.4



テーマNo.7

### 能力開発の推進

チームと個人の仕事を通じたチャレンジを後押ししていくために、事業の目指す方向性やその実現のために全社でこだわりたい仕事の進め方に照らして優先テーマを設定し、現場での行動変化にこだわった能力開発を推進しています。

#### ●若手層に向けた「ココヨマーケティング大学」の実施

将来にわたってユニークな顧客価値を提供し続ける企業であるために、開発や企画に限らずVCのあらゆる職種において重要な顧客起点マーケ



ティングの基本姿勢を身に付ける場として、社会人経験3～12年目の若手層を対象とした、実践型プログラムを実施しています。戦略・マーケティング手法について学んだ後、すぐに得た知識を使ってココヨの新規事業企画案に落とし、外部の戦略プロフェッショナルによるコーチングを受けながら、約半年間チームで磨き上げ、最終的に経営に答申する形式です。2017年より取組みを始め、100名以上の若手社員がチャレンジしてきました。開設から4年を経て、卒業生が伴走するメンター制度導入による学びのレベルアップ、卒業生の現業でのアウトプットの変化や新たなチャレンジに繋がる異動等、マーケティング大学を起点とした展開やアクションに繋がっています。



4期生の最終発表会の様子



3期生最終発表会全員集合

#### ●中堅リーダー層に向けた「ココヨマーケティング大学院」の実施

10年先を見通せる運営モデルに変化するために、自社都合に陥らず、未来の事業環境を客観的に考察し、戦略を検討する仕事の進め方にチャレンジしていきたいと考えています。そのために、30-40代の中堅リーダー層を中心に未来シナリオプランニングスキルを習得し、日々の価値創造のプロセスにおいて発揮を後押しするプログラムを始めました。経営議論を経て決めた10年先を見据えた事業テーマに対し、外部の経営戦略プロフェッショナルによるコーチングを受けながら、約9か月間チームで磨き上げ、最終的に成長戦略を経営に答申する形式です。2019年より取組みを始め、2020年はオンライン中心に実施、50名近くの中堅リーダー層がチャレンジしています。実際の提案の中から、2案が事業化検討フェーズ、2案が研究開発のテーマアップへ繋がっています。



～社会～

## 社員とのコミュニケーション

### 考え方

コクヨでは、社員同士のコミュニケーションを活性化させるために、さまざまな媒体を通じた発信や仕組みづくりに取り組んでいます。イントラネットを活用した社内報の運用のほかにも、各拠点でのイベントも活発に行っています。

### しくみ

#### 社員満足度調査

コクヨグループでは、働きやすい職場環境づくりを目的として、年1回『従業員サーベイ』を実施しています。

このサーベイ結果に基づき、ヒアリングによる課題把握や、動画による課題への対応事例の紹介を通じて、個々のさまざまな課題に対して、自律的な解決を促進しています。

さらに、毎月のパルスサーベイを実施し、チームで職場の状態を振り返りながら、対話を通じて職場を良くしていく取り組みも推進しています。

#### 2020年の取り組み

##### 社員間のネットワークづくり「TeleCROSS!!!」

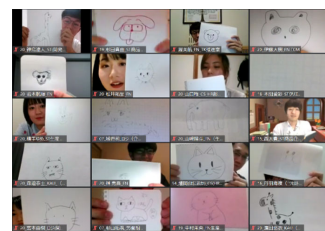
これまで一部拠点で開催してきた、学びや趣味など様々なテーマの社員交流イベント「CROSS!!!」を、4月から「Tele CROSS!!!(テレクロス)」としてオンライン開催しています。新型コロナウイルスの影響でリモートワークが進むなか、社員の不安を緩和し、元気づける場作りになっただけでなく、これを機会に、遠方拠点の社員も参加できるようになりました。



開催中の様子

##### 「オンライン新入社員歓迎会」を初開催

新型コロナウイルス感染拡大により社内イベントが中止となり、また、20年度新入社員の多くは在宅研修が続きました。コミュニケーションや関係づくりの不安を解消すべく、「オフラインを超えるオンライン」をテーマにした歓迎会を実施しました。在宅ならではのゲームを多く取り入れ、コロナ禍での新たなコミュニケーションを考えるきっかけとなりました。



お題に合わせて描いた絵を見せる新入社員

～社会～

## 社員の安全

### 考え方

安心・安全で快適な職場づくりや、災害時の安全対策などは、社員が生き生きと働き、能力を発揮するための基盤であると考えています。そのため安全衛生のグループ統括機能である「コクヨグループ中央安全衛生委員会」が中心となり、各事業所の安全衛生委員会を結び、社員と活発な意見交換をしながら、仕組みや体制を整えています。

#### コクヨグループ安全衛生基本方針

##### 【基本方針】

Safety First！コクヨグループは、一人一人の心と体の健康と安全を事業の基盤と位置づけ、安全活動を推進します。

##### 【行動指標】

- 1.労働安全衛生法等の関係法令ならびに社内の指針・基準を遵守します。
- 2.継続的且つ自律的な職場改善を促すとともに、労働災害や疾病の予防に努めます。
- 3.グループの事業にかかわる全ての人の安全と健康を確保するため、全員参加型の風通しの良い風土作りを推進します。

### しくみ

#### コクヨグループ建設業・工場安全衛生大会

全国安全週間（※）（7月の第1週）、日本中が改めて安全の大切さを考えるこの時期に、コクヨグループでも全国各地で安全を考え、意識を高める目的で安全衛生大会を開催しています。

2020年度は新型コロナウイルス感染症対策を施した上で開催しました。

※厚生労働省と中央労働災害防止協会の主催により、「産業界での自主的な労働災害防止活動を推進するとともに、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ること」を目的として実施するもの

##### ●【建設業】コクヨグループ建設業安全衛生大会

コクヨ建設業安全衛生推進委員会は「企業の成長を支える基盤は、社員と仲間の安全と健康である」という考えのもと、全国7会場において、コクヨグループ建設業安全衛生大会を開催しています。2020年度は初のオンライン配信による安全大会を実施。建設業安全衛生推進委員会の活動報告や協力パートナーの方々の表彰などを行いました。

##### ●【工場】コクヨグループ国内工場での安全衛生大会・安全パトロール

国内5工場7拠点で安全衛生大会と安全パトロールを実施しています。2020年度的安全衛生大会は、各工場で3密を回避する工夫などの対策を施すことで、例年どおりに労働災害データ、安全への取り組み方針の説明、テーマ研修などが行われました。

安全を守る風土を未来に繋げていくために、拠点ごとに年に一度立ち止まって安全を考える場を、これからもグループ全体で設けていきます。

##### ●【開発】ものづくり安全大会・安全パトロール

コクヨ商品の開発や品質検査等を行うワークショップが参加しコクヨ本社にて安全大会と安全パトロールを実施していますが、2020年度は3密を回避するために、初めてオンラインで開催しました。この安全大会では開発現場においても機械工具や多くの化学物質を扱うため、労働災害防止を従業員に改めて周知・確認する場として行っています。今回はオンライン開催の利点を活かし、在宅勤務者や東京品川の社員も参加することで、例年にない大人数での開催を実現しました。

### 2020年の取り組み

#### コクヨグループ工場意見交換会2020を開催

8月から10月にかけて、コクヨグループ中央安全衛生委員会主催にて、グループ国内海外各工場の工場長および安全担当者と各社の日頃の安全衛生活動や今後の課題を意見交換する工場意見交換会を実施。業種を越えたグループ内の安全衛生の輪を広げていくことを目指し、積極的な意見交換を行いました。

コクヨグループでは、「企業の成長を支える基盤は社員の健康と安全である」という考えのもと、こうした活動を通して社員の健康と安全を維持し、いきいきと働ける環境・風土づくりを目指しています。

## 新型コロナウイルス対策本部設置、オフィスの感染防止対策

2020年1月下旬、コクヨグループでは「新型コロナウイルス対策本部」を設置し、緊急事態宣言下で働き方が多様化する従業員の不安も取り除くべく、活動しています。アルコール消毒液の設置等はもちろん、独自の取り組みとして、フリーアドレスオフィスで各座席に番号をふり使用者を記録できるシステム「イマココ連絡票」の導入や、キャンパスノート風の紙製デスクマット設置、共有スペースの席数削減などを実施しながら、感染防止対策に取り組んでいます。

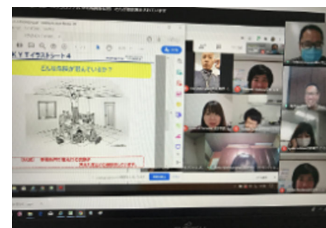


会議スペースも座席を制限し、ソロワーク用として使用

## コクヨロジテムの取り組み

### ●コクヨロジテムでオンライン利用の「KYトレーニング（危険予知トレーニング）」を実施

コクヨロジテムでは安全週間 準備月間（例年6月）の期間中にパートナー各社を招いて「安全会議」を開催しています。昨年2020年はコロナ禍による3密を回避し、安全週間に各地で標語の表彰やオンラインを活用したKYトレーニング（危険予知トレーニング）を実施しました。



オンライン会議システムを活用したKYトレーニングの様子

### ●コクヨロジテム 物流業界初の音声コミュニケーションツール「BONX GRIP」を導入

コクヨロジテムでは、作業時のコミュニケーション効率向上と安全を目指し、物流業界初となるBONX GRIP（ボンクス グリップ）（※）を導入。耳掛け式イヤホンとスマートフォンの専用アプリを組み合わせることで、グループ音声コミュニケーションが可能になりました。今後も配送センター・納品現場での作業をより安全・正確にし、効率向上に努めるとともに、新しいコミュニケーションに挑戦しながら、さらなる高品質・高価値な製品・サービスの提供を進めてまいります。

※ 3G/4G/Wi-Fi電波を使用、インカムやトランシーバーとは異なり、場所や人数の制限なく、ハンズフリーでグループ通話ができるシステム



BONX GRIPを使用すれば、倉庫内でのフォークリフト作業中でも、事務所との連携もスムーズに。

### ●コクヨロジテム岡山配送センター、構内連続無災害日数 9,000日達成

コクヨロジテム岡山配送センターは2020年6月13日、構内連続無災害日数 9,000日を達成。7月28日には記念式典を実施し、約32年間にわたり無災害を守ってきた社内関係者、パートナー会社と安全に対する想い、努力を振り返りました。

これからも安心・安全を守るための意識・行動を心がけ、記録を更新し続けるよう努力を続けてまいります。



無災害継続へゼロ災コールを行う、コクヨロジテム岡山配送センターの皆さん



～社会～

## 社員の健康

### 考え方

コクヨの持続的成長には従業員の健康が不可欠であると考え、健康経営宣言を制定し、健康推進に努めてまいります。

#### コクヨ健康経営宣言

コクヨは、企業の持続的成長の獲得には従業員が心身ともに安全で健康に活躍できる環境と仕組みが重要であると考え、従業員の健康保持・増進に取り組みます。

私たちは、従業員が心身ともに健康に活躍し一人一人の創造性を発揮することで創り出される商品・サービスの提供を通じて、お客様や社会全体の生き生きと健康的に「働く」「学ぶ」事に繋げ、多くのステークホルダーの皆様の期待に応えるよう、従業員・労働組合・健康保険組合と共に健康経営を推進します。

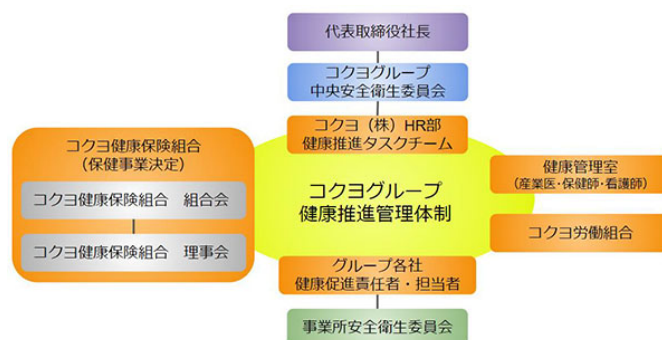
### しくみ

#### 重点取り組み項目

- ・従業員の働く環境の継続的改善を図り、心身共に安全で健康に働くことのできる職場を目指します。
- ・健康診断とその結果に対するフォローアップと、疾病を予防するための検診メニューにより、従業員の健康維持・重症化予防に努めます。
- ・ストレスチェックおよび従業員サーベイから得られた診断結果を組織活性化に活かし、従業員のメンタルヘルスとエンゲージメントの向上に努めます。
- ・従業員が自ら健康増進に向けて考え、取り組んでいけるよう、健康増進情報の発信と教育を実施します。
- ・多様な働き方を実践するとともに、テレワーク推進、残業時間短縮、年休取得促進、育児・介護支援、仕事と家庭の両立などへの取り組みを行います。

#### 健康推進管理体制

健康経営を推進するため、コクヨグループ中央安全衛生委員会によるコクヨグループ安全衛生基本方針の下、グループ全体の健康推進管理体制を敷いています。グループ各社に健康促進責任者・担当者を配置、人事部門、労働組合、健康保険組合、健康管理スタッフが一体となりグループ全体で健康増進の取り組みを行っています。



※ 健康推進の具体的なデータについては、こちらに掲載しています。



## 2020年の取り組み

### 「健康経営優良法人2020(ホワイト500)」、「健康経営優良法人2020(大規模法人部門)」に認定

2020年3月2日、コクヨとカウネットが経済産業省と日本健康会議が共同で選出する「健康経営優良法人2020(ホワイト500)」に、コクヨマーケティングが「健康経営優良法人」に認定されました。健康経営優良法人認定制度は、特に優良な健康経営を実践している法人を顕彰する制度。コクヨグループでは、昨年10月に制定した「コクヨ健康経営宣言」に基づき、今後さらに健康増進の取り組みを進めてまいります。



### コクヨグループ健康目標と2020年結果

コクヨグループでは、「生活習慣病にならない身体づくり」を実現するため、2013年より具体的な健康目標を定め、社内の健康保険組合や健康管理室と連携した健康活動を推進しています。

日々の歩数や体重などを記録し、楽しみながら運動の習慣化を促すウォーキングキャンペーンや、保健所と連携した食生活セミナーなどを実施しています。また、がん予防対策としては、乳がん・大腸がん検診の受診促進として、社内での定期検診時にマンモ検診ができるように機器を設置しました。さらに希望者は「人間ドック」が受診できるなど、健康診断項目の充実化や、社員が自ら健康意識を持って受診できる機会を積極的につくってきました。

只、2020年度はコロナ禍の影響で一部実施を見合わせた施策もありますが、WEBによる健康習慣アンケートやE-ラーニング等を実施し、健康に対する意識の向上を推進しました。

#### 健康指標一例（具体的課題より）

	2019年	2020年	2021年目標
BMI値25以上の占める割合	24%	25%	22%
喫煙率（問診データより）	31%	23%	21%
がん検診受診率・大腸がん	40%	92%	95%
がん検診受診率・婦人科健診	20%	35%	43%

対象 コクヨ、カウネット、コクヨマーケティング、コクヨロジテム、コクヨサプライロジスティクス

## コクヨの健活！

### 福利厚生連動チャレンジ

2020年に導入されたマイル式福利厚生制度「PLAY WORKマイレージ」と連動したチャレンジプログラムを実施。目標や改善達成状況に応じてマイルが付与されます。

### ウォーキングチャレンジ

健康促進プログラム「ウォーキングチャレンジ」は、平均歩数に応じて毎月マイルが付与されます。また、バーチャルコースの設定や、ランキング表示など楽しみながら歩数を記録できる工夫がされています。

### 生活習慣チャレンジ

記録をつけることで、生活習慣を振り返ることを目的としたチャレンジです。食事や運動、睡眠や禁煙、歯や目の健康、身心のリフレッシュまで約50項目と9種類のコースがあり、専用アプリで記録を付けます。「できた・できなかった」に関わらずマイルが付与されます。

### 「禁煙増進法」、「世界禁煙デー」、コロナ禍に合わせた啓蒙活動

日本たばこ産業株式会社(JT)が実施している全国喫煙者率調査に比べ、コクヨグループの喫煙者率は、特に男性は「かなり高い」常態です。2020年4月11日より、多くの人が利用するすべての施設が原則屋内禁煙となったことに合わせ、あらためて禁煙啓蒙活動を実施しました。また、喫煙

者はインフルエンザや風邪、肺炎に罹患しやすいことや、在宅勤務での受動喫煙の危険性など、コロナ禍だからこそその注意喚起を行っています。

#### 在宅勤務などでの健康管理

コロナ禍で増えたオフィス外での勤務やPCやタブレット使用。身心の疲労を軽減するストレッチや、机や椅子など作業環境の整え方などを紹介。目や首に負担のかからない画面の高さや角度など具体的な情報だけでなく、健康面の相談先の周知を行なっています。

### コクヨ健康保険組合、乳がん検診補助増額

コクヨグループにおける乳がん・子宮頸がん検診の受診率は20%と低いことから、2020年4月より、コクヨ健康保険組合の乳がん検診の補助額が5千円から上限1万円に増額。女性特有のがんは若年化が進み、なかでも乳がんは、日本人女性がかかるがんの中でも最も多い疾患です。これからも、予防・早期発見と啓蒙に努めています。

### メンタルヘルス対策

2016年より、法律に基づくストレスチェックと併せて「ES（社員満足度）」「コンプライアンス」の調査を『従業員サーベイ』として実施しています。

チェック後も、社員一人一人が気軽にセルフケアを受けることができる体制づくりのため、外部機関が運用するEAP(社員支援プログラム)も導入し社員自身の負担感への気付きを促し、早期に予防のサポートができる環境づくりを行っています。

また、このサーベイ結果を基に、メンタルヘルス対策として、職場改善活動（風通しの良い風土作り）等の取り組みを行っています。サーベイによる組織診断結果から組織ごとに「Red」「Yellow」「Green」の3段階に区分、「Red」を重点取り組み部門として現場ディスカッションや研修会等の開催など、職場改善活動によるコミュニケーション活性化につなげ「Red」組織の減少を目指しています。

	2019年	2020年	2021年目標
Red組織比率	11.9%	12.1%	10%

～社会～

## 取引先との取り組み

### 考え方

コクヨグループは、取引先と共に新しい価値を生み出し、お客様の満足を追求しています。また、取引先の皆様と信頼関係を構築し相互発展を目指すために、「コクヨグループ調達基本方針」を策定しています。

また、この「コクヨグループ調達基本方針」に基づき、サプライヤーの皆様と共に達成したい事柄を「コクヨグループ調達ガイドライン」として定めています。

### しくみ

#### コクヨグループ調達基本方針とコクヨグループ調達ガイドライン

企業活動がグローバル化する中、社会的責任の範囲は自社および子会社の管理だけでは不十分となってきています。

コクヨは、2013年に、主要協力工場32社に調達方針に関する説明会・セルフチェックアンケートを実施し、その結果をフィードバックしました。2014年には約400社の調達先に「調達基本方針」及び「ガイドライン」を送付しました。こうした活動を通じてさらなる信頼関係の構築に努めます。

#### コクヨグループ調達基本方針

コクヨグループは、創業の精神「商品を通じて世の中の役に立つ」をサプライヤーの皆様と共有し、相互理解と信頼関係構築に努め、共に社会的責任を果たし、社会の発展に貢献し続けます。

##### 品質・安全の追求

お客様に選ばれ続けるため、国・地域の特性に応じた最適な品質・安全性を追求します。

##### 相互発展

国・地域の関係法規及び社会規範を遵守し、公正で透明な取引を行い、誠実な信頼関係構築と相互発展に努めます。

##### 人権尊重

国・地域の文化・習慣を理解し、すべての人の人権が尊重される社会を目指します。

##### 環境保全と地域社会との共生

地球規模で環境保全に取り組み、地域社会への積極的な参画を通じて、良き企業市民として社会との共生に努めます。

# コクヨグループ調達ガイドライン

## 1. 品質・安全の追求

お客様に選ばれ続けるため、国・地域の特性に応じた最適な品質・安全性を追求します。

### 1-1 お客様の満足

お客様のニーズを的確に把握し、安全かつ優れた品質の製品・サービスを開発・提供することでお客様の満足におこたえします。

### 1-2 お客様対応

お客様からの要望・不満には、お客様の立場に立って迅速かつ誠実に対応し、さらに品質改善とクレームの防止につなげます。

### 1-3 製品供給

適正な在庫の保有および物流体制を通じて、納期を遵守し確実な製品供給を行います。

### 1-4 災害等のリスク管理

平時よりリスク管理体制を構築し、お客様に対して安定した製品供給を行います。

### 1-5 適正な価格

市場競争力のある価格での製品供給と継続的な低減努力に努めます。

## 2. 相互発展

国・地域の関係法規および社会規範を遵守し、公正な取引を行い、誠実な信頼関係の構築・相互発展に努めます。

### 2-1 コンプライアンスの推進

国・地域の法令、社会規範および企業倫理の遵守を徹底し、社員への啓発活動に努めます。

### 2-2 公正で透明な取引

公正で透明かつ自由な競争を尊重した取引を行います。また、発注者の立場を利用し取引先に金品や特別な扱いを求めるような行為は行いません。

### 2-3 反社会的勢力との取引等の禁止

市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的な活動や勢力に対して、毅然とした態度で臨み、不当な要求には一切応じません。また、取引等の関わりを持ちません。

### 2-4 知的財産権の保護

知的財産権を保護し、不正な使用は行いません。

### 2-5 利益相反行為の禁止

役員・社員の立場を利用して、会社の正当な利益に反して個人の利益を図る行為を行いません。

### 2-6 機密情報管理

営業・技術・経営情報などの企業秘密情報、個人情報などは適切に管理し、情報の紛失・漏えいを防止します。

### 2-7 情報開示及び提供

事業活動内容、製品の品質および安全性などに関わる情報を適切に開示し、ステークホルダーからの要求に応じて製品情報や製品に含有する有害化学物質情報等の環境情報の把握・提供に努めます。

### 2-8 インサイダー取引の禁止

未公表の重要な内部情報に基づき、自社や関係先の株式売買などを行うインサイダー取引およびそれらを誘発する行為を行いません。

## 3. 人権尊重

国・地域の文化・習慣を理解し、すべての人の人権が尊重される社会を目指します。

### 3-1 児童労働・強制労働の禁止

不当な差別や児童労働・強制労働は認めません。

また、それらを行っている企業・団体等との取引は行いません。

### 3-2 セクシャルハラスメント、パワーハラスメントの禁止

セクシャルハラスメントやパワーハラスメント、いじめなどの人権侵害は認めません。

### 3-3 労働安全衛生

社員の安全と健康に配慮し、快適な職場づくりに努めます。

### 3-4 人材育成

グローバルな舞台でも活躍できる人材の育成に積極的に取り組みます。

## 4. 環境保全と地域社会との共生

地球規模で環境保全に取り組み、地域社会への積極的な参画を通じて、良き企業市民として社会との共生に努めます。

### 4-1 環境保全活動の推進

環境関連法令を遵守するとともに企業活動のすべてにおいて環境保全に取り組みます。また、自然環境や生物多様性に配慮した活動を推進します。

### 4-2 環境負荷の把握・低減、グリーン調達

事業活動における環境負荷を把握し、設備の改善や資材の見直しなどにより、その低減に努めます。また、グリーン調達に努めます。

### 4-3 社会貢献

社会・教育・文化支援活動や地域社会との交流、美化活動、ボランティア活動などに積極的に参画します。

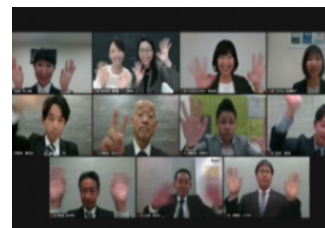
## 2020年の取り組み

### オンラインの強みを生かす視聴者参加型の表彰式、8拠点をつなぎライブ配信

2020年11月6日、全国の販売店様を対象とした、「ACW(※)」会員様の取り組みを表彰する「突破スルーLIVE!」をライブ配信しました。これは、毎年開催の「ACWアワード」がコロナ禍で中止となり企画されたもので、全国8拠点をオンラインで繋ぎ、1,000名を超える会員様にご視聴いただきました。「日々の営業活動の中でどう困難を突破して案件を攻略したのか、そのノウハウがおもしろく学べる」をコンセプトに、視聴者参加型のプログラムを準備。オンラインの強みを活かし、通常の表彰式を越える「おもしろい表彰式」となりました。今後も、さまざまな仕掛けでACW活動を盛り上げてまいります。

※ ACW(Action to Change Workstyle・働き方改革提案委員会)

ACWに賛同いただいた全国の販売店様とともに、現場から働き方改革の提案活動を進めていく活動。

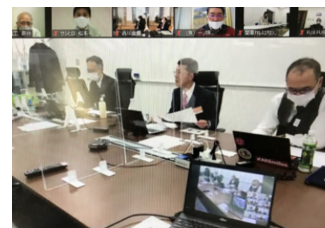


### ファニチャー事業「協力工場会」をオンラインで開催

ファニチャー事業では主要な協力工場様の経営層を招いて年2回「協力工場会」を開催しています。

2020年はコロナ禍の影響を受けてオンラインでの開催となりましたが、8月と12月に開催した会議では弊社芝山工場の見学と併せて需要期の振り返りと今後の販売動向予測についての説明を、12月には当期の振り返りと来需要期に向けた施策、市場動向に関する説明を行いました。

さらに特に秀逸な取り組みを実施いただいた協力工場様を表彰して感謝の意をお伝えするとともに、お互いが切磋琢磨して共存共栄できるよう取り組み内容を発表いただき、ファニチャー事業全体のレベルアップに御協力いただいています。また11月には協力工場様のデザイン・開発系の中堅社員を対象とした「トレンド・マーケティング勉強会」を開催し、弊社のものづくりにおける市場のトレンド分析やデザインコンセプトを共有しました。



### ステーションナリー事業 協力工場の監査を実施

ステーションナリー事業では、従来より商品のカタログなどにおける環境表示の信頼性確保を目的として協力工場の監査を実施しています。

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実地での監査は限定的ではあったものの、2019年に見直した新たな運用ルールに則り監査を実施しました。

グリーン購入法などにおいて定められている環境配慮に関する基準への適合性について、協力工場を訪問し、自社で定めた監査手続きに従って古紙や再生樹脂の配合率が基準に適合しているか、指定した規格の材料が製造工程に投入されているか、材料の合法性に問題がないかを確認しています。また、監査に際しては協力工場と環境配慮基準への適合を適切に担保するための課題について一緒に考え、製造管理面における信頼性を向上させるための改善事例について情報交換をすることで、今後も環境表示の信頼性の確保に努めていきます。お客様への提供価値を高めるため、メーカー系・流通系ともに調達先の皆様と定期的に戦略や方針などを共有し、長期的な信頼関係に基づいた相互発展を目指します。

### 空間構築事業発展に向けた、コクヨ建設業協力会の活動

空間構築事業の発展を目指す「コクヨ建設業協力会」(2019年10月始動)は、建設業にかかるパートナー会社とコクヨが一体となって活動するための基盤です。2020年1月、協力会員とコクヨのコミュニケーションツールとして広報誌「Future Value〜共創〜」を創刊、本部役員会議や活動計画骨子の共有、無災害記録の紹介などを掲載。協力会員及びコクヨ相互の創意工夫、お互いに高めあう「共創：きょうそう」の促進を目指しています。これからも、顧客に対するコクヨ提供価値の継続的な向上を図り、コクヨ空間構築事業の推進に寄与してまいります。



コクヨ建設業協力会ロゴ



～社会～

## お客様への安心・安全の提供

### 考え方

コクヨは常にお客様の視点で新しい商品・サービスを開発し、またすべての商品サービスにおいて、現状に満足することなく、より高い安全性と品質を追求し続けていきます。

### しくみ

#### 全社でISO9001（品質マネジメントシステム）の認証取得

コクヨは、2019年6月に品質マネジメントシステムの国際規格「ISO9001：2015」の認証取得を全社でおこなうとともに、当社事業領域であるオフィスファニチャー、ステーションナリー、オフィス通販（kaunet）の“ものづくりプロセス”を標準化しています。「ISO9001：2015」規格に基づいて標準化されたQMS(Quality Management System 品質マネジメントシステム)を構築し、常にブラッシュアップに努めることにより、社内の品質に対する意識を高め、お客様の満足を追求し、持続的成長と品質向上に努めてまいります。



ISO 9001:2015

KOKUYO

#### コクヨ株式会社 品質方針

わたしたちは、「はたらく・まなぶ・くらす」を豊かにする商品・サービスの提供を通じて、お客様の信頼に応え、満足を追求し続けます

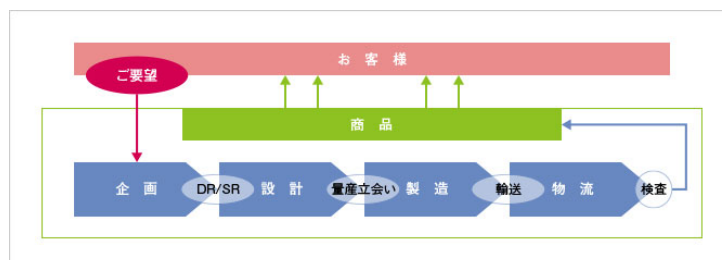
1. お客様の期待をあらゆる面で上回る商品開発に努めます
2. 安心・安全な商品の提供と、より良い品質の追求に努めます
3. 関連する法令・規制を遵守し、社会的な責任と役割を全うします
4. お客様の声を真摯に受け止め、商品開発・改善に取り組みます
5. 環境の変化に対応して、継続的にマネジメントシステムの改善に取り組みます

2019年1月1日 コクヨ株式会社 代表取締役社長 黒田 英邦

※ 適用範囲は、ステーションナリー事業はコクヨブランド品のみ、Kaunetはカウネットブランド品のみ。

#### 文具の品質保証

お客様に信頼される品質をお届けするため、企画・設計・製造・物流の各機能において品質を作り込む仕組みを体系的に構築・運用し、継続的な改善に取り組んでいます。



## 1) 品質保証体制の深化

品質の作り込みにおいて重要なプロセスであるデザインレビュー・セーフティレビュー・量産試作立会い・化学物質管理・法令遵守プロセスを時代に合わせて見直し、品質保証体制の深化に取り組んでいます。また、商品のリスク評価を実施し、予見されるリスクを低減することでお客様に安心してお使いいただけるように努めています。

## 2) グローバルでの検査体制の確立

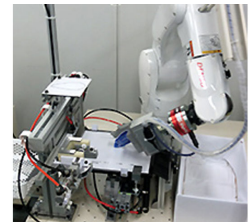
グローバル標準の検査プロセスを整備し、品質の確保に取り組んでいます。各国の検査レベルの維持・向上のため、検査プロセスの評価を実施し、検査での不良品の発見精度をさらに高め、不良品の流出防止に努めています。

## 3) クレームへの対応の精度とスピード向上のために

世の中は、安全に加えて安心をさらに求める社会になり、加えて、多くの情報がいつでも・誰でも・どこでも受発信できる時代になってきました。お客様からのクレームに対してさらに精度を上げてスピーディーな対応をしていくため、商品リスクの発生時に企業がとるべき行動のプロセス・判断材料・判断基準の見える化・標準化に取り組んでいます。それにより、組織の意思決定フローの統一と、判断のブレの最小化とスピードアップを図っています。

## 4) 品質確認試験に加え価値評価試験を強化

既存商品のリニューアルや新製品の開発において品質確認試験を従来から徹底的に実施していますが、さらにロボットを導入して試験品質の再現性や精度向上に努めています。また、多様なお客様のニーズに応えるため、安価で丈夫といった当たり前の品質を確認することはもとより、お客様にとって価値のある魅力的品質の定量化にも取り組んでいます。



品質試験へのロボットの導入

# 家具の品質保証

コクヨのファニチャー事業においては、1997年に認証取得したISO9001品質マネジメント規格に基づき、マーケティング・製品の企画・設計開発・生産から施工に至るまでのプロセスの手順を標準化し、お客様の「はたらく・まなぶ・くらす」の変化に対応した製品とサービスを提供し続けるために、PDCAサイクルを廻しながら運用しています。

また、製造・納品・施工に関わる各部門では日々の改善活動を行っており、お客様からいただいたご意見・ご要望を活用して品質改善を図っています。

## 1) 高いレベルの「社内基準」によるモノづくり

新製品の設計開発プロセスでは、安全性や機能性に対して多面的な評価を行っています。そして、JIS規格・業界規格への適合はもちろんのこと、さらに高いレベルで設定した「社内基準」の見直しを毎年実施し、その基準をクリアするモノづくりを行っています。

## 2) 不具合発生時の対応

お客様がご使用中の製品に不具合が生じた際には、その情報は関連部門で共有され迅速な対応を行います。その過程で原因究明を行い、製品や製造工程の改善に反映することで同様の不具合の再発防止に努めています。

また、重大事故が発生した場合には、リスクコンプライアンス委員会で対応方針を決定し、関係省庁への報告、新聞・ウェブサイトなどを通じて告知を行い被害の拡大を防止します。

## 3) 製品安全・品質に関する告知

お客様への製品安全・品質に関する告知媒体としてホームページの活用を行っています。



コクヨホームページ「お知らせ」

製品安全・品質に関する重要なお知らせ

## カウネットの品質保証

カウネットが取り扱う商品は文具・事務用品やコピー用紙をはじめ、飲料・食品・電化製品・ギフト・医療関連用品・店舗運営用品、名刺やスタンプなどのオーダー品・オフィス家具など多種多様で、取り扱うメーカー数は約1,000社になります。またカウネットでは、働く人の生産性を向上させるプライベートブランド商品「カウコレ」プレミアムを約5,200品番以上展開しています。使い手視点のアイデアで本当に役立つ商品を目指し、お届けしています。お客様に安心かつ安全にご利用いただくため、取り扱う商品の品質のみならず、コールセンターでの対応やお届けにいたるまで、バリューチェーン一体となって品質の向上に努めています。

### 1) 独自の商品「カウコレ」プレミアムシリーズ

お客様のお困りごとを解決するカウネットが独自に開発したオリジナル商品「カウコレ」プレミアムシリーズを販売しています。お客様の声や社員のアイデアから、お困りごとを解決するユニークな商品を日々生み出し続けています。



### 2) 直接お困りごとを聞く「カウネットモニカ」の運営

カウネットは、お客様の声をかたちにするコミュニティサイト「カウネットモニカ」を運営しています。日ごろ感じている悩みやお困りごとなど、皆さまからいただいた声を起点にした商品づくりを進めています。



(<https://www.kaunetmonika.com>

/)

### 3) 日々寄せられるお客様の声を伺うコールセンター

コールセンターに寄せられるお客様の貴重な声は、既存商品・サービスの改善や、新たな商品開発に繋げていきます。寄せられた声は全社で共有し、商品・サービスを改善しています。

### 4) 安心のお届けサービス

カタログや専用サイトで商品を選んでご注文いただくと、最短で当日または翌日にお届けしております。また大型家具や重量物・複雑な組立てを伴うものは、家具専門配送員がお届けから開梱・組立て・設置・梱包材の回収まで行う組立てサービス付き配送でお届けします。

## オフィスの災害対策への取り組み

### 「地震対策オフィスの創り方」の研究

コクヨは、阪神淡路大震災や東日本大震災の経験やご相談を踏まえ、さらなる地震対策を提案できるようさまざまな実証試験を行っています。「はたらく人のよりよい防災」を研究するコクヨのオフィス防災ラボでは、そこから得られた膨大なデータに基づき、地震波と地震対策の関係を合理的に捉え、家具の耐震性能の客観的な評価基準を策定しました。その上で、お客様が目指す対策レベルやコストなどに応じて選べるようなオフィスの地震対策メニューをご提案しています。

※ 関連情報：オフィス防災ラボ「地震対策オフィスの創り方」 [☞](#)

## 2) オフィスに最適な防災用品導入・運用メニューの構築

組織のBCPを構築する上で不可欠な防災用品と、それらを導入・運用するために必要なノウハウを提供する「防災ソリューション事業」を展開しています。防災用品ガイドブック「ソナエル」、平時と有事の両方に配慮した防災用品シリーズ「PARTS-FIT」などを中心に、働く環境といざという時の備えの両立をサポートし、「はたらくによりそう防災のかたち」を目指しています。



働く場所にフィットする。  
防災用品は働く場所の状況に合わせて、最適な防災用品を選択し、導入する。



PARTS-FIT  
[パーツ・フィットシリーズ]



エレベーターにそなえる。  
エレベーターに設置して防災用品を保管するエレキャビ。災害時の備え、災害後の復旧にも活用できる。



elecabi  
[エレベーター用防災キャビネット エレキャビ]

## 2020年の取り組み

### 内部監査員スキルアップ研修をオンラインで実施

2019年に全社で認証取得したISO9001(QMS:品質マネジメントシステム)を更に定着させるべく、社内のQMS内部監査員へスキルアップ研修を実施しました。講義、演習を通してプロセススタート図の作成や業務分析の手法などを研修。実施後アンケートでは約9割が「力量が向上した」と回答し、参加者・講師双方から好評を得ました。今後も、内部監査・外部審査の対応に向け、活動の定着に取り組みます。



感染予防対策のため、リモートで研修する様子

### 「第10回KSL改善事例コンテスト」を開催

2020年10月17日、コクヨサプライロジスティクス(KSL)が「第10回KSL改善事例コンテスト」を開催。リモートを併用したハイブリット開催で、生産部門・営業部門などを中心に過去最多の80名以上が参加。KSL、パートナー会社、国内外のコクヨグループから視聴されました。改善活動の拡大と連携強化を目的に、6事例を表彰。生産、受注、お届けなどの効率化や重筋作業の軽減、オペレーションや生産性改善の取り組みが発表・紹介されました。これからも、協力しながら改善に取り組み、より一層の事業連鎖を強化してまいります。



発表者の皆さん

### ISO9001外部審査を対面とオンラインの併用で実施

2020年度はコロナの影響により、例年4月に実施していた外部審査を10月に延期して実施いたしました。また、その実施方法については、コロナ禍における十分な安全対策を考慮した結果、従来の対面方式に加え、オンライン方式を積極的に採用致しました。またオンラインの利点を生かし、外部審査の様子を誰でも見学できるようにして、QMSに対する理解を深めるように工夫をした結果、審査機関であるJQA様にも評価を頂きました。



ST事業の外部審査、審査の様子はオンラインで誰でも視聴可能

～社会～

## お客様との対話

### 考え方

お客様のお問い合わせには誠心誠意・丁寧な対応を徹底しています。また、いただいた声はコクヨの商品やサービスをより良くするための貴重なご意見として、全社共有に努めています。

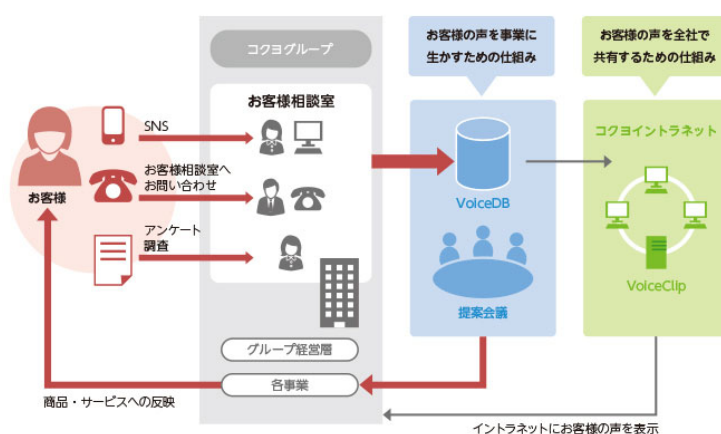
### しくみ

#### お客様の声を生かす仕組み

コクヨお客様相談室では、業界最多ともいわれる一日400件以上のお問い合わせが寄せられます。そのうちクレームは3%ほどで、お喜び・お困りの声などをまとめて社内に伝え、企画開発やサービス向上に繋げています。

そのための仕組みの一つ、社内サイト「VoiceClip」では、お客様のお喜び・お困りの声、コクヨへの期待の声をピックアップし、毎週更新してグループ全社員に公開しています。

もう一つの仕組み、データベース「VoiceDB」では、日々お寄せいただいているお問い合わせなどの情報を集約し、個人情報を除いた上で社内にも共有し、商品やサービスの企画開発時のヒントとして生かしております。



また、お客様相談室では、新製品だけでなく不具合品も陳列し、情報の共有に努めています。お客様に満足感をもって電話を終えていただけるよう、スキルアップに努め、顧客コミュニケーションの最前線として進化を続けてまいります。



相談室内に陳列される麻紐

## 2020年の取り組み

### お客様相談室のシステムを刷新

2020年10月、お客様相談室のシステムを一新しました。

これにより、お客様からの貴重なご意見、ご不満、お喜びの声をコクヨグループの社員にリアルタイムでお届けできるようになりました。

また、お問い合わせ実績の管理分析が容易となったことにより、これらの分析結果をFAQの充実やオペレーターの研修に反映させ、さらにスピーディかつ確かな回答を目指します。

お客様のご要望を事業部に繋げていくことで、商品やサービスの改善を今まで以上に役に立てる機会も増やしていく予定です。



## カウネット 新ショールーム「Kau-Box」オープン、SNSでライブ配信

2020年10月1日、カウネットの新ショールーム「Kau-Box(カウボックス)」が「The Campus」1階にオープン。一般のお客様もご来場可能(事前予約制)で、より多くのお客様に知っていただけるよう、オープンを記念したSNSライブ配信を行ないました。

「Kau-Box」では、カウネットオリジナル商品「カウコレ」プレミアムの展示に加え、オフィス家具のレイアウト相談なども承っております。

「Kau-Box」ホームページ [👉](#)



## 勢いある中国市場、ECサイトライブコマースが大盛況

中国市場でもコロナ禍によりオンライン販売の需要が高まり、国営商業(上海)は、消費者と対話しながらライブ販売を行う、ライブコマースを中国最大手のECモールで実施。インフルエンサーを起用した8月の販売では20分で1億1,000万円、さらに11月の「独身の日」セールでは3万人が閲覧し、3億700万円を売り上げました。今後も、ネット販売拡大策を有効に打ち続け、中国での事業拡大へ邁進します。



国営商業オフィス内にある配信スタジオ

～社会～

## 社会貢献

### 考え方

国または地域の文化や習慣を尊重し、その発展に寄与するため、地域社会へ積極的に参画し、信頼される「良き企業市民」を目指します。

## 2020年の取り組み

### 神戸大学にコクヨ役員・社員6名を講師として派遣

2019年12月～2020年2月、コクヨの役員・社員計6名が神戸大学の「トップマネジメント講座」で講義を実施。若年層のコクヨの企業イメージ変化の機会ととらえ、従来のコクヨの従来イメージである「フレンドリー」「コンビニエント」に加えて、「イノベティブ」な印象を伝えるのが狙いです。消費者視点の製品開発・経営、消費者経営の理解と興味を深める講義を通して、コクヨのファンになっていただくことを目指しました。今後も若年層へ訴求する活動を続けてまいります。



コクヨの役員・社員6名が登壇

### 東京2020オリンピック・パラリンピックを学ぶ中学生に「東京の、新しいページをひらこう」レクチャー

2020年1月、東京2020オリンピック・パラリンピックを学ぶ、足立区立千寿桜堤中学校の1年生徒約30名の郊外学習を受入れました。「コクヨと東京2020大会」と題したレクチャー、ショールーム見学を実施。コクヨの応援メッセージ「東京の、新しいページをひらこう。」にからめたレクチャーをし、生徒たちとディスカッションや発表をしました。フレッシュな意見が寄せられ、自社の取り組みについて改めて考える貴重な機会になりました。

同校では都内の協賛企業や競技会場を巡る校外学習を実施し、生徒たちへの訪問企業希望調査でコクヨが人気1位だったそうです。

※コクヨは「東京2020オフィシャルサポーター（オフィス家具&文具）」です。



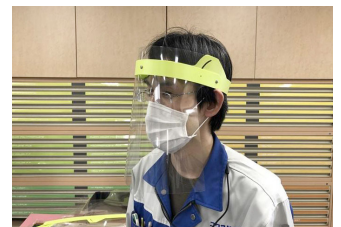
中学生へのレクチャーの様子

### 医療現場へ簡易フェイスシールド、フェイスシールド代用素材を無償提供

新型コロナウイルス感染症拡大による医療現場への支援として、2020年5月末までに「簡易フェイスシールド（コクヨ製造）」合計4万3千個、高い透明性と耐久性があり、フェイスシールドの代用素材として活用される「レールクリヤーホルダー」3万6千枚を無償提供しました。

また、同じく代用素材として活用される「クリヤーホルダー」10万枚を、国立大学法人 大阪大学を実施主体とするクラウドファンディングプロジェクトに無償提供。これまで文具の製造で培った技術を活かし、新型コロナウイルス感染拡大の防止に向けてできる支援の一つひとつ取り組んでまいります。

※本取り組みは、医療機関関係者が、レールクリヤーホルダーの高い透明性・耐久性が医療用フェイスシールドの代用素材に適していると採用したことをきっかけにスタートしました。



簡易フェイスシールド  
（ヘッドギアタイプ）



クリヤーホルダー  
<フーTP750>

## コクヨデザインアワード2021、「POST-NORMAL」をテーマに開催

働く・学ぶ・暮らすシーンで新しい価値を生み出すデザインを集めて商品化を目指すコンペティション「コクヨデザインアワード」。2002年の創設以来コクヨや社会全体にとって新しい価値を生み出す作品を求めてきました。18回目を迎えた今回のテーマは「POST-NORMAL」。新型コロナウイルスにより、世界が同時かつ共通の大きな変化に直面したことで、改めて身の回りの物を見つめ直し、“プロダクトの質”と“未来に向けた普遍的価値”を、多くの方と考える機会にしたいという思いが込められています。

「コクヨデザインアワード」ホームページ >

# POST-NORMAL

## 東京2020組織委員会に大会ボランティア8万名分の「Field Castノート」を提供

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のオフィシャルサポーター(オフィス家具&文具)であるコクヨは、「文具やツールを通して挑戦する人々を支えたい」という思いを体現する活動として、「Field Cast (フィールドキャスト)」とよばれる8万人のボランティアの皆さんに活用いただくべく、オリジナルキャンパスノートを東京2020組織委員会に提供しました。「Field Castノート」は、ボランティアユニフォームと同じ藍色をベースにした色使いで、大会エンブレムに使われている市松模様をあしらった表紙に東京2020大会エンブレムとField Castロゴを配した東京2020組織委員会オリジナルデザイン。世代や国籍を問わず集ったボランティアの皆さんに、一生の思い出をつづってもらえるようさまざまな工夫が施されました。

コクヨは本番までの準備期間を大会本番と同様に大切な期間ととらえ、更に盛り上げてまいります。



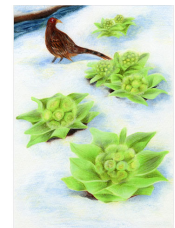
「Field Castノート」 表紙、中面

## 中高生を対象にした絵画コンペティション「キャンパスアートアワード2020」開催

読売中高生新聞と共催で、2015年から全国の中学生・高校生を対象に「キャンパスアートアワード」を開催、2,071点の作品が集まりました。

募集テーマは、「My Sweet Home Town～地元のイチオシ～」。地元の風景・風俗・風習・行事・料理・菓子などを題材にすることで、若者が地元を向き、その魅力に気づき、発信する機会をつくるのが目的です。グランプリ作品はキャンパスノートの表紙となり50冊を受賞者に贈呈、また団体応募の場合にはグランプリ受賞校にも1,000冊を贈呈します。

「キャンパスアートアワード」ホームページ >



グランプリ作品「春はすぐそこ」

秋田公立美術大学附属高等学院  
近藤 萌さん

## 「ジョブスタディ」の取り組み

「ジョブスタディ」は、各業界のリーディングカンパニーの人事担当者が集い、本当に学生の役に立つセミナーは何なのかを議論し、そこで出た結論をもとに、自分たちが手づくりで開催している異業種合同セミナーです。コクヨはこのジョブスタディを中心となって立ち上げ、主幹事業として運営全般を担っています。2005年のスタート当時は、「3年3割」という早期離職問題が大きな議論になっており、この課題を解決するために、採用活動を行う企業側も学生に対して正面からぶつかっていかうという想いで、「本音」と「手づくり」というコンセプトのプログラムを企画し、企業と学生が「働くことの意味」を語り合う双方向のコミュニケーションを実現してきました。以来16年間学生と真摯に向き合い続け、現在は各業界のリーディングカンパニー17社がジョブスタディに参加しています。

2020年を終えて16年間の成果を積み上げてきた「ジョブスタディ」。しかし、企業の雇用形態や新卒採用環境の変化、学生の皆さんの価値観の多様化など、学生や企業を取り巻く環境の変化は非常に目紛しく、双方が抱える課題も変化し続けています。そんな中、ジョブスタディとして、「今までと同じ」ではなく「今何が必要で・何を提供したいか」ということを、参加企業17社の人事担当者が一堂に集まり本気で考え、企業の為の採用イベントではない、採用課題に取り組む活動として実施しています。



## 東日本大震災遺児への進学支援「みちのく未来基金」

コクヨ東北販売では東日本大震災遺児への進学基金である「みちのく未来基金（※）」に震災の翌年より「サポーター企業」として支援を続けています。

2020年度は89名の生徒が新たに9期生として奨学金給付を受け大学や専門学校へ入学、新たな夢への第一歩を踏み出しました。例年3月は新奨学生と学業を終えて社会人となる卒業生の門出をサポーター・卒業生・在籍生・基金スタッフ一同でお祝いする式典が開催されていたのですが、コロナ禍で中止となりました。直接の言葉を聞くことは叶いませんでしたが、私たちはこれからも応援を続けていきたいと思えます。

※ ロート製薬（株）・カルビー（株）・カゴメ（株）が発起人となり、「真に復興の礎となるのはこれから育つ次世代の若者たちである」という考えのもとに、東日本大震災で親を亡くした学生たちの高等教育（大学・短大・専門学校）進学支援のために活動している奨学金基金。奨学生の累計は900名以上。



写真は2019年度開催の「第8期生の集い」

## コクヨ北関東販売が「いちご一会とちぎ国体」「いちご一会とちぎ大会」オフィシャルサプライヤーに

コクヨ北関東販売は、昨年に引き続き地元企業として栃木の名産「イチゴ」をイメージしたオリジナルキャンパスノート10,000冊を栃木県に提供。2022年に栃木県で開催される第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」および、第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」のオフィシャルサプライヤーに認定されました。

今後はオフィシャルサプライヤーとして、さまざまな形で大会の認知・訴求に努め、「感動と喜びを共有できる国体・大会」を目指して盛り上げてまいります。



オリジナルキャンパスノートの表紙は、両大会の愛称ロゴ「とちまるくん」と大会スローガンの「夢を感動へ。感動を未来へ。」を、裏表紙には、競技別会場MAPに「とちまるくん」を配した大会を訴求するデザイン

## 中国社内SNSにおける物品寄付の募集活動開始

2020年では、新型コロナウイルス感染症の影響で、2014年から年に一回行う「小さなノート、大きな夢」という中国貧困地域にある学校への現地訪問の活動はやむえずに中止となりましたが、遠隔でもささやかなことでも続けようという方針で、コクヨ中国の社内SNSに「愛に出会う」とのコーナーを新設し、社員からの衣料品や書籍などの寄付物品を募集し始めました。短期間で上海、北京、シンセンなど各地の社員から衣料品、書籍など計126点が寄付されました。集まった物品はその後対象となる学校に郵送済みです。また、このオンライン寄付コーナーを常時開設し、社員からの寄付をいつでも受け付けできるようにしています。



社内SNSに新設した寄付コーナー



寄付された書籍や衣料品





## 中国貧困地方への中古パソコン寄贈

2020年9月に、中国貧困地方にある学校の生徒たちにもパソコンを使用させるためのNGO活動「再生パソコン教室」というプロジェクトに、コクヨ中国各社から集めた不要となった中古パソコン（データ削除および初期化済み）やモニターなど計125台を寄付しました。

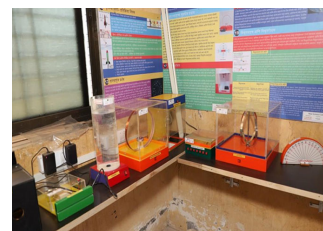


寄付証明

## コクヨカムリン工場周辺の学校にMini Science Centreを設置

STEM教育(Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Mathematics(数学))は、私たちの社会を大きく変える技術革新の要件であり、子供たちの好奇心や創造力、また問題解決力を養うことを目的に、世界的に重要性が指摘されている教育分野です。

コクヨカムリンは、科学や数学の普天的な理論や原則に直接触れることができる機会を提供するため、昨年に続き3ヶ所の自社工場周辺にある4つの学校において、STEM Learning 社を通じて有益な学習ツールを備えたMini Science Centerを開設しました。



## コクヨリッディ工場周辺の村人の皆さんに食料提供

インドでは世界中で猛威を振るうCOVID-19に対応するため、2020年3月中旬から全土封鎖（ロックダウン）に踏み切りました。コクヨリッディ社はムンバイ郊外の自社工場周辺の村で食料を確保するのが困難になっていた方々に対し、米やダル（豆）など詰め合わせた食料セットを工場内で300セット作成し、村の統治機関であるGram Panchayet を通じ、供給しました。これまでも自社製ノートを村の学校へ寄付するなどの行動を行ってきましたが、未曾有の緊急事態にいち早く行動を起こすことができ、村人の皆さんからたくさんの感謝の言葉をいただきました。



セット内容



贈呈風景



～社会～

## 新しい価値の提供

### 考え方

近年、社会生活における課題がますます多様化・複雑化する中、お客様の「はたらく」「まなぶ」「くらす」がより創造性豊かで実りあるものとなるよう、コクヨならではの価値創造に取り組んでいます。

## 2020年の取り組み

<安心安全・新しい働き方・デジタルワークを支える>

### 会話で生じる飛沫や呼気を吸引し、室内への飛沫拡散を防止する会議テーブル「AIRTREIVE（エアトリーブ）」

オフィスの会議シーンの会話で生じる飛沫や呼気を吸引し、室内への飛沫拡散を防止する会議テーブル「AIRTREIVE（エアトリーブ）」を2020年12月、受注を開始しました。

新型コロナウイルスの影響でフェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションをいづらになが、「エアトリーブ」は、天板下に電子式集塵フィルターを内蔵した空気清浄ユニットを搭載。天板中央の吸引部から毎秒2.5メートルの風の流れを発生させ、さらに毎分15㎡（ユニット1台あたり）の風量で空気をろ過することで、飛沫拡散防止・空気清浄機能を実現し、室内の衛生面での安心感を与えます。

[「エアトリーブ」ホームページ](#) >



エアトリーブ (W4800タイプ)

### 1人用ワークスペースを確保する建材製品「WORK POD（ワークポッド）」を発売

2020年7月、開放的なオフィス内にWeb会議や集中作業に適し、換気に配慮したクローズド環境を構築できる、「WORK POD（ワークポッド）」を発売。ウイルス感染拡大防止対策として、リモートワークによる在宅勤務者や取引先とのWeb会議で、周囲への音漏れを気にせず集中できる空間を実現します。

バリエーションは1人用のみで、約30秒毎に自動換気する「熱感知式消火器付き」と、「天井オープン」の2種類、スタンディング仕様・ソファ仕様をご用意。いずれも調光付きLEDライト、電源、USB給電を装備、PSE（電気用品安全法）を取得で安全性に配慮しています。解放感あるガラス面と、空間の意匠に馴染むフレームデザイン、132通りもの豊富なカラーバリエーションも特長です。

[「WORK POD（ワークポッド）」ホームページ](#) >



### PET製シートを用いた簡易フェイスシールドの販売を開始

2020年7月、コクヨのレールクリヤーホルダーに使用されている、透明性が高く耐久性にも優れたPET製シートを用いた、簡易フェイスシールド2種「ヘッドギアタイプ」、「マスク装着タイプ」を発売。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、コクヨでは医療現場への支援として、5月末までに自社製造の「簡易フェイスシールド」を合計4万3千個、およびフェイスシールドの代用素材として活用される「レールクリヤーホルダー」3万6千枚の無償提供いたしました。医療現場以外からの購入を望む声に応えるべく、製品化となりました。

[「簡易フェイスシールド」ホームページ](#) >



「ヘッドギアタイプ」

## ワークステーション「SOLANA（ソラナ）」を発売

2020年12月、コロナ禍におけるオフィス環境変化への対応と安心安全をコンセプトに開発した、新発想のワークステーション「SOLANA（ソラナ）」を発売しました。天板にある5本のスリットに、デスクトップパネルや植栽を差し込むだけで、机を自然に仕切ることができ、チームテーブルからパーソナルスペースに変化します。また、スリットにはスマートフォン、タブレットの立てかけも可能で、自席でのデジタルワークの効率向上をサポート。心地よくワークできる抗菌・抗ウイルス素材の天板もご用意しています。

[「SOLANA（ソラナ）」ホームページ](#) >



「SOLANA（ソラナ）」の空間構成イメージ

## オフィス用電源供給アイテム「Energyシリーズ」を発売 ～これからのデジタルワークを支える～

コクヨ株式会社（本社：大阪市／社長：黒田 英邦）は、オフィス等で固定電源がない環境でも、デジタルワークをサポートするオフィス用電源供給アイテム「Energy（エナジー）シリーズ」の2種を、2021年3月上旬から発売します。

近年、コロナ禍によるオフィス環境やワークスタイル変化に伴い、ノートパソコンでのWEB会議やディスプレイを使用したコラボレーション等、デジタルワークがより一層広がっています。

今回発売する「Energyシリーズ」は、充電式「ポータブル電源」（バッテリー容量540Wh／150,000mAhV）を搭載できる「エナジーディスプレイモバイル」、「エナジーカート」の2種で、オフィス内のラウンジ空間やカフェ空間等の固定電源がない場所でも、ディスプレイを使用した会議やノートパソコンを使用したワークを、長時間行うことができます。（※使用時間は、接続する機器や台数で変動します）

さらにケーブルレスで移動もしやすいため、働く場所の選択肢が広がります。本体には4口のコンセントがあり、複数人の作業にも対応でき、非使用時の夜間等で充電することで、オフィス等で固定電源に依存しないワークスタイルを実現します。

[「Energyシリーズ」ホームページ](#) >



「エナジーディスプレイモバイル」と「ポータブル電源」の使用イメージ

## コクヨ東京ショールームに「ホーム内オフィス」展示コーナー設置

2020年8月、コクヨ東京ショールーム内に、コクヨのチェアやデスクなどの商材（※）で構成した「ホーム内オフィス」展示コーナーを設置しました。在宅勤務を推進・検討する企業の総務や人事担当者、在宅ワーカーに向けて、これからのワークプレイスのひとつとして、自宅のリビングや書斎等のシーンに合わせた「ホーム内オフィス」のあり方を提案します。

[「コクヨ東京ショールーム」ホームページ](#) >

- ※「SEQUENCE（シーケンス）」（昇降デスク&テーブル） >
- 「UPTIS（アプティス）」（デスク天板の傾斜角度を可変できるワークステーション） >
- 「FABRE（ファブレ）」（リビングにもマッチするデザインのチェア） >
- 「ing（イング）」（座面が揺れることで運動不足の解消が期待できるチェア）など >



「ホーム内オフィス」展示コーナー

## 新しい働き方とオフィスのあり方を示すコンセプトブックを公開

2020年6月15日、新型コロナウイルス感染症の影響やリモートワークの加速やデジタルワークへの移行により変化する、これからの働き方とオフィスのあり方を示すコンセプトブック「Work Transformation（ワーク・トランスフォーメーション）」を公開、合わせて、コクヨ社員が解説・議論するオンラインセミナーも開催しました。

コンセプトブックでは、新しい働き方を推進するテーマや視点、感染拡大防止、そしてオフィスづくりで考えるべき課題や可能性など、コクヨが考えるこれからの働き方とオフィスをまとめました。



社員の健康を守るだけでなく、オフィスという共有空間を通して、社会の一員として安全な環境づくりを推進に努めてまいります。

[「Work Transformation」 ホームページ >](#)

## spacemotio社とともに、オフィスや複合ビルの防災提案連携を開始

9月、spacemotio株式会社とともに防災に関するソリューション提案連携を開始しました。水やトイレなどを収納したコクヨのエレベーター用防災キャビネット「エレキャビ」と、spacemotio社のエレベーター内プロジェクターコンテンツ「エレシネマ」が連携し、エレベーター利用者向けの安心安全と利便性向上を提供します。オフィスビルや複合ビル等の価値創造をサポートするとともに、新しいソリューションの企画開発や提案強化に取り組んでまいります。



エレベーターに設置された「エレキャビ」と「エレシネマ」

## <ユニークな文具・新しい学びの場を支える>

### “スタメン文具”を見せて楽しむツールペンケース「ピープ」発売

2020年7月8日、インナーケース付きの二重構造透明ペンケース「ピープ」を発売。中身が見える透明フロントポケットには使用頻度が高く見た目もお気に入りの「見せたい」文具を、インナーケースには機能性重視の「隠したい」文具を収容できます。インナーケースにはメインスペースの他に小物ポケットが4つついており、埋もれやすい小物類も分けて整とんできます。



近年は、機能だけでなく色や形にもこだわって集めたお気に入りの「スタメン文具」をSNSに投稿したり、勉強の様子を写真付きで共有したりする中高生が多く、学びのモチベーションアップにもつながっています。

[「ツールペンケース<ピープ>」 ホームページ >](#)

### SNSで大反響、1本2役のマーキングペン「マークタス」2商品を発売

2月、9月、ノートにまとまり感がでる2色とペン先を組み合わせたマーキングペン「マークタス」2タイプを発売しました。

- ・「マークタス」2トーンカラー（2月発売）：2色を1つのペン先に備えたマーカー。見やすくまとまり感のでる組み合わせを採用、色で差を付けます。文具女子博2019で先行発売され、SNSで大反響を頂いた商品です。
- ・「マークタス」2ウェイカラー（9月発売）：ラインマーカーと、書き込みに便利な0.3mmの極細ペンが一つになった2ウェイ仕様。異なるインクを採用し、極細ペンの上にラインマーカーを重ねて使っても下の文字が読みやすくなっています。

[「マークタス」 ホームページ >](#)



2トーンカラーマーカー



2ウェイカラーマーカー

## 教育施設用家具「タブレット・PC充電保管庫」を新発売

2020年9月、「GIGAスクール構想※」に対応した教育施設用家具「タブレット・PC充電保管庫」を発売しました。「タブレット・PC充電保管庫」は、全国の小中学校・特別支援学校でPCや校内LANの導入等、ICT環境の整備が進んでいることを受けて開発された新商品。コンパクトで使いやすい設計が特徴で、クラスの生徒数や学校ごとの設置条件に合わせて最適な収納量を選べる3タイプを用意。保管中に各端末を充電できるといった特長を備え、新しい学習環境に対応しています。

※ 2019年12月より文部科学省が推進する施策で、義務教育を受ける全国の児童生徒のための1人1台の学習用PC端末や高速ネットワーク環境等の整備計画

[「GIGAスクール構想 標準仕様対応品タブレットPC充電保管庫（電源キャビネット）」ホームページ](#) >



44台収納・キャスター付きタイプ

## 「キャンパス プリントファイル（見開きワイドポケットタイプ）」を発売

2020年12月9日、小学生のプリントや配布物を入れて”しっかり持ち帰る”をサポートする、1ポケット仕様の「キャンパス プリントファイル(見開きワイドポケットタイプ)」を発売しました。

近年、アクティブラーニング型授業の増加、板書時間の削減による授業の効率化に伴い、プリントの使用が増加。丈夫な表紙でプリントの折れ曲りや傷みを防ぎ、脱落防止ストッパーがプリントの飛び出しを防止。さらに付属のプリント置き場シールで、「忘れず親に渡す」習慣づくりをサポートします。

[「キャンパス プリントファイル（見開きワイドポケットタイプ）」ホームページ](#) >



キャンパス プリントファイル  
(見開きワイドポケットタイプ)

## カウネット「テレワークバッグ/フリーアドレスバッグ」を発売

2020年6月9日、カウネットが発売するオリジナル商品「カウコレ」プレミアムの新商品として、「テレワークバッグ/フリーアドレスバッグ」を発売。テレワークやフリーアドレスなど新しい働き方で生じる、スペース確保や整理に関するお困りごとから開発されました。

バッグがL字型に展開・自立することで、小物を広げながらも周囲との境界や距離感も生まれ、安心して作業に取り組むことができます。スマートフォンを立てるタグがついています。

「テレワークバッグ」はビジネスバッグに入るコンパクトなサイズ、「フリーアドレスバッグ」はノートPCも収納できるサイズです。

[「テレワークバッグ」](#) ☒

[「フリーアドレスバッグ」](#) ☒



テレワークバッグ



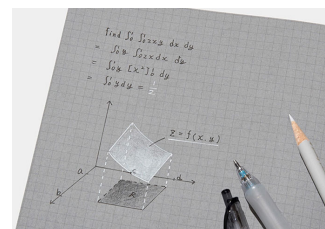
フリーアドレスバッグ

## <その他、新たな取り組み>

### コクヨデザインアワード2018優秀賞を受賞作品「白と黒で書くノート」を商品化・発売

コクヨデザインアワード2018 優秀賞受賞作品「白と黒で書くノート」を商品化、2020年6月25日より販売開始しました。灰色の紙に黒と白の文字を書く「白と黒で書くノート」は、紙の色に対して暗い色の文字と明るい色の文字は同時に読みにくいという、「視覚が持つ性質」を利用したノートで、新しい使い心地を提案したことで同アワードで高い評価を受けました。ライフスタイルショップ&カフェ「THINK OF THINGS」、コクヨ公式オンラインショップ「コクヨショーケース」にて販売、メディアやSNSでも話題となり好評を頂いています。

[「コクヨデザインアワード 白と黒で書くノート」ホームページ](#) >



白と黒で書くノート



## 「性別欄のない履歴書」を発売

2020年12月23日、多様な個性の尊重を求める声が高まっていることを受け、性別欄のない履歴書を発売。本商品を発売することで、お客様の履歴書選びの選択肢を増やすことを目指します。B5判（のりのいらぬ粘着テープ付きの小型封筒3枚付き）、A4判（履歴書を折りたたまずに封入できる大型封筒3枚付き）の2品番です。

「履歴書用紙」 [👉](#)



履歴書用紙（性別欄なし）

## 企業・自治体と共に多様な働き方を目指すプラットフォーム構想「LivingAnywhere WORK」に参画

働き方の多様性を目指し「LivingAnywhere WORK（※1）」に9月より参画。加入企業間での情報共有や、ワークプレイスシェアなどの働く環境の柔軟化実験を通し、働き方改革への取り組みを深めてまいります。

※1 株式会社LIFULLが運営する「LivingAnywhere Commons（※2）」事業をもとに、企業や自治体などの有志団体によって自社オフィスや全国各地に拠点を整備・シェアし合うプラットフォーム構想。

※2 場所やライフライン、仕事など、あらゆる制約にしばられることなく、好きな場所でやりたいことをしながら暮らす生き方（LivingAnywhere）をともに実践することを目的としたコミュニティ



「LivingAnywhere WORK」

「LivingAnywhere WORK」ホームページ [👉](#)

## カウネット新ショールーム「Kau-Box（カウボックス）」オープン

2020年10月1日、株式会社カウネットの新ショールーム「Kau-Box(カウボックス)」が、コクヨ東京品川オフィス1階にオープン。オリジナル商品「カウコレ」プレミアムを中心としたオフィス用品やオフィス家具の展示、レイアウト相談も行っています。一般の方にもお越しただけ(事前予約制)、名称・ロゴには「新たなアイデアやヒントが生まれる箱にしたい」という思いが込められています。

「カウボックス」ホームページ [👉](#)



## <オンラインでの販売や情報発信の強化>

### コクヨの公式直販ECサイト「KOKUYO Workstyle Shop」オープン

2020年11月30日、コクヨの公式直販ECサイト「KOKUYO Workstyle Shop」がオープン。回転イスのing(イング)チェアなどの人気商品をはじめ、約4,000アイテムを個人で購入できます。生活全般にコクヨのアイテムを活用いただき、「ON/OFFの両立」を実現した、より良い生活をサポートしていただけるよう、新たな価値を直接お届けいたします。

在宅勤務の普及に伴う自宅での「働く環境」の構築にとどまらず、「暮らしの環境」を整えるためのアイテムも充実。商品・サービスを通して“Quality of Lifeの向上”を目指します。

「KOKUYO Workstyle Shop」ホームページ [👉](#)



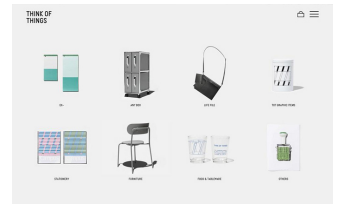
KOKUYO Workstyle Shop



## 「THINK OF THINGS」公式オンラインショップがオープン

2020年9月29日、コクヨが運営する東京・原宿のショップ&カフェ「THINK OF THINGS」の公式オンラインショップがオープン。オリジナル商品やコクヨの定番品など約160品番を取り扱います。図鑑をイメージしたサイトデザインで、商品サイズや価格、特徴や背景などの情報を掲載。今後も実店舗・オンラインショップ双方の魅力を生かし連携させながら、商品・企画を通して新しい暮らし方や働き方を提案して参ります。

[「THINK OF THINGS 公式オンラインショップ」](#)



公式オンラインショップ画面

## 総務系コミュニティサイト「総務の森」に無料コンテンツ「経営ノウハウの泉」オープン

2020年8月26日、「総務の森（※）」無料コンテンツ「経営ノウハウの泉（powered by 総務の森）」を新設。経営課題に関して日頃から相談先の少ない中小企業をターゲットに時事コラムやインタビュー、用語解説、資料提供などお役立ち情報をお届けします。

新型コロナウイルス感染症の影響拡大による、経済活動収縮の長期化を見据えた対策が必要となるなか、新たな働き方のノウハウを提供するほか、経営に関する悩みを会員間や専門家と相談できるQ&Aコミュニティも無償公開。合わせて、グループ会社であるカウネットの新サービスとして、生産性や経営力アップの推進力となる「カウネットクラウドサービス」を提供します。

※ 総務、人事、経理、法務に関わる実務担当者のお悩みを解決する日本最大級の総務系コミュニティサイト。2007年よりコクヨグループが運営し、企業実務に関する相談を約6万スレッド公開。月間80万利用ユーザーに加え社会保険労務士や税理士など500名近い専門家会員がおり、専門家を探すことも可能。

[「経営ノウハウの泉」ホームページ](#)

[「総務の森」ホームページ](#)

[「カウネットクラウドサービス」ホームページ](#)

## 経営ノウハウの泉 Powered by 総務の森



「経営ノウハウの泉」画面イメージ

❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に 取り組む領域	❖コクヨの取り組みと、 その歩み	❖未来と社会のための 取り組み	❖コクヨのさまざまな 取り組み	❖2020年 コクヨの 取り組みのご紹介	❖トップメッセージ
❖コクヨのCSR	❖コクヨの マテリアリティ	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

～ガバナンス～

## コンプライアンスの推進

### 考え方

コクヨグループは、事業活動を行っていくうえで、商品の品質、取引関連、環境、労務、安全衛生、会計基準や税務などにおいて様々な法規制の適用を受けています。法規制を遵守し、社会倫理に従って企業活動を行うために、社員一人ひとりが遵守すべき「コクヨグループ行動基準」を制定し、その浸透を図ることでコンプライアンス体制の構築とその遵守に努めております。

コクヨグループ行動基準 [☞](#)

### しくみ

#### 内部通報制度「コクヨグループホットライン」の運用

コンプライアンスや企業倫理に関する問題で、職場内では相談・解決し難いものについて相談できる窓口として「コクヨグループホットライン」を設置しています。日本国内だけでなく、海外拠点におけるコクヨグループ社員も利用できるグローバル対応の制度として、運用を行っています。

#### 理解・浸透のための社員教育

- ・コンプライアンス全般に関する研修やeラーニング
- ・談合防止に関するeラーニングやディスカッション研修
- ・建設業に関するeラーニング

#### 2020年度の取り組み

##### リスク認識力向上を目指し、「コンプラマガジン」創刊

2020年12月、コンプライアンスの意味を正しく理解し、身の回りの出来事からリスクに気づく力「リスク認識力」強化を目指し、「コンプラマガジン」を創刊、社内ポータルやメールで配信しています。毎月、実際に起きそうな出来事、報道等で話題の事件などをイラスト付きでわかりやすく紹介。社員一人ひとりが常にコンプライアンスを守りながら業務を遂行できるよう、まずは「コンプラマガジン」を気づきのきっかけとして、リスク認識力を高めて参ります。

～ガバナンス～

## リスクマネジメント

### 考え方

2015年の経営統合を機に、コクヨグループ全体でのリスクマネジメントを推進する組織を立ち上げ、取り組みを開始しました。この取り組みで目指したことは、グループ視点によるリスクマネジメントサイクルを確立させること。まず、「コクヨグループ全体にどのようなリスクが存在するのか改めて認識する」ことから始まり、優先順位付けや対応の方針を全社最適で検討し、対応の推進を行いました。今後は、これらの取り組みの中で特に重要と位置づけられたテーマや、組織全体に関わるテーマを明確にし、グループ全体での取り組みをさらに進め、リスクマネジメントの有効性と効率性を高めることを目指します。

※ 関連情報：「事業等のリスク」

### しくみ

#### 知的財産権の管理に関する取り組み

競合他社との差別化を図るための戦略の一つとして、知的財産権の取得を推奨し、同時に他社の知的財産権を尊重すべく、下記の取り組みを行っています。

##### 1) 知的財産権管理・運用体制

国内及び国外子会社及び関連会社の知的財産にかかる業務を法務部知的財産グループにおいて一括管理し知的財産権活用及び戦略の標準化及び一元化を目指しています。

同グループにおいて、発明・デザイン・商標の権利化業務、他社の知的財産権の侵害を防ぐべく徹底した事前調査の遂行、当社が保有する知的財産権保護のための日常的な他社製品のモニタリングに加え、他社と争いが生じた場合には、マネジメントとの連携のもと、迅速かつ最適な解決を目指し対応しています。

##### 2) 知的財産権の保護及び法令遵守

「コクヨグループ行動基準」において、他社の知的財産権を尊重することを規定するとともに、知的財産グループにおいて、他社の権利の侵害を予防・回避すべく、他社の権利の調査・分析・精査を行う体制を確立・運営しています。また、開発部門に対し、随時研修や日常の業務を通じて、他社の知的財産権尊重及び法令遵守意識向上のための啓発活動を行っています。

##### 3) 知的財産権の創造・活用の推進

知的財産グループと開発部門は、開発の初期段階から密接な連携を図ることにより、市場での当社製品の優位性の向上を目指すべく、競合他社製品との差別化に貢献する発明の創造と発掘に邁進しています。また、特許法第35条の趣旨に添うべく、職務発明報奨制度を社内規定として定め、顧客満足度の向上と当社の発展に資する発明を奨励しています。

#### 情報セキュリティに関する取り組み

情報セキュリティ管理体制を構築し、関連する法令等の遵守および事業を進める上で保有する機密情報（顧客情報、個人情報等）の安全管理に取り組んでいます。

- 1) 情報セキュリティに関する法令・その他の規範を遵守します。
- 2) 個人情報については、コクヨグループの定めている「個人情報保護方針」に準じて管理します。
- 3) 情報資産に対する不正アクセス・情報資産の紛失・改ざん・漏洩などを防止するため、適切な安全対策を講じます。
- 4) 情報資産の管理・利用に関する規定・ルールの策定と見直し、およびそれらに関する社員への教育を継続的に実施します。
- 5) 情報セキュリティに関する管理体制および取り組みについて継続的な点検と改善を実施します。

## BCP（※）（事業継続計画）の策定

コクヨグループでは自然災害などにより工場やオフィスの機能に被害が生じた場合を想定し、安定的に商品供給を実現するためのBCP(事業継続計画)を策定し継続的な見直しを行っています。

また、近年増加傾向にある甚大な事業活動の中断を招くとされる地震、風水害、火災、感染症についても、初動対応を適切に実施して被害を最小化することが事業継続において重要となることを再認識し、災害（緊急事態含む）の種類ごとに初動対応のポイントおよび初動対応フローを中心に社員ひとり一人が早め早めの命を守る行動が取れるよう事前対策の改良を進めています。

※ BCP : Business continuity planning = 事業継続計画

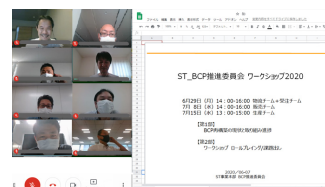


東京消防庁の最新起震車によって東日本大震災時の震度7を体験

## 2020年の取り組み

### ステーションナリー事業関連部門「BCPワークショップ2020」を実施

ステーションナリー事業本部の関連7部門が参加する「BCP推進委員会」では、「BCPワークショップ」を年1回開催しています。20年度は6月～8月にかけて4回、リモートで実施されました。今回は「事業継続／復旧フェーズ」に焦点をあて、在宅勤務での手順と課題の確認、風水害に備えた行動計画のブラッシュアップなどを実施し、①直近1年間で起きた地震、風水害のインシデント(事故などの危難が発生する恐れのある事態)の振り返り②BCP活動の改善点の検討と確認を行ないました。今後もBCP活動のアップデートを続けてまいります。



リモートで実施する様子

❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に 取り組む領域	❖コクヨの取り組みと、 その歩み	❖未来と社会のための 取り組み	❖コクヨのさまざまな 取り組み	❖2020年 コクヨの 取り組みのご紹介	❖トップメッセージ
❖コクヨのCSR	❖コクヨの マテリアリティ	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

## 社外からの評価

### 格付けや評価

評価名	発表時期	評価
Sustainalytics ESG Risk Rating	2021年4月	Low Risk
CSR企業ランキング2021 (東洋経済新報社)	2021年3月	総合順位 267位
CDP2020	2020年12月	気候変動 B- (Management) 森林 C (Awareness)
MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)	2020年12月	組入銘柄に選定
第2回日経「SDGs経営」調査 (日本経済新聞社)	2020年11月	偏差値：58.4
		3.5/5段階中
第4回日経「スマートワーク経営」調査 (日本経済新聞社)	2020年11月	偏差値：59.8
		3.5/5段階中
FTSE ESG Rating 2020	2020年7月	2.4 (E:2.8 S:1.7 G:2.9)
MSCI ESG Rating 2020	2020年12月	AA
SNAMサステナビリティ・インデックス (SOMPOアセットマネジメント)	2020年6月	総合スコア：167.2 (E:60.6 S:53.3 G:53.3)
S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数	2020年6月	十分位数分類：9

### 「健康経営優良法人2020(ホワイト500)」、「健康経営優良法人2020(大規模法人部門)」に認定

2020年3月2日、コクヨとカウネットが経済産業省と日本健康会議が共同で選出する「健康経営優良法人2020(ホワイト500)」に、コクヨマーケティングが「健康経営優良法人」に認定されました。健康経営優良法人認定制度は、特に優良な健康経営を実践している法人を顕彰する制度。コクヨグループでは、昨年10月に制定した「コクヨ健康経営宣言」に基づき、今後さらに健康増進の取り組みを進めてまいります。



### 「結の森プロジェクト」が2020年度持続可能な社会づくり活動表彰 機構会長賞を受賞

2020年11月、CSR活動「結の森プロジェクト」が公益社団法人環境生活文化機構主催の「持続可能な社会づくり活動表彰」において、「機構会長賞」を受賞。「森林保全に留まらない、間伐材を商材として活用し経済活性という波及効果を考えられた活動」として、審査委員より高く評価されました。

「結の森プロジェクト」 [👉](#)  
「持続可能な社会づくり活動表彰」公式Webサイト [👉](#)



授賞の様子



## 「結の森プロジェクト」が第18回企業フィランソロピー大賞の企業フィランソロピー賞「森林の守り人賞」を受賞

2020年12月、CSR活動「結の森（ゆいのもり）プロジェクト」が第18回企業フィランソロピー大賞の企業フィランソロピー賞「森林の守り人賞」を受賞。「『人工林の再生』と『自然環境と地域社会の再生』」をテーマに、間伐材の有効活用を中心とした森林保全を行っており、コクヨの商品開発や営業に携わる従業員や高知県立四万十高等学校の生徒がモニタリング調査に参加するなど多様な人の参加を促進しながら持続可能な仕組みづくりに挑戦している。環境保全と地域経済活性化の相乗効果をねらう取り組みを高く評価したい。」として、審査委員より評価されました。

「結の森プロジェクト」 [☞](#)

「第18回企業フィランソロピー大賞」公式Webサイト [☞](#)



賞状贈呈の様子

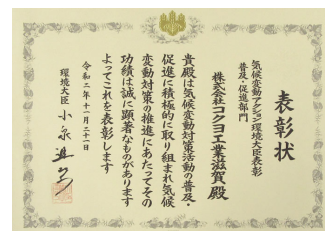
## リエデンプロジェクトの活動が令和2年度気候変動アクション環境大臣表彰を受賞

2007年より進めてきたリエデンプロジェクトは、これまで10年以上にわたり、ヨシ原保全活動と新しいヨシ活用の実践を続けて参りました。取り組んできたヨシ原保全活動の継続と、その成果の新たな算出方法として、産学官の協力の下、ヨシの炭素回収量を数値で表す手法を構築し、「ヨシ刈り活動によるCO<sub>2</sub>回収量の算出ツール」として滋賀県ホームページで公開するに至りました。

こうしたヨシ原保全活動を通じた低炭素社会づくりへの挑戦が評価され、今回の受賞へとつながりました。

■令和2年度 気候変動アクション環境大臣表彰HP [☞](#)

■「ヨシ刈り活動による、CO<sub>2</sub>回収量の算出ツール」 [☞](#)



## その他の受賞

### コクヨ8商品が「2020年度グッドデザイン賞」を受賞

マーキングペン「マークタス」やタスクチェア「FABRE(ファブレ)」、ラウンジチェア「SETTLE(セトル)」など、コクヨの8商品が2020年度グッドデザイン賞を受賞。このうち特に高く評価された「グッドデザイン・ベスト100」には、「居心地の良い空間を、誰でもかんたんに」がコンセプトのブランド「DAYS OFFICE(デイズオフィス)」に新たに仲間入りした、スタッキングチェア「stock stack(ストックスタック)」が選出されました。

<選出商品>

■スタッキングチェア「stock stack(ストックスタック)」 [☞](#)

■マーキングペン「マークタス 2トーンカラーマーカー/2ウェイカラーマーカー」 [☞](#)

■タスクチェア「FABRE(ファブレ)」 [☞](#)

■ラウンジチェア「SETTLE(セトル)」 [☞](#)

■軽量チェア「KATE(ケイト)」 [☞](#)

■スタジアムチェア「Centura(センチュラ)」 [☞](#)

■シェルフシリーズ「JUKE(ジューク)」 [☞](#)

■ソロワークブース「dop(ドップ)」 [☞](#)



スタッキングチェア「stock stack (ストックスタック)」

### 新築マンション内のワーキングラウンジがグッドデザイン賞受賞

コクヨのインハウスデザインスタジオ「YOHAKU DESIGN STUDIO」とファニチャー事業本部が手掛けた、マンション内ワーキングラウンジ「ザ・ルーフ」が、2020年度グッドデザイン賞を受賞しました。竣工前のグッドデザイン賞受賞は大変珍しく、業界内外で注目を集めています。

「ザ・ルーフ」は21年春竣工の新築分譲マンション「ルネ横浜戸塚」に設けられ、コロナ禍における働き方の変化を受けて共働き世代の働き方・学び方にフォーカス。予約制の個別ブースやリフレッシュエリアなどの多彩な空間、充実したネットワーク環境が魅力です。

※ YOHAKU DESIGN STUDIO: コクヨのインハウスクリエイターによるデザインスタジオ。原宿に位置し、同建物内のショップ&カフェ「THINK OF THINGS」や多目的スペース「TOT STUDIO」企画・運営しながら、既存の領域にとらわれない国内外のクリエイティブ・プロジェクトを手がけています。



ワーキングラウンジ「ザ・ルーフ」

## しゅくだいやる気ペン「第14回キッズデザイン賞」受賞

家庭学習の習慣化をサポートする新しいコンセプトのIoT文具「しゅくだいやる気ペン」が「第14回キッズデザイン賞(※)」を受賞しました。子どもの努力が可視化され、やる気と親の褒める行為の両立できるIoT仕様の新時代の文具である点、開発プロセスなどが評価され「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門」の受賞となりました。

「しゅくだいやる気ペン」ホームページ [☞](#)

※「子どもたちが安全に暮らす」「子どもたちが感性や創造性豊かに育つ」「子どもを産み育てやすい社会をつくる」目的を満たす、製品・空間・サービス・活動・研究の中から、子どもや子育てに関わる社会課題解決に取り組む優れた作品を顕彰



しゅくだいやる気ペンとキッズデザイン賞ロゴ

## しゅくだいやる気ペン「Impress DX Awards 2019」準グランプリ受賞

家庭学習の習慣化をサポートする新しいコンセプトのIoT文具「しゅくだいやる気ペン」が「Impress DX Awards 2019(※)」(エッジコンピューティング&デバイス部門)において準グランプリを受賞。「子どものやる気を引き出し継続して学習するための仕組みを実現している」「保護者にも褒めるきっかけを与えるなどで円滑な親子のコミュニケーションの創出が期待できる」などの点で評価をされました。

「しゅくだいやる気ペン」ホームページ [☞](#)

※「Impress DX Awards」は株式会社インプレスが主催する「より良い未来の創造」に向けた表彰制度。デジタルテクノロジーを使った従来の枠組みにとらわれないアイデアや取り組み、製品/サービスを対象に、5部門7カテゴリーを表彰



しゅくだいやる気ペンとImpress DX Awardsロゴ

## コクヨ3商品が「JIDAデザインミュージアムセレクション」に選定

コクヨの3商品が、公益社団法人日本インダストリアルデザイナー協会による「JIDAデザインミュージアムセレクション vol.22」に選定されました。

<選定3商品>

- 「白と黒で書くノート」灰色の紙に黒と白の文字を書けることが特長のノート [☞](#)
- 「Any (エニー)」ワークエリアでもカジュアルな空間でも対応可能な会議イス [☞](#)
- 「WORK POD (ワークポッド)」Web会議や集中作業に適し、換気に配慮したクローズド環境を構築できる建材製品 [☞](#)



選定3商品のうちのひとつ、「白と黒で書くノート」

## ドイツの「iF デザインアワード 2020」で会議用イス2製品が受賞

会議用イス「Any(エニー)」と「All in One(オールインワン)」が、ドイツの「iF デザインアワード 2020(※)」のiFデザイン賞(プロダクト部門/オフィス)を受賞。世界56カ国からの7,298点の応募のなかで選出されました。

※ドイツで1953年に創設され、半世紀以上の歴史を持つ世界的に権威あるデザイン賞

- 「Any (エニー)」ホームページ [☞](#)
- 「All in One (オールインワン)」ホームページ [☞](#)



Any (エニー)



All in One (オールインワン)

## 「オルガテック 2018」出展のkokuyoブースが海外デザインアワード5つに入賞

kokuyoは、2018年10月にドイツで開催された家具見本市「オルガテック 2018(※)」に出展。その際の「360° グライディングチェアー “ing” プレゼンテーションブース」が、ドイツを中心とした、5つの海外の権威あるデザインアワードに入賞しました。

入賞したアワードの一覧

1. 「FRAME AWARD Orgatec」(オランダ)：照明部門 (Winner)、スタンド部門 (Winner)
2. 「iF デザイン賞」(ドイツ)：Interior Architecture (Winner)
3. 「German Design Award」(ドイツ)：IExcellent Architecture Fair and Exhibition (Winner)
4. 「Reddot Award」(ドイツ)：IBrands&Communication design 2019 (Winner)
5. 「ICONIC AWARDS」(ドイツ)：IInnovative Architecture (Winner)



360° グライディングチェアー  
“ing” プレゼンテーションブース

## kokuyoインハウスデザイナーのアートディレクション5作品が『Graphic Design In Japan』に掲載

kokuyoのインハウスデザイナーが手掛ける「THINK OF THINGS」企画のアートディレクション5作品が、アジア最大級のデザイン団体である日本グラフィックデザイナー協会発行の年鑑『Graphic Design In Japan』に掲載されました。

<掲載作品>

- 「KOKUYO STANDARDS BY THINK OF THINGS @森岡書店」(複合部門) THINK OF THINGSの展示会
- THINK OF THINGSの周年記念ポスター (ポスター部門)
- “REARRANGEMENT OF DOCUMENT BOXES” (ジェネラルグラフィック部門) 竹尾社主催の展示会「KI・HOU・SHI Tactile×Visual 触覚×視覚」出品作品
- 「東京の、あたらしいページをひらこう。」(インタラクティブデザイン部門) kokuyo東京2020オフィシャルサポーターページ
- 「東京の、あたらしいページをひらこう。」(映像部門) kokuyo東京2020オフィシャルサポーター映像



『Graphic Design In Japan』に見開きで掲載されている、THINK OF THINGSの展示会「KOKUYO STANDARDS BY THINK OF THINGS @森岡書店」

# 「CSR報告書2020」アンケート結果

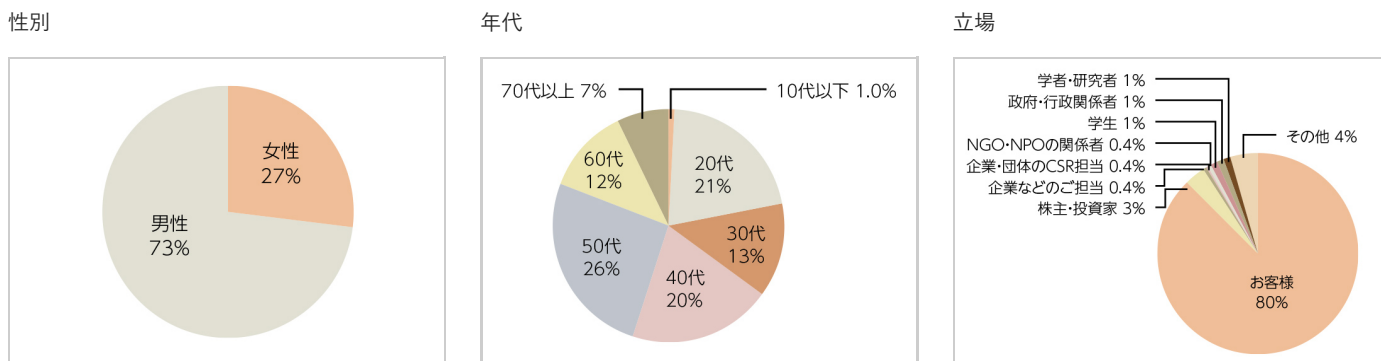
2020年8月、一般のモニター、および取引先のみなさまに、コクヨのCSR活動に関するアンケート調査を実施させていただきました。以下の通り、アンケート結果の一部を報告いたします。

また、今年度はこの調査結果をインプットの一部として活用し、コクヨのマテリアリティを決定いたしました。

(詳細は「コクヨのマテリアリティ」をご確認ください。)

このたびはアンケートのご回答にご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。ご協力誠にありがとうございました。

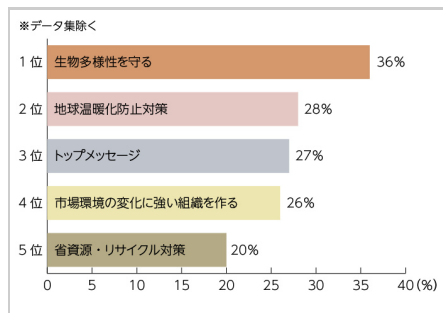
## アンケートにご回答いただいた方の属性 有効回答数：245件



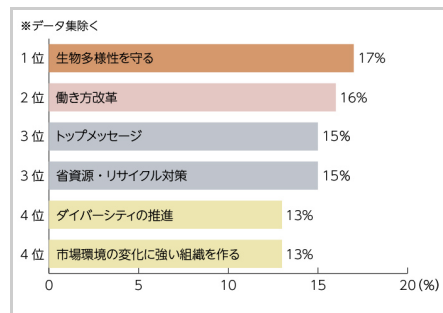
## アンケート結果

※一人当たり3項目を回答

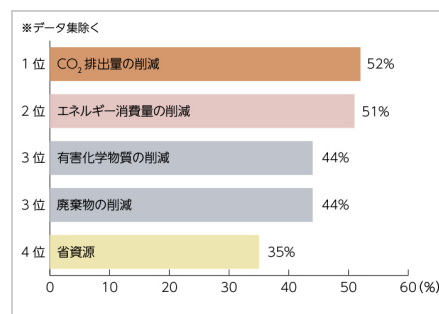
「印象に残った項目・興味を持った項目」



「情報開示に改善が必要だと感じた項目」



「解決に向けた取組みを期待する」社会課題について



❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨが主に 取り組む領域	❖コクヨの取り組みと、 その歩み	❖未来と社会のための 取り組み	❖コクヨのさまざまな 取り組み	❖2020年 コクヨの 取り組みのご紹介	❖トップメッセージ
❖コクヨのCSR	❖コクヨの マテリアリティ	❖環境	❖社会	❖ガバナンス	❖社外からの評価	❖対照表	

# 対照表


## GRI Standards対照表

指標	コア 設問	Standards	GRI Standards 設問	該当ページ
一般開示項目				
102：一般開示項目				
1. 組織のプロフィール	○	102-1	組織の名称	基本情報 >
	○	102-2	活動、ブランド、製品、サービス	事業概要 >
	○	102-3	組織の本社の所在地	基本情報 >
	○	102-4	事業所の所在地	グループ一覧 >
	○	102-5	所有形態および法人格	基本情報 >
	○	102-6	参入市場	事業概要 >
	○	102-7	組織の規模	基本情報 >
				グループ一覧 >
				業績ハイライト >
				財政状況 >
	○	102-8	従業員およびその他の労働者に関する情報	データ編 社会 >
	○	102-9	サプライチェーン	取引先との取り組み >
	○	102-10	組織およびそのサプライチェーンに関する重大な変化	
○	102-11	予防原則または予防的アプローチ	社員の安全 > リスクマネジメント >	
○	102-12	外部イニシアティブ	外部からの表彰・評価 >	
○	102-13	団体の会員資格		
2. 戦略	○	102-14	上級意思決定者の声明	トップメッセージ >
		102-15	重要なインパクト、リスク、機会	有価証券報告書 p12  (568KB) 事業などのリスク >
3. 倫理と誠実性	○	102-16	価値観、理念、行動基準・規範	企業理念 > コクヨCSR憲章 > コクヨグループ行動基準 >




指標	コア設問	Standards	GRI Standards 設問	該当ページ
		102-17	倫理に関する助言および懸念のための制度	有価証券報告書 p29 <a href="#">📄</a> (568KB)
4. ガバナンス	○	102-18	ガバナンス構造	コーポレートガバナンス >
		102-19	権限移譲	
		102-20	経済、環境、社会項目に関する役員レベルの責任	
		102-21	経済、環境、社会項目に関するステークホルダーとの協議	
		102-22	最高ガバナンス機関およびその委員会の構成	有価証券報告書 p27 <a href="#">📄</a> (568KB)
		102-23	最高ガバナンス機関の議長	有価証券報告書 p27 <a href="#">📄</a> (568KB)
		102-24	最高ガバナンス機関の指名と選出	
		102-25	利益相反	
		102-26	目的、価値観、戦略の設定における最高ガバナンス機関の役割	
		102-27	最高ガバナンス機関の集合的知見	
		102-28	最高ガバナンス機関のパフォーマンスの評価	
		102-29	経済、環境、社会へのインパクトの特定とマネジメント	有価証券報告書 p12、27 <a href="#">📄</a> (568KB)
		102-30	リスクマネジメント・プロセスの有効性	
		102-31	経済、環境、社会項目のレビュー	
		102-32	サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	
		102-33	重大な懸念事項の伝達	
		102-34	伝達された重大な懸念事項の性質と総数	
		102-35	報酬方針	有価証券報告書 p41 <a href="#">📄</a> (568KB)
		102-36	報酬の決定プロセス	有価証券報告書 p41 <a href="#">📄</a> (568KB)
		102-37	報酬に関するステークホルダーの関与	有価証券報告書 p37 <a href="#">📄</a> (568KB)
	102-38	年間報酬総額の比率		
	102-39	年間報酬総額比率の増加率		
5.	○	102-40	ステークホルダー・グループのリスト	ステークホルダーとの関わり >

指標	コア設問	Standards	GRI Standards 設問	該当ページ
ステークホルダー・エンゲージメント	○	102-41	団体交渉協定	有価証券報告書 p9  (568KB)
	○	102-42	ステークホルダーの特定および選定	ステークホルダーとの関わり >
	○	102-43	ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ方法	ステークホルダーとの関わり > お客様との対話 > 社員とのコミュニケーション > 取引先との取り組み > 社会貢献 > 「CSR報告書2020」アンケート結果 >
	○	102-44	提起された重要な項目および懸念	「CSR報告書2020」アンケート結果 >
6. 報告	○	102-45	連結財務諸表の対象になっている事業体	有価証券報告書 p7  (568KB)
	○	102-46	報告書の内容および項目の該当範囲の確定	
	○	102-47	マテリアルな項目のリスト	コクヨのマテリアリティ >
	○	102-48	情報の再記述	
	○	102-49	報告における変更	
	○	102-50	報告期間	CSRレポート p2  (29.7MB)
	○	102-51	前回発行した報告書の日付	CSRレポート p2  (29.7MB)
	○	102-52	報告サイクル	CSRレポート p2  (29.7MB)
	○	102-53	報告書に関する質問の窓口	報告書に対する問い合わせはこちら >
	○	102-54	GRIスタンダードに準拠した報告であることの主張	
	○	102-55	内容索引	対照表 >
	○	102-56	外部保証	環境経営マネジメントと第三者保証 >
103 : マネジメント手法				
		103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	コクヨのマテリアリティ >
		103-2	マネジメント手法とその要素	コクヨのマテリアリティ >
		103-3	マネジメント手法の評価	コクヨのマテリアリティ >
マテリアルな項目				

指標	コア設問	Standards	GRI Standards 設問	該当ページ
200：経済				
201： 経済パフォーマンス		201-1	創出、分配した直接的経済価値	業績ハイライト >
		201-2	気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	
		201-3	確定給付型年金制度の負担、その他の退職金制度	有価証券報告書 p75  (568KB)
		201-4	政府から受けた資金援助	
202： 地域での存在感		202-1	地域最低賃金に対する標準新人給与の比率（男女別）	
		202-2	地域コミュニティから採用した上級管理職の割合	
203： 間接的な経済的インパクト		203-1	インフラ投資および支援サービス	
		203-2	著しい間接的な経済的インパクト	
204： 調達慣行		204-1	地元サプライヤーへの支出の割合	
205： 腐敗防止		205-1	腐敗に関するリスク評価を行っている事業所	
		205-2	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	
		205-3	確定した腐敗事例と実施した措置	
206： 反競争的行為		206-1	反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により受けた法的措置	
207： 税務		207-1	税務へのアプローチ	
		207-2	ガバナンス、管理、およびリスクマネジメント	
		207-3	税務に関連するステークホルダー・エンゲージメントおよび懸念への対処	
		207-4	国別の報告	
300：環境				
301： 原材料		301-1	使用原材料の重量または体積	環境パフォーマンスデータ >
		301-2	使用したリサイクル材料	環境パフォーマンスデータ >
		301-3	再生利用された製品と梱包材	
302： エネルギー		302-1	組織内のエネルギー消費量	環境パフォーマンスデータ >
		302-2	組織外のエネルギー消費量	環境パフォーマンスデータ >
		302-3	エネルギー原単位	環境パフォーマンスデータ >
		302-4	エネルギー消費量の削減	環境パフォーマンスデータ >

指標	コア設問	Standards	GRI Standards 設問	該当ページ
		302-5	製品およびサービスのエネルギー必要量の削減	
303 : 水と廃水		303-1	共有資源としての水との相互作用	
		303-2	排水に関連するインパクトのマネジメント	
		303-3	取水	拠点別レポート >
		303-4	排水	拠点別レポート >
		303-5	水消費	拠点別レポート >
304 : 生物多様性		304-1	保護地域および保護地域ではないが生物多様性価値の高い地域、もしくはそれらの隣接地域に所有、賃借、管理している事業サイト	結の森 >
				ReEDENプロジェクト >
		304-2	活動、製品、サービスが生物多様性に与える著しいインパクト	
		304-3	生息地の保護・復元	結の森 >
		304-4	事業の影響を受ける地域に生息するIUCNレッドリストならびに国内保全種リスト対象の生物種	
305 : 大気への排出		305-1	直接的な温室効果ガス (GHG) 排出量 (スコープ1)	環境パフォーマンスデータ >
		305-2	間接的な温室効果ガス (GHG) 排出量 (スコープ2)	環境パフォーマンスデータ >
		305-3	その他の間接的な温室効果ガス (GHG) 排出量 (スコープ3)	環境パフォーマンスデータ >
		305-4	温室効果ガス (GHG) 排出原単位	環境パフォーマンスデータ >
		305-5	温室効果ガス (GHG) 排出量の削減	環境パフォーマンスデータ >
		305-6	オゾン層破壊物質 (ODS) の排出量	
		305-7	窒素酸化物 (NOx)、硫黄酸化物 (SOx)、およびその他の重大な大気排出物	環境パフォーマンスデータ >
306 : 排水および廃棄物		306-1	排水の水質および排出先	拠点別レポート >
		306-2	種類別および処分方法別の廃棄物	環境パフォーマンスデータ >
		306-3	重大な漏出	
		306-4	有害廃棄物の輸送	
		306-5	排水や表面流水によって影響を受ける水域	
307 : 環境コンプライアンス		307-1	環境法規制の違反	法遵守と汚染の予防 >
308 :		308-1	環境基準により選定した新規サプライヤー	

指標	コア設問	Standards	GRI Standards 設問	該当ページ
サプライヤーの環境面の アセスメント		308-2	サプライチェーンにおけるマイナスの環境インパクトと実施した措置	
400：社会				
401： 雇用		401-1	従業員の新規雇用と離職	データ編 社会 >
		401-2	正社員には支給され、非正規社員には支給されない手当	
		401-3	育児休暇	データ編 社会 >
402： 労使関係		402-1	事業上の変更に関する最低通知期間	
403： 労働安全衛生		403-1	労働安全衛生マネジメントシステム	社員の安全 > 社員の健康 >
		403-2	危険性(ハザード)の特定、リスク評価、事故調査	
		403-3	労働衛生サービス	
		403-4	労働安全衛生における労働者の参加、協議、コミュニケーション	社員の安全 >
		403-5	労働安全衛生に関する労働者研修	社員の安全 >
		403-6	労働者の健康増進	社員の健康 >
		403-7	ビジネス上の関係で直接結びついた労働安全衛生の影響の防止と緩和	社員の健康 >
		403-8	労働安全衛生マネジメントシステムの対象となる労働者	有価証券報告書 p9  (568KB)
		403-9	労働関連の傷害	データ編 社会 >
		403-10	労働関連の疾病・体調不良	
404： 研修と教育		404-1	従業員一人あたりの年間平均研修時間	
		404-2	従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	人材育成プログラム >
		404-3	業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の割合	
405： ダイバーシティと機会均等		405-1	ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	データ編 社会 >
		405-2	基本給と報酬総額の男女比	
406： 非差別		406-1	差別事例と実施した救済措置	
407： 結社の自由と団体交渉		407-1	結社の自由や団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある事業所およびサプライヤー	



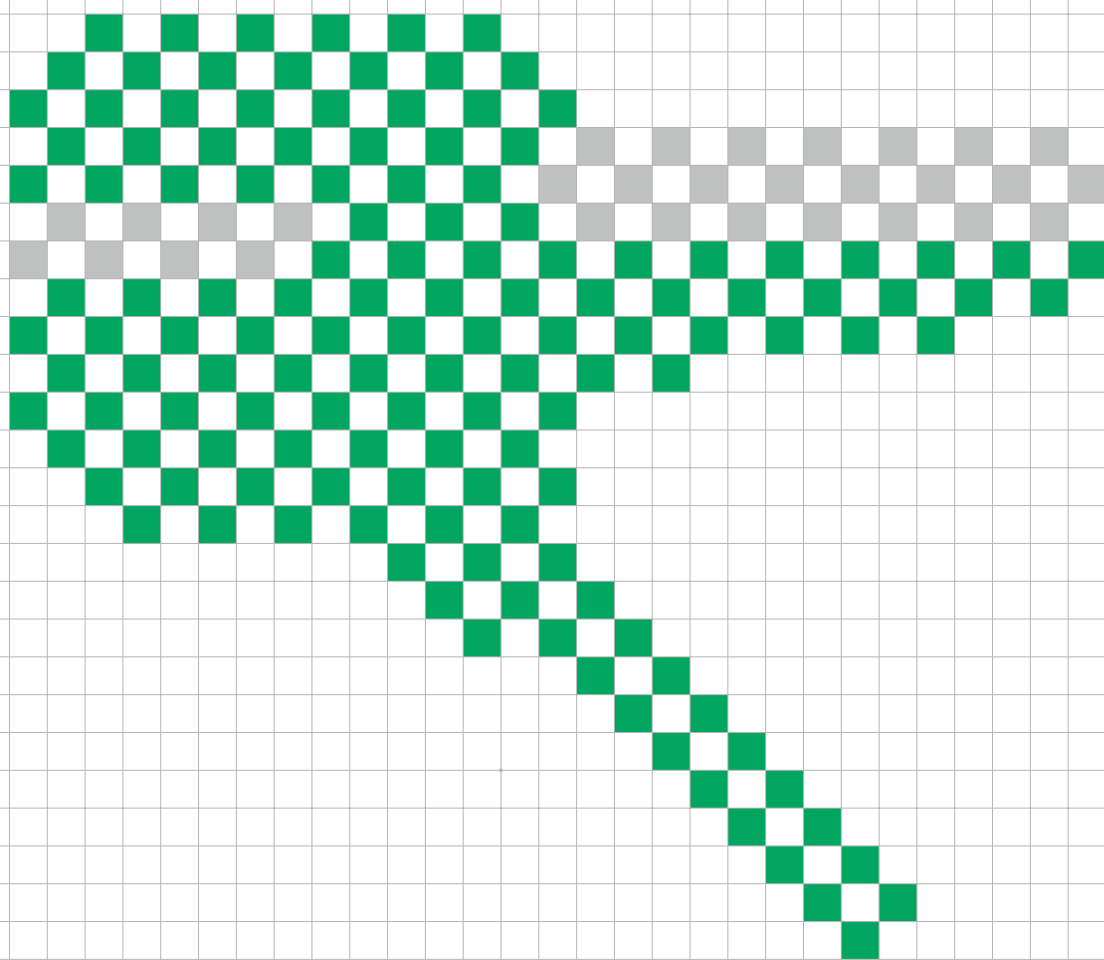
指標	コア設問	Standards	GRI Standards 設問	該当ページ
408 : 児童労働		408-1	児童労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	取引先との取り組み >
409 : 強制労働		409-1	強制労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	取引先との取り組み >
410 : 保安慣行		410-1	人権方針や手順について研修を受けた保安要員	
411 : 先住民の権利		411-1	先住民の権利を侵害した事例	
412 : 人権アセスメント		412-1	人権レビューやインパクト評価の対象とした事業所	
		412-2	人権方針や手順に関する従業員研修	
		412-3	人権条項を含むもしくは人権スクリーニングを受けた重要な投資協定および契約	
413 : 地域コミュニティ		413-1	地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	社会貢献 >
		413-2	地域コミュニティに著しいマイナスのインパクト（顕在的、潜在的）を及ぼす事業所	
414 : サプライヤーの社会面 のアセスメント		414-1	社会的基準により選定した新規サプライヤー	
		414-2	サプライチェーンにおけるマイナスの社会的インパクトと実施した措置	取引先との取り組み >
415 : 公共政策		415-1	政治献金	
416 : 顧客の安全衛生		416-1	製品およびサービスのカテゴリーに対する安全衛生インパクトの評価	文具の品質保証 > 家具の品質保証 > カウネットの品質保証 >
		416-2	製品およびサービスの安全衛生インパクトに関する違反事例	
417 : マーケティングとラベ リング		417-1	製品およびサービスの情報とラベリングに関する要求事項	
		417-2	製品およびサービスの情報とラベリングに関する違反事例	
		417-3	マーケティング・コミュニケーションに関する違反事例	
418 : 顧客プライバシー		418-1	顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して具体化した不服申立	
419 : 社会経済面のコンプライ アンス		419-1	社会経済分野の法規制違反	

# ISO26000

ISO26000の中核主題に基づいて分類し、以下のように掲載しています。

ISO26000 の中核主 題	課題	掲載ページ
組織統治	課題1: 組織統治	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ <a href="#">トップメッセージ</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">コクヨのCSR</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">コーポレートガバナンス</a> &gt;</li> </ul>
人権	課題1: デューデリジェンス 課題2: 人権に関する危機的状況 課題3: 加担の回避 課題4: 苦情解決 課題5: 差別及び社会的弱者 課題6: 市民的及び政治的権利 課題7: 経済的、社会的及び文化的権利 課題8: 労働における基本的原則及び権利	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ <a href="#">コクヨのCSR</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">コクヨCSR憲章</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">コクヨグループ行動基準</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">働き方改革</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">人材マネジメント</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">社員の安全</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">社員の健康</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">人権尊重</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">ダイバーシティ推進</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">取引先との取り組み</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">データ編 社会</a> &gt;</li> </ul>
労働慣行	課題1: 雇用及び雇用関係 課題2: 労働条件及び社会的保護 課題3: 社会対話 課題4: 労働における安全衛生 課題5: 職場における人材育成及び訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ <a href="#">コクヨCSR憲章</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">コクヨグループ行動基準</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">働き方改革</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">人材マネジメント</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">社員の安全</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">社員の健康</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">人権尊重</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">ダイバーシティ推進</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">取引先との取り組み</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">データ編 社会</a> &gt;</li> </ul>
環境	課題1: 汚染の予防 課題2: 持続可能な資源の利用 課題3: 気候変動の緩和及び気候変動への適応 課題4: 環境保護、生物多様性、及び自然生息地の回復	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ <a href="#">コクヨのCSR</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">コクヨCSR憲章</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">コクヨグループ行動基準</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">サプライヤーとの取り組み</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">環境経営マネジメント</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">地球温暖化防止対策</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">省資源・リサイクル対策</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">法順守と汚染の予防</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">環境に配慮した製品・サービスの開発</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">生物多様性への配慮・環境コミュニケーションの推進</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">環境パフォーマンスデータ</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">拠点別レポート</a> &gt;</li> <li>▪ <a href="#">結の森</a> &gt;</li> </ul>

<p>公正な事業慣行</p>	<p>課題1: 汚職防止          課題2: 責任ある政治的関与          課題3: 公正な競争          課題4: バリューチェーンにおける社会的責任の推進          課題5: 財産権の尊重</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ コクヨのCSR &gt;</li> <li>▪ CSR推進体制 &gt;</li> <li>▪ コクヨCSR憲章 &gt;</li> <li>▪ コクヨグループ行動基準 &gt;</li> <li>▪ 取引先との取り組み &gt;</li> <li>▪ コンプライアンスの推進 &gt;</li> <li>▪ リスクマネジメント &gt;</li> </ul>
<p>消費者課題</p>	<p>課題1: 公正なマーケティング、事実に即した偏りのない情報、及び公正な契約慣行          課題2: 消費者の安全衛生の保護          課題3: 持続可能な消費          課題4: 消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決          課題5: 消費者データ保護及びプライバシー          課題6: 必要不可欠なサービスへのアクセス          課題7: 教育及び意識向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ コクヨCSR憲章 &gt;</li> <li>▪ お客様への安心・安全の提供 &gt;</li> <li>▪ 「CSR報告書2020」アンケート結果 &gt;</li> <li>▪ データ編_お客様の声の反映 &gt;</li> <li>▪ 環境に配慮した製品・サービスの開発 &gt;</li> <li>▪ お客様との対話 &gt;</li> </ul>
<p>コミュニティへの参画及びコミュニティの発展</p>	<p>課題1: コミュニティへの参画          課題2: 教育及び文化          課題3: 雇用創出及び技能開発          課題4: 技術の開発及び技術へのアクセス          課題5: 富及び所得の創出          課題6: 健康          課題7: 社会的投資</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ コクヨCSR憲章 &gt;</li> <li>▪ コクヨグループ行動基準 &gt;</li> <li>▪ 新しい価値の提供 &gt;</li> <li>▪ 人材マネジメント &gt;</li> <li>▪ 社会貢献 &gt;</li> <li>▪ 外部からの表彰・評価 &gt;</li> <li>▪ 生物多様性への配慮・環境コミュニケーションの推進 &gt;</li> <li>▪ データ編_社会 &gt;</li> </ul>



**KOKUYO**